禅籍抄物研究（四）

――叡山文庫所蔵史料について（中）――

飯塚大展

はじめに

本稿では、史料調査報告として、叡山文庫所蔵『獨達密参』『宗門密参』[1]、更に道元禅師に擬せられる『仮名見性』を取り上げたい。

前稿で取り上げた叡山文庫所蔵『天真實語集』の特徴は、各種切紙の参が収載されていることにある。[2]切紙は、本文、大事（図）、参（問答形式の商量）から成立しており、[3]切紙自体が本参としての意味を持つことから、初期段階から所謂の「本参（古則公案の集成）」と同様に扱われていたと思われる。『獨達密参』もまた同様の性格を有する本参である。本稿では併せて切紙の参の集成が本参として機能している史料について考察したい。

本参目録に関して言えば、室町時代成立の愛知県渥美町常光寺所蔵『潔堂派参和目録』[4]や、石屋派所伝の、永久文庫所蔵『正法眼蔵抽書梅華嗣書』（永享年間書写）[5]に付載される「本参目録」などに切紙の参が散見される。この傾向は、江戸時代になっても大きく変化しなかったと思われる。例えば永平寺所蔵『吉祥山永平寺総目録』（三位之透参の本参目録）にも、「七種ノ誰」「三宝印」「佛家大事」「家大事」「下火参」等の切紙の参が取り上げられていることからも確認できる。[6]次節において、江戸時代前半における切紙相承の情況を考察しながら、切紙の参の集成について考察してみたい。

一

中世林下曹洞宗における嗣法相続は、大事（参禅）了畢を前提としていた。[7] 少なくとも室町時代以降、室内参禅修行（公案参究）が盛んに行われ、切紙や本参類の相伝が嗣法相続と同時に行われ、あるいはそれこそが嗣法相続そのものと考えられていたとも推定される。この情況は江戸時代前半において、切紙及び本参等の秘密伝授（師資相承）の形骸化を見ることができるが、形式的には一定化していったものと思われる。[8] ここでは、一例として永平寺室中における切紙伝授の情況について取り上げてみたい。

永平寺第三四世馥州高郁（大仙国光禅師、元禄元年〈一六八八〉示寂）が、貞享五年一〇月永平寺退院に際して記録した「伝授室中之物」によれば、永平寺室中において伝授相伝され、室中の参禅箱に収蔵された本参・切紙類が列挙されている。

伝授室中之物

(1)一、御開山御守、後住伝授之時、可拝、箱ニ入、(2)一、伝授古則、入派向上最初ヨリ、十二通之目録、(3)一、三十四関之抄、是ヲ伝法之時、不究者、吾宗之非師家、壹冊在之、(4)一、天童如浄和尚御自筆之仏嗣書之写、本書重而可見、(5)一、明全和尚御自筆之血脈写ヲ、本書重而可見、(6)一、伝授入派、竹篦背触、三位透脱之目録在之、(7)一、過去心字之血脈、一大事因縁渡之、同過去七仏之血脈在之、(8)一、伝授入派、大死底之参禅、諸門派江渡ヲ、(9)一、道場荘厳儀式、(10)一、両家血脈御大事之目録在之、(11)一、伝授之作法、従裏祖之本筋目也、永平寺隠居地ニ置、嫡子一人ニ可付之、(12)一、永平寺参禅之目録、代々在之、渡之、(13)一、宗門二柱、是ヲ仏法之二柱倶云、祖意教意、仏法王之（法脱カ）二柱也、代可秘之、(14)一、催促之切紙、(15)一、居士之嗣書、此内色々ノ切紙倶在リ、壹冊、(16)一、碧岩百則之参、壹冊、(17)一、御開山弁道話小本折本、壹冊、(18)一、法華八巻微妙之参話、壹冊、(19)一、五家宗派之分ヶ、壹冊、(20)一、吉祥参禅入派、竹篦背触、壹冊、光紹改之、(21)一、永平寺本参、壹冊、御州改之、(22)一、伝後之参目録、壹冊、光紹改之、(23)一、三十四関之名目并十則正法眼、御州改之、(24)一、三十四話之抄、同参禅、并切紙、壹冊、御開山以来在之、(25)一、吉祥山諸話頭総目録、壹冊、(26)一、正法眼蔵之内、梅花巻、光紹代、明光院二休大居士日牌ノ砌納之、小本一冊、(27)一、大陽渡浮山

黒狗――底ノ切紙、二十三之内ヨリ在之、(28)一、正法眼蔵抜書、壹冊、(29)一、天童三十四関之名目、壹冊、(30)一、達磨五葉集、壹冊、(31)一、宗門第一ノ書円悟碧岩集、古頌之参話倶ニ在之、三冊、(32)一、永平三位ニ入派、壹冊、竹篦背触也、此類多シ、(33)一、永平独則等参、壹巻、(34)一、仏家大事、壹巻、(35)一、鷲山成道参、壹巻、(36)一、十九代門鶴勧化帳ノ写、一枚、(37)一、嗣法儀式、壹枚、(38)一、守袋図様切紙、壹枚、(39)一、長門龍文寺吉祥山之由来在之、徹翁和尚ヨリ送之者也、此度相渡ス、(40)一、箱入秘伝之参、目録ノ通、嫡嗣ニ渡之、(41)一、室内事伝授之作法、青表紙折本也、光紹改之、(42)一、十八種之剣、(43)一、牌塔伝授之切紙、壹枚、(44)同多子塔前伝付ノ作法、一枚、(45)同拈奪聴之切紙、壹枚、(46)同伝法ノ作法室中秘訣、巻本也、(47)同伝法之作法総目録、巻本也、(48)同開山伝法之作法、二巻、(49)一、太白峰記、壹冊、(50)一、根脚七道ノ抄、壹冊、(51)一、嗣書三段訣、壹冊、(52)一、当山伝法之作法、一枚、紙小結六ツ合、大把ニ成二ツ、(53)同三ツ、合一把ニ成シ一ツ、後住代々可見之、(54)一、古三物、三通、是無用所、

以上

右者、参禅箱之内ニ在之、
右者、皆是不出室中者也、
伝授之時可相渡之者也、

高郁改之

此外方丈主人之左右ニ置之、
本校割ニ在之、
貞享五戊辰、
十月吉日　高郁

(下略)

傍線――を付したものは、永平寺室中において馥州が相伝した切紙であり、伝法に関する切紙が中心であることがわかる。又、一枚（一紙）の切紙の外に、冊子化されているもの（折本、巻子本を含む）が記載されている。

「伝授室中之物」所載の「催促之切紙」について見てみると、馥州が相伝した切紙が、埼玉県寄居市正龍寺に所蔵され

ている。その内容は伝授道場準備のための諸道具品物として品目は二十二種を列記したものである。

催促之切紙

一、承師命而後、一七日之間諸堂巡堂焼香、恭敬禮拜、尊重奉行而三時無懈怠嬾墮、可為慇懃也、其餘祈念勤行、須勇猛精進、而當其夜黄昏以後、整浄衣具威儀、逮夜半深密上方丈者也、此外之儀追而可申進也、

一、嗣書地　壱丈二尺
一、墨　壹挺
一、筆　壹對
一、朱　壹兩
一、剃刀　壹対
一、拝席　壹枚
一、敷布　壹端
一、机　二脚
一、寶鏡　二面
一、蠟燭　二挺
一、沈香　一兩
一、亀鶴燭台　一對
一、香爐香閣　二對
一、打敷　一片
一、根曳松　二本
一、炬松　［長一尺二寸、九所結］　二本
一、浴衣　壹ツ
一、小袖　壹ツ

一、法恩金　　三兩
一、泰叟和尚拝具　　一束一本
一、御影拝具金　　壹兩
一、侍者江　　貳分
已上

伝授供物略先規遣之也

龍州（花押）

正龍寺

これに拠れば、龍州高郁は泰叟派の伝授を受けていたことがわかる。嗣法伝授（伝法）にける一連の儀礼を中心とする切紙の外に、教義問答形式の参が平行して伝授相伝されていた。例えば伝授に必要な嗣書地絹に関する参が栃木県金剛寺所蔵『泰叟派秘参』所載の「嗣書地絹催促之参」「嗣書地参」である。

嗣書地絹催促之参

師云、潔物ヲ云ヘ。学云、此潔地ニ立テ走。師云、潔物ト者、何人ゾ。学云、三十四祖ノ主人デ走。師云、潔地ヲ云ヘ。学云、七尺二寸ノ絹ニ三十四祖之主人ヲ書シ収ルガ、潔地デ走。師云、夫レハ、何人ノ立処ゾ。学云、筆毫ヲ取リ収ル処デ、三世之諸佛ハ、驀爰ニ立テ走。師云、其時何ント立ツタゾ。学云、十劫坐ガ、立処デ走。師云、其コニ三世ヲ説破セヨ。学云、説々不生説、三世一字説。師云、勃地ヲ云ヱ。学云、万法ヲ勃トナシ、一体ノ僧ヲ陀トナシテ走。師云、陀ノ字トハ、何ヲ云タソ。学云、天ノ濳々タル処、地ノ廣闊タル処、驀爰ニ無シ漏スコト法性、佛法僧一体三宝。師云、直ニ嗣書ヲ奉ジ来レ。学云、勃陀勃地デ走。師云、其ノ勃陀勃地ヲ云ヘ。学云、心。師云、其ノ心ヲ云ヱ。学至テ只坐ヌ。師云、良久カ、坐禅カ。代云、知リ走ヌ。師云、着語ヲ。代云、唯佛与佛、乃能究尽。師云、究尽ヲ。学、云イコトナシニ、只皈ル也。亦一説ニハ、其心ヲト云心ニ、毘婆尸仏——妙、此句デモ挙ス。私云、此参ハ、門中ノ参禅了テ、了筆（筆カ）ノ判ヲ渡而モ、吾ガキニ入ラ子バ、参学ニアガレ共、了筆（筆カ）ノ上ワ、別ニ問ワセウズコトモ走ヌゾ、ト云テ、只置クカ、亦佗山ヘヤル也。無二ニ此人ヲ弟子ニ取リ、三世ノ契約ヲセウズルト見届タ人ニ、虚而傳授サセウズト思呈

ニ、地ヲ求メヨト云心ニ、此話ヲ授ル也。潔物トハ、血脉ニ書付クル佛祖ヲ云タゾ。潔地トハ、地絹ノコト也。呈ニ、挙着モ、潔キ物ヲハ、潔地ニ立タゾ。勃陀勃地ヲ、私ニヨミニワ、イサギヨキ者、潔キ地ニツクトヨム也。是ハ、何人ノ立処タゾ。ナレバ、守リヲ尽ク書シ了テ、筆毫ヲ取リ収メタ処ガ、三世ノ諸佛ノ立処タゾ。爰ガ、十劫坐タゾ。三世ノ諸佛ノ立処ニ、始終ハ見ヱヌゾ。此三世ノ説破シ羨ト云ハ、説々不生説、何ント説イテモ、説ニ落ヌゾ。ナセ——バ、三世ガ一字説タゾ。三世無レ隔始終ガ無イゾ。向見届ルガ、説破ヨ。亦勃地ヲバ、万法ト一体ノ僧ト見ベシ。亦自目ニモ人境ニモ見ウズゾト云テ、二ツニハ見マイゾ。此勃ノ字トハ、何ニヲ云タゾ。ナレバ、天モ蒼々、地モ廣闊トシテ、何ヲモ不レ漏ヌ時、佛法僧ノ三宝モ、爰ニアルゾ。向ミレバ、三宝ガ一体、々々ガ三宝タゾ。是ハ、不断ノ理ナリ。三宝ガ、一ツモ欠レバ、断絶ヨ。嗣書ヲ勃陀勃地ト云ハ、勃——地ハ、如来也。此ニハ覚知ト云也。其ノ勃——地ヲト云処ヲ、心ノト云タハ、勃——地ハ、如来ト心得ヨ。直心也。其故ハ、勃陀ハ如来ト翻シ、勃地ハ菩薩ト翻シ、如来ノ以心ト翻シ、菩薩ハ傳心ト翻ジタゾ。向見レバ、勃——地ガ、心タゾ。此心ニ至テハ、何トノベウズ、只坐シタ迄ヨ。毘婆尸仏——直——妙ト云モ、此ノコトヨ。アレ共、何ントモ見ヱヌ呈ニ、良久ガ坐禅カト碍ツテ見タゾ。ヨク心得タニ依テ、知リ走ヌト云也。言ハ、此心ハ、毘婆モ、燃灯モ、不知不覚ヨ、不可得ヨ。サテコソ、着語モ、唯佛——尽ヨ。始本不二、一圓也。爰ハ、外見ノ人ラヌ処タゾ。只ダ皈ツタハ、何ントモ手ハツクマイゾ。究尽ト云ニ、言語ハ及ブマイゾ。大事ノ参也。能々可心得者也。

嗣書地参

師曰、色紋コソ多イニ、白綾ノ松竹梅ノ紋ヲ用タハ、何ントシテ道理タゾ、云イ給ヱ。学云、根本ノ性ハ、白直白色デ走。師云、白綾ハ闘タガ、何ント松竹梅ヲバ用タゾ。学以レ手巾ヲ三度摩頂而云、松房ヨ々々々ヨ。梅房ヨ々々々。師云、其承當ヲ云ヘ。学、先聖従来如何行履ス。心ハ、白綾ヲ用タハ、白直白色、根本ノ性ニタトヘタゾ。夫レヲ、潔地ト云タゾ。紋ニ松竹梅ヲ用イタハ、世尊ノ御名ヲ、松房殿ト云イ、迦葉ヲ竹房、阿難ヲ梅房ト申ス也。其ノ以テ因縁ヲ、地絹ニ、松竹梅ノ三葉ヲ織ル付クル也。如レ此則ンバ、嗣書ノ地絹ガ、其侭ノ佛肉也。此松竹梅ノ参禅ヲサヘシタラウニハ、何絹ニモ可レ書。扨亦、摩頂ノ手ガ、肝要タゾ。次郎・太郎ト云、少年ノ肌ニ落ツ付カズンバ、傳授相續ハ成ルマイゾ。サレハコソ、爰ノ承當シ羨モ、先聖——如何——履ス。ト云ハ、祖々先達モ、少年ノ肌ニヲチ付ズンバ、如何——履。

嗣法ハ、難レ成ゾ。二郎・太郎ノ肌ニナツタ時キガ、至極ノ行履、嗣法傳底ノ當人タゾ。師云、嗣書ノ地ノ書シ羨ヲ挙シ来。学云、拈ズレバ微笑、喚バ應喏。師云、着語ヲ。云、以心傳心、相続不断。引云、正法眼蔵、涅槃妙心。実相無相、微妙法門。心ハ、昔如来嫡々相承而ヨリ以来、佛種ノ断絶セヌガ、書シ羨タゾ。扨テコソ、拈微笑(華脱カ)、阿難應喏。以心傳心、相續不断ト向書タゾ。

前総持龍穩十九世當時開山

洪州察叟（花押）

嗣法伝授の一連の儀礼及び道具等を意義付けするのは、その内容を師資の間において確認する教義問答であり、同時にそれは嗣法伝授の流れをトレースするものである。このような形で、伝授に関する箇々の切紙が集成され、一つの切紙の参として成立してゆくことになる。

ちなみに三重県広泰寺蔵「伝授八則之目録」（太源派目録、同寺十世覚山鉄觜〈～一七〇五〉より寒察に伝授）は、切紙の参を八則の項目に排列し、公案の体系として位置づけたものである。ちなみに、上記の「嗣書地参」は「自家」に位置づけられている。

○伝授八則之目録

大徹　三契之大事

○大悟　格外一句　後之大死底　悟上参

格外承当　悟上鉄枷

発明　三箇大事

○投機　位裡速物

悟明　三更参

命脈語　　妄念之大事
相承　　大事相続　　合封大事

○伝授　　一心大事　　同判形
血脈相伝　　血脈不断　　伝灯参
鉄看　　資師貴札

証明

○印可　　妙中回互　　白衣三拝　　白衣形躰
頂相

○摩頂　　摩頂之参　　行履　　大事畢竟
摩頂守護眼　　獅子翻的眼　　主之眼

○自家　　地絹之参　　嗣書地一筆
釘之参　　可訓　　血脈之次第

空塵血脈同参　　法恩之札
○訓訣　　頂上一中十位　　向上之参
主之居所　　総目禄

嗣書相続

○訓訣始終　不識上之大事　九十七箇之円相
　　錦嚢之宝物
　　最極無上之図

寛文七［丁未］二月吉日　広泰現住
　　（印）鉄觜（花押）

○宗芝○大空○賢仲、今附与寒察和尚

江戸時代前半における永平寺の住持は、関東において活躍していた禅者がその任に当たっていた。嶺巌英峻（高国英峻）、鉄心御州、光紹智堂などがその例としてあげることができる。

鉄心御州の法嗣である正龍寺九世普満紹（詔）堂（一六〇一～一六七六）所伝の「伝授之儀規」切紙には以下のように見える。

（端裏）伝授儀軌書

伝授之儀軌

一、師云、密室中之事作麼生、答、有之、
一、師捧ニケ法衣一ヲ如来丈六之袈裟（サ）掛ニ在弥勒千尺身一、恁麼時仏（ブツ）衣長ル乎短（ツヽマ）ル乎、答、有之、
一、師之一指ヲ資之指ニ挟テ云、仏々祖々授手相伝、尽未来際莫レ令レ断絶、亦資以ニ一指一ヲ師挟云、仏々祖々相伝授手、尽未来際不レ可レ妄者也、言了而跪座ス、
一、師、嗣書血脈渡ニ弟子一ニ、則再三頂戴而資ニ可レ渡、資請取而再三頂戴納懐中、
一、嗣書、血脈之円相之参、勃陀勃地之参、嗣書之参、血脈之参有之、切紙ニ明ナリ、
一、教授戒ヲ渡而則戒文之参有之、
一、国王授戒之嗣書切紙ヲ渡而則参有之、

一、龍天授戒之嗣書作法ヲ法ヲ則参有之、
一、伝法之偈、一、合血一紙、三国流伝嗣書、一、六祖半紙、
一、宝鏡三昧渡、一、上来切紙、参、一、大事渡、
一、懐敝記文、一、卵形図、一、七仏以前血脈、一、相続切紙、
一、空塵書、一、迦文勒三説、一、正僧記、一、鉄漢之参、
此外他日渡書、烏沙巾上是青天、不可他出者也、
畢竟伝授了而、師示資云、伝授底作麼生、答有之、資三拝而立、師云、後　朝如何、資云、明早朝行而無住拝、師云、
著語ヲ、答有之畢、

従永平室中直伝　　詔堂拝

嗣法伝授に際して、一連の儀礼の中に切紙伝授が位置づけられるとともに、それぞれの儀礼に関する意味内容を切紙によって解釈し確認する切紙の参が成立したことは上述したとおりである。その事を示す史料の一つとして、上掲の『泰叟派秘参』を取り上げたい。鉄心御州は、龍穏寺に住しているが（二二世）、その前住にあたる洪州廡察（龍穏寺一九世）が相伝したのが、本書である。この本参は、金剛寺開山洪州廡察から石宝存鞏、石山天達へと相伝されたものであり、同派における嗣法に至る切紙・本参伝授のあり方を知る上で貴重な史料である。ちなみに、この本参に「泰叟派伝授之参」として取り上げられている切紙由来の参は、以下の通りである。

（1）訓訣之参、（2）合封之参、（3）血脈之参、（4）印可参、（5）摩頂之参、（6）勃陀勃地参、（7）続松之参、（8）居士之参、（9）悉曇之大事、（10）嗣書焼却、（11）三法印参、（12）尊勝陀羅尼之参、（13）龍天勘破之参、（14）白山妙理大権現、（15）看経ノ一句、（16）月両個、

尚、『泰叟派秘参』所載の切紙の参に相当する部分を参考資料として翻刻し、後掲した。

二

永平寺において相伝されてきた切紙について、上述した馥州が記載したものは、その一部分でしかないと思われる。そ

の全体像を推測するために、永平寺第二七世高国英峻（一五九〇～一六七四）が作成した『切紙目録』（光紹智堂所持）[10]を中心として関係史料との対照を行ったのが、後掲の「永平寺所蔵『切紙目録』関係史料対照表」である。以下、対照史料について簡単に述べてみたい。

駒澤大学図書館蔵『室中切紙謄寫』は、三十八世承天則地を下限とする永平寺に現存していた切紙を後に謄写したものであり、五十一種の切紙が取り上げられている。その目録を掲げれば以下の通りである。

（1）嗣法之儀記、（2）嗣法論、（3）傳法之儀軌、（4）嗣書地絹之様子、（5）傳授前巡堂之次第（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（6）佛布施之法（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（7）十佛名切紙、（8）三寶印（嗣法之印籠相傳時之一紙）、（9）三寶印之大事、（10）傳儀加行、（11）面授之参（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（12）宗旨秘書、（13）七佛傳授戒法之一枚紙（心田之話・五相之圖）、（14）二度傳授参、（15）佛祖正傳正法眼藏血脈、（16）嗣書袋圖（并拂子・竹篦寸尺）（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（17）血脈袋之大事（子狐トモ）、（18）住山之大事、（19）施餓鬼之切紙、（20）御大事　看経・回向、（21）道場荘厳之圖、（22）嗣書袋圖（并拂子・竹篦寸尺）※前出（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（23）竹篦切紙、（24）遺誡之偈、（25）鎮守切紙、（26）五位之別紙亦五体五輪之圖、（27）龍天受戒作法（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（28）白蛇切紙（帰朝本則）、（29）安座点眼、（30）開眼点眼切紙并塔婆点眼、（31）山神授戒〈白山也、様子ト図アリ〉、（32）白山妙理大権現切紙、（33）山門法衣之大事〈法衣傳授之時参話〉、（34）米門之切紙、（35）消災咒之記文并一返消災咒之切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（36）一返消災咒切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（37）卍之切紙、（38）無之切紙、（39）四句文之切紙、（40）身心脱落、（41）竹篦・杖参話并注脚、（42）拂子、（43）多子塔前傳附之作法（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（44）銀箱鎖子之切紙、（45）合封折角之切紙、（46）先師取骨之大事、（47）廟移作法、（48）龜背宝塔密紙圓、（49）洞山門下牌塔相續之事（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（50）非人亡者之事、（51）天疳病之事（高国英峻『切紙目録』ナシ）、

次に、面山瑞方『洞上室内断紙揀非私記』についてみてみたい。本書所載の「永平寺室中断紙目録並引」の記事に依れば、

> 延享二年乙丑夏、余寓二永平寺之承陽菴一五十餘日。請二室中法寶一周覧、中有二断紙一百四十餘通、逐一拝讀二目録一以備

二後鑑一、皆是代語者之妄談僻説、而無下一補二於宗門一者上也。

とあり、延享二年（一七四七）面山が閲覧した当時、永平寺室中には、「断紙一百四十餘通」が現存していたことがわかる。以下、その項目を挙げる。

（1）過去七佛血脈、（2）應身録、（3）國王歸敬之本地、（4）過去七佛心字參、（5）龍天授戒陰陽祕密之妙儀（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（6）白山妙理斷紙、（7）鉈切斷紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（8）龍天十八名號切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（9）三國一位之血脈、（10）奥蔵之圖（高国英峻『切紙目録』ナシ）

右十通

（11）六祖示青原半紙大事、（12）三國流傳之圖、（13）天竺二枚紙、（14）洞山五位切紙〈亦名五體五輪圖〉、（15）三身大事切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（16）三老普門大事〈釋迦文殊彌勒〉、（17）道元嗣書不同切紙、（18）牌塔之儀式（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（19）牌塔相續切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（20）正法眼藏五輪碎切紙、

右十通

（21）正傳始末切紙、（22）大陽眞賛參話、（23）戒文傳授參〈代語〉、（24）戒文拈提參〈代語〉、（25）袈裟大事圖、（26）袈裟心傳大事、（27）手形切紙、（28）法衣傳授參話、（29）法衣傳授大事、（30）衣鉢血脈傳授作法、

右十通

（31）緒環之參、（32）福田衣之參、（33）曹山八圈圖、（34）宗門五位圖參（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（35）勃陀勃地斷紙、（36）光明迷參、（37）曹洞機切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（38）一中十位切紙、（39）七堂伽藍圖切紙、（40）佛祖正傳菩薩戒血脈最極上大事、

右十通

（41）曹洞三種訓訣、（42）佛頂上圓相圖切紙、（43）四處平夜之圖參、（44）兩鏡圖大事、（45）阿字大事（高国英峻『切紙目録』ナシ）、（46）拈華微笑訣參、（47）大善知識頂上三世了達圓滿一◎切紙、（48）卍字大事、（49）卍字切紙〈卍字ハ七ノ字十ノ字ト云フ〉、（50）卍字之圖、

右十通

(51) 鎮守切紙、(52) 諸行無常四句切紙、(53) 續松祕要參、(54) 續松切紙、(55) 襪子切紙、(56) 鷺＝切紙、(57) 善知識切紙、(58) 團扇切紙〈永祖歸朝天童ヨリ餞ト云コト〉（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(59) 二本柱切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(60) 露柱切紙、

右十通

(61) 天童一紙大事、(62) 大陽卵形晃龍圖斷紙、(63) 宗旨祕書、(64) 元和尚黒衣由來、(65) 臨濟曹洞兩派血脈、(66) 濟下一條紅線切紙、(67) 天竺上梵天皇御即位大事〈上梵ハ浄飯〉（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(68) 二句偈嗣書〈周穆王達磨聖徳太子〉、(69) 二句偈傳授血脈竝十如是大事

右十通（※九通ノミ）

(70) 亡者靈供切紙、(71) 亡者靈供切紙〈龍前熱田明神ニ上ルコト本地不動明王ト云コト〉、(72) 住持焼香切紙、(73) 念佛切紙、(74) 銀錢馬形切紙、(75) 竹篦切紙、(76) 拂子切紙、(77) 銀箱鎖子切紙、(78) 米門切紙〈松ト梅ト椿ト牡丹トノコト〉、(79) 三寶印切紙、

右十通

(80) 三寶印大事、(81) 龜背寶塔切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(82) 竹篦＝杖參話竝圖、(83) 臨濟三句切紙、(84) 劔刃上切紙、(85) 天童山樹上切紙〈大極ト五位ノコト〉、(86) 三悟道同切紙、(87) 身心脱落切紙、(88) 脱落脱落切紙、(89) 脱落身心○初◎●、

右十通

(90) 無二切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(91) 八句祕密切紙〈一段光明著語〉（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(92) 祖師禪嫌道話切紙、(93) 祖師禪切紙、(94) 道元十三則目録、(95) 十八般妙語圖、(96) 州縣村切紙、(97) 馳書不到家大事、(98) 三位大事（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(99) 君公書切紙、

右十通

(100) 拈奪瞎三事切紙、(101) 十八般妙語〈片仮假名〉、(102) 誰圖大事黒圓、(103) 頂門眼切紙、(104) 御大事看經回向切紙、(105) 住山大事切紙、(106) 遺誡偈大事、(107) 二度傳授切紙、(108) 梅華嗣書切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、

(109) 人人具足圖切紙、
　右十通
(110) 面授參事（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(111) 嗣書地絹切紙、(112) 竹篦拂子＝杖寸尺切紙、(113)先師取骨切紙、
(114) 十智同眞切紙、(115) 十三佛血脈切紙、(116) 四十九餅本位切紙、(117) 達磨知死期之祕密、(118) 佛説最第一功德圓滿知死期經〈金剛智三藏譯僞經也〉（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(119) 向上了畢判出切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、
　右十通
(120) 參禪了畢證文（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(121) 血脈道場儀式、(122) 四恩參、(123) 晦朔弦印切紙〈月圖〉、
(124) 八師次第切紙〈傳法師傳戒師受戒師參學師言行師依止師学得師右妄説也〉、(125) 十二字切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(126) 知識三箇行話、(127) 天童山禪定規〈無準作ト云妄説ナリ〉（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(128) 多子塔前傳付作法切紙、(129) 傳戒加行切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、
　右十通
(130) 傳戒道場次第注脚切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(131) 傳戒道巡堂切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(132) 室中儀軌參（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(133) 文殊手内一雀經〈一名佛説三身壽量無邊經コレ僞經ナリ〉、(134) 臨終人問答切紙、(135) 九識圓滿切紙、(136) 月有兩箇切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、(137) 大藏法數要略之圖（高国英峻『切紙目録』ナシ）、
(138) 天童與道元問答嗣法論〈妄説也〉、(139) 三段訣切紙（高国英峻『切紙目録』ナシ）、
　右十通
(140) 緣思寂一冊〈右大陽付浮山書芙蓉道楷序妄作之書也〉、

寛延二年仲春二十八日

永福方面山記

上記の「永平寺室中断紙目録並引」の記事と高国英峻『切紙目録』の記事とでは、相互に異同が見られる。正龍寺には、永平寺第二十九世鉄心御州より普満韶堂に伝授された切紙が現存している。正龍寺所蔵「切紙」（普満韶堂を中心にその前後を含む）の目次と相伝関係を表にすれば以下の通りである。

	切紙	相伝関係	相伝年次	備考
1	血脈	大久碩長老→龍雪上座	寛永四年霜月二十八日	
2	嗣書	大久碩長老→龍雪上座	寛永四年霜月二十八日	
3	大事	武産本海→紹堂 （正龍寺九世普満韶堂カ）	寛永十年黄梅二十八日	
4	嗣書	清泉七世清翁全吉→快巌龍幢上座	寛永十年菊月二十日	
5	血脈	清泉七世清翁全吉→快巌龍幢上座	寛永十年菊月吉日（一六三三）	
6	白山妙理切紙并参禅	清泉七世清翁全吉→快巌龍幢上座	寛永十一年二月吉祥日 （一六四三）	［端裏書き］當山八世快（一六三四） 巌龍幢和尚之切紙／昌龍寺／白山妙理切紙并参禅
7	伝授後堪忍判	清泉七世清翁全吉→快巌龍幢上座	寛永十一年菊月如意日	
8	入棺之大事	高門秀沙門	寛永十七年九月吉日	［端裏書き］入棺大事／十一代
9	嗣書	武産本海→紹堂（普満韶堂カ）	寛永十八年黄梅二十八日	
10	血脈	武産本海→紹堂（普満韶堂カ）	寛永十八年五月二十八日	
11	血脈	清泉寺八世大龍→快巌龍幢上座	寛永十九年三月二十二日	
12	嗣書	清泉寺八世大龍→快巌龍幢上座	寛永十九年三月二十二日	
13	嗣書	龍穏現住鉄春嶺樹→快巌龍幢上座	正保二年霜月十六日	

14	血脈	龍穏現住鉄春領樹→快厳龍轄上座	正保二年霜月十六日	
15	仏祖正伝正法眼蔵血脈 （道元和尚小血脈）	花押・壺印・角印		
16	袈裟大事	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
17	続松截紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
18	十三佛大事	（普満韶堂所持カ）		
19	珠數截紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	高国英峻『切紙目録』ナシ	
20	仏祖以前血脈天竺二枚 截紙（龍天切紙カ）	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
21	日用行事作法祝聖切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
22	「香厳樹上話カ」	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
23	衣鉢血脈伝授作法	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持		
24	七仏血脈図諸話頭根本	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝		
25	過去心字一　血脈大事	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝		

26	大魔血脈	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	高国英峻『切紙目録』ナシ
27	檀家血脈行時道場荘厳	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
28	龍天授戒作法	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝	
29	梵文阿字大事	〔従永平寺室中直伝、普満韶堂所カ持〕	
30	合封切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
31	椅子立作法	〔従永平寺室中直伝、普満韶堂所持カ〕	
32	施餓鬼焼香作法	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝	
33	幽霊収之大事切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
34	塔婆点眼大事 （塔婆点眼切紙）	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝	寛文四年二月吉日
35	福田衣切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
36	廟移載紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
37	龍天血脈	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	

38	問訊切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	高国英峻『切紙目録』ナシ
39	居士嗣書	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝	高国英峻『切紙目録』ナシ
40	竹篦切紙	鉄心御州→普満韶堂 従永平室中直伝	
41	拂子切紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
42	釈迦之御判	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	高国英峻『切紙目録』ナシ
43	卍之切紙	［従永平寺室中直伝、普満韶堂所持カ］	
44	嗣書焼却貴裡紙	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
45	拄杖・拂子・竹篦之図	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
46	竹篦由来	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
47	霊供秘極	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
48	牌塔伝授截紙 ［端裏書］牌塔截紙二通	従永平寺室中直伝 普満韶堂所持	
49	難産大事	鉄心御州→普満韶堂	高国英峻『切紙目録』ナシ

	従永平室中直伝			
50	伝授之儀軌	従永平寺室中直伝		高国英峻『切紙目録』ナシ
	［端裏書］伝授儀軌書	普満韶堂所持		
51	仏祖正法眼蔵血脈	従永平寺室中直伝		
	［端裏書］仏祖正法眼蔵図	普満韶堂所持		
52	大魔切紙	龍穏現住馥州高郁→門喬→通外高門	天和二年二月吉日	
53	子母別腹切紙	龍穏現住馥州高郁→門喬	天和二年二月吉日	
54	［五輪五体之図（仮題）］	龍穏現住馥州高郁→門喬	ナシ	
55	山居之嗣書	永平寺三十三世馥州高郁→通外高門	貞享四年六月二十八日	
56	［正授菩薩戒判］	永平寺三十三世馥州高郁→通外高門	貞享四年林鐘二十八日	
57	［未詳］	永平寺三十三世馥州高郁→通外高門	貞享四年林鐘二十八日	
58	血脈	永平寺三十三世馥州高郁→通外高門	貞享四年林鐘二十八日	
59	大事	集福十四世崑山黒翁→静室默禅	宝永三年五月十五日	
60	血脈	集福十四世崑山黒翁→静室默禅	宝永三年五月十五日	
61	嗣書	集福十四世崑山黒翁→静室默禅	宝永三年五月十五日	

普満韶堂が相伝した切紙には、永平寺に現存せず、亦上掲の『室中切紙謄寫』にも見られないものを含んでおり、永平寺室中において相伝された切紙の全体像を知る上で貴重な史料である。

最後に『参禅切紙　後巻』（故古田紹欽氏所蔵）[1]を取り上げてみたい。本書は、光紹智堂所持の切紙の参を集成したものである。

（1）壹、圓相参、（2）二、合封参、（3）三、傳授参、（4）四、相承参、（5）五、印可参、（6）六、摩頂参、（7）七、四句文参、（8）八、勃陀勃地参、（9）九、證浄訓訣、（10）十、鉄漢大事参、（11）十一、嗣續鉄漢参、（12）十

二、鎮守参、(13) 十三、三喫茶、(14) 十四、念誦参、(15) 十五、二句偈参、(16) 十六、嗣法論大事、(17) 十七、宗旨向上勘弁正法内意、(18) 十八、国王授戒参（付龍天授戒、）(19) 十九、空塵書圖抄、(20) 二十、安座點眼大事、(21) 廿一、見性之大事、(22) 廿二、住山眼大事、(23) 廿三、死灰参、(24) 廿四、三箇劔大事、(25) 廿五、血脈圓相大事、(26) 廿六、亡霊授戒偈、(27) 廿七、死母別腹大事、(28) 廿八、大姉血脈、(29) 廿九、續松之切紙、(30) 卅、下炬之切紙（并下炬證文、）(31) 卅一、鎮守之参、(32) 卅二、寶鏡三昧、(33) 卅三、達磨傳法偈、(34) 卅四、達磨知死期偈、(35) 卅五、甘露巻、(36) 卅六、印籠、(37) 卅七、三説大死底本則、(38) 卅八、太白峰記、(39) 卅九、榮西記文、(40) 四十、大陽玄銀箱鎖子、(41) 四十一、救龍偈、(42) 四十二、孝典之因縁、(43) 四十三、自家訓訣、(44) 四十四、九ヶ条結縁傳授、(45) 四十五、續松参、(46) 四十六、釈迦戒四鉢、(47) 四十七、上來圖、(48) 四十八、祝聖切紙（并二通一紙、）(49) 四十九、祝聖焼香傳授、(50) 五十、了菴御修行、(51) 五十一、住吉五ヶ条託宣、(52) 五十二、山門切紙、(53) 五十三、證浄鉄漢之大事参共、(54) 五十四、祖師禅切紙、(55) 五十五、幽霊留切紙、(56) 五十六、御影画像書様、(57) 五十七、嗣書畳様之次第、(58) 五十八、滿字切紙、

永平寺には光紹智堂書写の切紙が現存しているが、それは全体の十分の一にも満たないものである。[12] 本書は残念ながら、零本であり、乾本を欠いているが、永平寺における切紙相伝を考察する上でも、また光紹の教学的背景を知る上で極めて重要な史料である。本書については別稿において論ずる予定であり、ここでは省略する。

参考資料として取りあげたのは、龍泰寺蔵『仏家一大事夜話』である。本書は、石川力山『禅宗相伝資料の研究　上巻』第一篇「第二章美濃竜泰寺所蔵の代語・門参資料」（法藏館、二〇〇一・五）において、内容の分析が行われており、また「付録1『仏家一大事夜話』」として全文が翻刻されている。所載の公案目録を挙げれば以下の通りである。

(1) 勤行（三時ノ行事）、(2) 禅家ノ本尊、(3) 日中（祈祷）、(4) 日ノ晩ルゝ行事、(5) 放散、(6) 四時ノ坐禅、(7) 土地神、(8) 祖師堂、(9) 御影堂、(10) 鉢、(11) 小施餓鬼、(12) 祝聖之参、(13) 鍾鼓之参、(14) 小開静ノ参、(15) 大開静（ノ参）、(16) 土地堂（ノ参）、(17) 血脈参、(18) 命脈参、(19) 経教参、(20) 鉢ノ参、(21) 拄杖之参、(22) 払子之参、(23) 楊枝之参、(24)［普通問訊］、(25) 五大六蘊参、(26) 鬚髪参、(27) 飜袖参、(28) 手巾参、(29) 襪子参、(30) 履ノ参、(31) 複子参、(32) 傘参、(33) 草鞋、(34) 四大五蘊、(35) 安坐点眼、

(36) 霊供参、亦霊供、(37) 襪子参、(38) 竜天参、(39) 廿一社順礼参、(40) 没后作僧参、(41) 中陰破擅参、(42) 隔国弔亡霊参、(43) 吉方勧請参、(44) 悪日連続参、(45) 塔婆書后点眼参、(46) 塔婆参、(47) 念誦参、(48) 竜天参、(49) 頂眼参、(50) 持戒参、(51) 宗旨鴛鴦参、(52) 香炉ノ参、(53) 坐具参、(54) 宗門舩参、(55) 鎮守之参、(56) 白山参、(57) 竜天参、(58) 念誦参、(59) 理趣分参、(60) 十三仏参（第一不動、第二釈迦、第三文殊ノ境界、第四普賢ノ境界、第五地蔵、第六弥勒ノ境界、第七薬師ノ本体、第八観音ノ全体、第九勢至本体、第十阿弥陀本体、第十一阿閦仏ノ心、第十二大日ノ全身、第十三虚空蔵）

本書を取り上げたのは、鉄心御州が筆写した『佛家之大事』[13]が同系統の本参であったからであるが、『参禅切紙　後巻』との関係は殆ど認められない。

永平寺所蔵の本参・切紙の現存情況や、上掲の『切紙目録』及び『伝授室中之物』所載の本参・切紙類の記事を勘案すれば、永平寺二十七世霊巌英峻（万照高国禅師）、同二十九世鉄心御州（大覚仏海禅師）、同三十世光紹智堂（慧輪永明禅師）の頃に、永平寺における切紙・本参の収集と整理が積極的になされたものと考えられ、その活動は後世代語禅として批判されることともなった。

永平寺所蔵史料に見る限り、その先がけとなったのは同寺三十八世承天則地であり、その著わした「舊本除却辨」には、以下のように見える。

此ノ一本ハ者何ン人ノ所撰ソ、為レ偽書明ケシ焉、英俊小写シテ而禍イ及フ兒孫ニ、光紹不合ニシテ而将錯就錯矣、予毎ニ管看スル、相イ似タリ十二街頭失スルニ斗ヲ、豈ニ聖賢ノ一言半句如クナル是ノ者ノ也ヤ、言句文字鄙陋暗昧ニシテ而非ルコトニ一大師ノ之舌頭ニ必セリ矣、中間雑ツ入ス狸師ノ之着語ヲ、且ツ亦タ元師ノ直書懐狸在判ト云々、不レンバ見ニ直書在判ヲ、争カ打ニ破センヤ疑團一也、後生ノ舌頭古聖ノ金言折角弁ルハ之各自ノ眼睛ナリ也、後来ノ現住強イテ欲バ二開見ヲ者請一鑑シテ而除ニ却セヘ之ヲ可也、若シ亦タ不ンバ二除却一セ、尽未来際深鎖シテ而不レ入レ他見ニ、然則ニハ□キ□ツ宗旨ノ保護児孫ノ奉重ト者ノ乎、

舊本除却ノ辨併セテ記ス焉ヲ

此ノ一本者、於ニテ天童室中ニ、元祖ノ参得浄翁ノ印可ト云々、件件觸ニ犯シテ諱ヲ而相イ似リ家醜揚ルニ外ニ也、正修行底古佛ノ眼睛、雖ニモ我曽テ不ト會セ之ヲ、言句ノ鄙陋文字ノ不整、敢保ハ是レ不ス正師ノ之舌頭ニ也、以テ這般ノ事ヲ弄ニ得セハ□声ヲ、誰カ立ン古人ノ之

下風ニ也、論セハ書中不的之十一ヲ者、有リ栄西記文ノ之挙着一、且ツ以テ血脈ヲ為ニ傳法ノ之證一、并ニ上足印可等非ルコト天童室中ノ之語ニ明白ナリ也、浄翁以テ嗣書ヲ為ルコトハ傳法之證ト下今マ猶ヲ當山室中裡在ノ之一書、世以テ所ロナリ知ル也、血脈傳授ハ者、上古尤モ未曾有ノ之説ナリ也、上足印可是レ亦タ不傳ノ之説ナリ也、栄（ママ）俊先師奥書ニ曰ク、元古佛直書懐奘傳授在判ト云々、直書在判今マ何ンカ在ル焉、是レ不ニ直面一不ニ拝見セ一、難キノ首肯シ一條ナリ也、同ク奥書ニ曰ク、此ノ書ノ末ヘニ當山代々ノ現住以テ自筆ヲ諱ヲ書テ趣来ル的嗣住山ノ之證ナリ也ト云々、此ノ論シ尤モ難シ会シ、有リ人々各自ノ法嗣書一、且ツ現住世代ノ者、白日青天切紙傳底ハ者、有リ一大事ノ在ヲ、何ンソ拠ランヤ此書ノ之末伐ニ也、

細考スルニ偽ニ替シテ浄元ニ大師ノ之勝躅ヲ而欲レ賣ラント卑名ヲ於後世ニ必セリ矣、若シ夫レ道徳修功相當ノ之言句カ歟、明智俊才折角ノ之文法カ歟、然ル則ンハ秘シテ而珍蔵スルモ亦タ可ル哉、言々意不到、句々説不到、痛哉、觸ニ犯ス二大師一、可シ謂ッ潜儉ノ之賊ト乎、俊老師實直ニシテ而不レ糺サ之レヲ清書添語、却テ禍イ及ニ于宗旨一ニ、予再三看過、決シテ而欲スレ除レシトノ之ヲ、然ルニ以スル時ンハ一己自得ヲ則辜ニ負ス先師一矣、是ノ故ニ堅封深鎖シテ而俟ツ□（後カ）来開見ノ之正眼睛ヲ耳已（ノミ）、冀クハ一見照破シテ而除ニ却セヨ焉一、若シ亦タ不ンハ除却セ、尽未来際可シ深鎖ス也、及ヲ他見ニ則ンハ二大師ノ之汚名、一宗門ノ之垢染ナリ也、堕涙断腸、慚愧不レ少、予曽テ除キ二大師ノ之諱一、改メテ一二ノ之顛倒一而題ニ号ス切紙名目ノ参一ト、某甲手書シテ置レ焉ヲ、臭氣猶ヲ在リ、不レ如カ全擲ニハ者ノ乎（カ）、改書猶ヲ更ニ不通名字ハ者筆記而若ヲ也、冀クハ後賢改ニ正セヨ焉一ヲ、

享保十三（一七二八）戊申歳十一月廿一日記封畢、

現住三十八世末学比丘承天則地（花押）

永平寺所蔵『永平総目録御州本参』は[14]同所蔵『永平総目録』に基づく、鉄心御州書写の本参である。表紙題箋に『伝三清規』とあり、内題には「吉祥山永平禅寺話頭総目録」とある。その表紙見返しには、

此ノ題ニスルニ吉祥山永平禅寺話頭ト之仮（カナ）字ノ書一冊ハ者、中古住ニスル此ノ山ニ代語僧ノ之所ニシテ述作一スル、而固（モトヨリ）非ルナリ下従ニ承陽・二代・三代等ノ時一、伝ヘ之ヲ来テ有ル底ニハ也、読ム者ハ、宜ク（ヘシ）下考ニ其ノ時ヲ一、以テ知ニ其人ヲ一而用否ス上焉、

延享二乙丑孟夏

住山円月誌之

とあり、永平寺四二世円月江寂（一六九四～一七五〇、大智慧光禅師）が、本書（吉祥山永平禅寺話頭ト之仮字（カナ）ノ書）を中

古永平寺住山の代語僧による著述（偽作）として批判している。

江月はまた、上述の『参禅切紙　後巻』（智堂光紹書写、零本）に跋文を付しているのだが、古訓を有する十三件の断紙（切紙）以外を代語僧の臆説であるとして、批判している。

此上下二冊、一百九十六件ノ之断帋（キリカミ）ハ、皆代語僧ノ之臆説、佛經祖論ノ之所レ未レ説カ也。但所列于下之十三件ハ、古訓有據。宜質文字差誤解而傳、列目如左。

①一、自家ノ訓訣（二巻ノ内ニアリ）（文句ニ有差ヒ）
②一、榮西ノ記文（一ノ括リ）（添ヘ書ハ不可□フ）
③一、国王授戒ノ作法（一ノ括リ）
④一、達磨一心戒（二巻ノ内ニアリ）
⑤一、榮西授經ノ儀軌（十八ノ括リ）
⑥一、十佛名ノ科文（十一ノ括リ）
⑦一、施餓鬼ノ法（十一ノ括リ）
⑧一、手形ノ古式（テカタ五ノ括リ）
⑨一、嗣法ノ式（十八ノ括リ）
⑩一、洒水法（十一ノ括リ）
⑪一、義雲和尚坐禅ノ密語（九ノ括リ）
⑫一、永平祖師ノ嗣書ノ口訣（四ノ括リ）
⑬一、禅宗日本伝来ノ口訣

延享二年（一七四七）乙丑之夏住山圓月誌之（印「圓月」）丸印「江寂之印」

太清撫国禅師、雖下考二正シテ室中ノ断帋ヲ一目二録スト一百九十六件上ヲ、而未レタ到逐一ニ辨シ二眞僞ヲ一定ムルニ中取捨ヲ一焉。山僧再ヒ加フ二考正一。唯上ミノ十三件足レリ二以テ可ニ一レ信ス。其餘ハ玉石混雜ス。不レ遑（イトマ）二アキアラ悉ク考フルニ一。又待ツ二他日ノ閑暇ヲ一而已（ノミ）

この圓月の所説は、面山の「永平寺室中断紙目録並引」（『洞上室内断紙揀非私記』所収）の所説と呼応しているように思える。

三

さて、叡山文庫には、多くの禅籍抄物が所蔵されており、筆者はその研究調査の途上にある。特に洞門抄物については既に金田弘氏によって史料紹介がなされており、以下に取り上げる史料も、金田氏によって紹介済みのものである。しかしながら、筆者は江戸時代前期における本参及び切紙史料の研究を通して林下の教学的背景を考察したいと考えており、

今後の研究に利用すべく再確認を行うものである。

先ず『獨達密參』を取り上げてみたい。その書冊形式は、以下の通りである。

一、冊　数　1冊
一、料　紙　楮紙
一、大きさ　縦13・9センチメートル、横21・6センチメートル
一、装　釘　袋綴
一、標　題　「山門東塔南谷　淨教房／眞如藏　三百十一　以／獨達密參」（改表紙打ち付け）
　「獨達密參」（原表紙打ち付け）
一、請求番号　眞如藏・二四・三七・一五四三
一、枚　数　改表紙、36丁（本文35丁）
一、行字数　毎半葉9行、1行10字前後
一、刊　写　写本
一、書写年　未詳
一、筆　者　淨教坊実俊
一、識語等　「右古則十六、五位二通、／宗旨雖為秘參、數／年御身労故、示之者／也。若於他見者、髪／鬚落者也。」

本書で取り上げられている公案は、以下の通りである。尚［　］内は、その本参の系統に関する各派名及び人名を指摘したものである。

（1）●洞山無寒暑［一州サマ〳〵……。一州派ノ秘參也。］、（2）●玄沙地獄、（3）●即心即佛、（4）飯錢之參［快庵派天嶺和尚ノ御扣（ヒカエ）也。］、（5）迦葉ノ刹竿（セッカン）［是マヽ　希明派本目録也。］、（6）●珠数之參、（7）●紅葉之參、（8）●竜天之參［是マヽ、一州和尚之秘訣（ヒケツ）ノ參（サン）也。］、（9）●白山妙理大權現、（10）靈供之參［是マヽ自超和尚之御扣（ヒカエ）秘參也。］、（11）○宗門舟ノ參、（12）●七堂參禪并（ナラビ）切紙、（13）●趙州独達一路［皆川ノ新衛門、病中死ニ臨（ノゾン）デ、竜州和尚ニ參（マイリ）シテ云々、

……。竜州ノ御辺調ニ云、……。太源派之秘参也。」、(14)道吾女人拝［派ノ消息ト心得タゾ、是ヲ一洲派ナリ。」、(15)徳山未跨棒［是ヲ、廓保之和尚直参也。」、(16)●飯ノ皈シ羊、(17)△五位ノ内参二色〈その一〉［連室和尚ノ下語也。」(18)△五位ノ内参二色〈その二〉

本書は、切紙の参を集成した本参の一種と考えられ、金田弘氏が指摘するように一洲派系統の本参と思われる。大中寺系統の同寺四世龍州文海（一四八〇～一五五〇）同寺七世天嶺呑補（一五一六～一五八八）、盛庵全昌等の名も見える。この外、天真派四派の一希明派や太源派の本参を参看しているようであり、群馬県鬼石町永源寺二世賢室自超、連室（未詳）等の名が見える。

次に叡山文庫所蔵『宗門密参』について略述したい。その書冊形式は、以下の通りである。

一、冊　数　1冊
一、料　紙　楮紙
一、大きさ　24・8センチメートル、17・4センチメートル
一、装　釘　袋綴
一、標　題　「山門東塔南谷　浄教房／眞如蔵　三百九　貴／宗門密参」（改表紙打ち付け）「宗門密参」（原表紙打ち付け）
一、請求番号　眞如蔵・二四・四〇・一六六六
一、枚　数　改表紙、36丁（本文35丁）
一、行字数　毎半葉11行、1行28字前後、
一、刊　写　写本
一、書写年　未詳
一、筆　者　浄教坊実俊
一、識語等　「右古則十六、五位二通、／宗旨雖為秘参、數／年御身労故、示之者／也。若於他見者、髪／鬚落者也。」

本書は、二二丁までの本参と、それ以降の本参（或いは代語抄）とから構成されている。更に前者は一二丁までの本参は、「大中寺快庵和尚一派ニ傳授ァル也」とあるように大中寺は系統の本参と思われる。冒頭に公案目録が記載されている。

一、鎮守之参、二、鐘声七條、三、青山秀処ノ句参禅、四、世尊三觸髏、五、般（船ノ）之参、六、趙州万法皈一、七、楊岐鉢盂口向天、八、明上座本来面目、九、雲門一曲、十、馬祖尊位、十一、石門家風、十二、趙州大死底人、十三、香厳枯木龍吟、十四、林才ノ三玄、十五、万法不侶、十六、文殊妙經清浄ノ文、十七、盤山心月孤圓、十八、道吾仏法僧、十九、曹山諸佛本源、二十、杜順禅師法身偈、廿一、霊照如百草、廿二、金山ノ印可、廿三、婆子苦海、廿四、（竜潭紙燭吹滅）

上記の本参は、師資問答形式による快庵派のそれであるが、一三丁以降二二丁迄の本参は、少しく形式を異にする。その多くが簡略化されたものとなり、句に対する参、公案本文をともなわない代語のみの参等によって構成されている。又、代語が和歌によってなされており、極めて特徴的である。その代語をなしている僧も、一州正伊、無極慧徹等の名も見えるが、その中心は大中寺派系統であり、快庵妙慶、培芝正悦、圭庵伊白、龍州、盛庵、天嶺等の名が見える。外に天真派に属する龍淵寺十三世叱澗長牛（～一六一二）の名も見える。二三丁以降は、代語抄の性格を有するものかもしれず、明らかに筆跡及び書写形式が異っている。

四

最後に叡山文庫所蔵『假名見性抄』について、略述してみたい。『仮名見性』および『永平開山道元和尚仮名法語』の諸本について、最も体系的に考察されたのは、椎名宏雄氏である。椎名氏は、六地蔵寺所蔵『無名冊子』の中の「仮名見性論」を検討されると共に、同寺所蔵の抄物類が中世における抄物研究上重要な史料群であることをはじめて明らかにされた。(15)

『無名冊子』の内容は、「天童覚和尚法語〈峨山和尚談義〉」「峨山和尚法語」「向岳和尚法語」「由良開山法灯圓明國師法語」「能登洞谷開山法語」「月菴和尚法語」「抜隊和尚法語」「中峰坐禅銘」「假名見性集〈十五段〉」「欽雪岩和尚普説〈抜要〉」「高峯和尚法語」等を含むものである。ちなみに、椎名氏は、以下のように『無名冊子』所収の「仮名見性論」を位置づけ

ておられる。

本法語は、本文を省略したが、内容的に『永平開山道元和尚仮名法語』（『禅門法語集』中巻所収）十八条中の第十五条までに相当する。周知の通り、従来本書は道元禅師（一二〇〇～一二五三）の名において行なわれた偽書といわれている。

しかるに、該所は明暦三年（一六五七）初刊の流布本以前にも多くの写本が存在し、禅師撰述の真偽とは別に、その成立と流伝に関する書誌学的な考察を今後に残す。あたかも、本写本は現在みられる最古の、しかも内容的にきわめて簡略な写本であり、禅師寂後約一八〇年の文安三年のころ、すでにその名を冠する『見性論』なる一書が臨済宗法燈派で重んじられていたとみられることは、まさに注目に価する。

ところで、法燈に伝法した恭翁運良（一二六七～一三四一）には『仮名見性抄』一巻の撰述が存したという。恭翁は瑩山禅師にも師事して加賀大乗寺を董し、峨山はこの人に参じている。かかる一連の関係からして、本書の成立と所伝の解明は、法燈派と初期曹洞教団との間に新たな視点を与えるものではないか。この問題は他日あらためて考えてみたい。

更に氏は、「『永平開山道元和尚仮名法語』について」[16]において、明暦三年本、万治二年本以前の古写本について、諸本の紹介と異本間の系譜とについて、詳細に論じておられる。椎名氏が紹介された諸本とは、以下のものである。

①六地蔵寺所蔵　永平道元和尚見性論　文安三年（一四四六）写　一巻
②六地蔵寺所蔵　仮名見性抄　室町写　上下二巻一冊
③高野山金剛三昧院所蔵　仮名見性抄　享禄三年（一五三〇）教順筆写　一巻一冊
④駒澤大学図書館所蔵　仮名見性抄　寛永年間（一六二四～四四）写　一巻一冊
⑤金沢市立図書館所蔵　前越州永平開山仮名見性抄　筆写　一巻
※高野山三宝院所蔵本

今回は、叡山文庫所蔵本の外、円応寺所蔵本[17]、駒澤大学図書館所蔵との比較検討のために、対照表を作成し、後に掲げた。ちなみに、西教寺文庫にも「仮名見性」が蔵せられていることを確認した。道元に擬せられる「仮名見性」、あるいは

「梅華嗣書」「業識図」といった典籍が著述されてくる背景について、切紙や本参史料との関係を軸に今後考察してゆきたいと考えている。

（此稿続く）

注

（1）金田弘「叡山文庫と禅籍抄物――主として洞門抄物の種類とその性格について――」（『國學院雑誌』一九八一・五）

（2）「禅籍抄物研究（三）――叡山文庫所蔵本参資料について（上）――」（『駒澤大學禪研究所年報』第一五号、二〇〇四・一二）

（3）石川力山「第三編第六章切紙伝承と近世曹洞宗――「別腹」「没後作僧」関係切紙の近世的変容をめぐって――」（『禅宗相伝資料の研究』下巻所収。二〇〇一・五）石川氏は以下のように分類している。

（一）切紙――ここでは狭義の意味の切紙で、広義の切紙全体の中の本文に当たるもので、各種の儀軌に関する切紙ならば、儀礼の進め方などの指南書の部分、参話関係のものなら公案の本文と、まれには著語・代語も含む部分だけを一紙に書き、さらに授与の年月・記名等を加えたもの。

（二）大事――切紙の本文の趣旨の理解のために、これを象徴的な図形で示したり、図や表示・コトバの組合せなどにより口訣や口伝理解の助けにしようとしたもの。

（三）参――門参資料の伝統線上に位置付けられる形式で、師と弟子の問答の形で切紙の本文の意味を解釈し解明しようとするもの。いわゆる「禅問答」の形式。ただし解釈と言っても、言葉や文意の解説・注釈とは異なり、切紙本文に示される儀礼や口訣類の宗教的意味を、会話の形で究明し合うものと言ってよい。弟子の答えは「代云」と表記される場合が多い。切紙本文は漢文体・和文体の双方あるが、参は口語・仮名書きを通例とする。

（4）飯塚「中世曹洞宗における本参資料研究序説（一）」（『禅学研究』第七六号、一九九八・三）。
同右「潔堂派切紙に関する一試論」（『駒澤大學禪研究所年報』七号、一九九六・三）

（5）本書については、河村孝道氏は『永平正法眼蔵蒐書大成』別巻「解題」において、以下のように説明されている。
〈永久本〉石屋眞梁（一三四五～一四二三）の法嗣・定庵殊禪（山口縣瑞松菴二世・永享四年寂〈一四三二〉）が竹居正猷（一三八〇～一四六一・石屋に嗣ぐ）より相傳し、これを永享二年（一四三〇）正月七日に仲翁守邦（瑞松菴四世中興・文安二年〈一四四五〉寂）へ附屬し、守邦はこれを永享十二年（一四四〇）二月五日に雪峯守孫（瑞松菴五世・長禄三年〈一四五九〉寂）へ附屬したものである。その書寫年時は不詳であるが、永享二年以前、定庵・竹居の本師石屋眞梁よりの傳寫本と思われる。石屋派の嗣法の證として代々傳與されてきたものであろう。尚、永久本には、本書の巻末に「本參目録次第」・「五大老之節用(ママ)代語

参話石屋和尚之下語」が附せられており、永享七年（一四三五）三月十七日に竹居和尚より相傳した識語が見える。

（6）「第二章第七節祚玖関係料　№28永平寺総目録」（『永平寺史料全書　禅籍編　第二巻』、二　〇〇三・一二）

（7）石川力山「第六章　室内（嗣法・三物・血脈）関係切紙」（『禅宗相伝資料の研究』下巻、二〇　〇一・五）。

石川氏は、埼玉県寄居町正龍寺所蔵、天正十九年（一五九一）四月、同寺五世繁室良栄（～一六〇一）より玄悦に付与された「参禅了畢状（仮題）」を紹介されている。

〔参禅了畢状〕

無極門徒之中、
泰叟一派之参禅
了畢、此上之儀、
老僧随身孝順者、可為法嗣者也、
仍如件、

前総持繁室（花押）
維時天正拾九年［辛卯］卯月吉日
附与玄悦禅伯江

（8）円応寺（佐賀県武雄市）所蔵「石屋門派桃岳派本参目録」によれば、

石屋派桃岳派本参目録

最初之一関。大死底句〈於此類則是多〉。非思量一句、首山竹篦、生来処死皈処、仏性空世間空、衲僧生死去来、御影之参、趙州東院西、泰山廟裡
仏祖之一関。功之点処〈於此類則是多〉、臥輪之偈、恵能之偈、葵柳節□、曹山道休、達磨不識話
向上之一関。徳山托鉢〈於此類則是多〉、世尊拈華、□上大悟、天下三人　賊、是三関也。
此□六則［　］則古則也。
家之大事［　］参、一辺消災呪
此外之参［　］

石屋派下の桃岳派においては、独自の「三関」が設定されており、この参禅（公案参究）に相応する印可状が現存する。貞享二年（一六八五）正月に法義が義（祇）春へ与えた「罷参頌」がそれである。

石屋一派之三関通徹之所、悉以印證畢。
罷参頌云、

截断葛藤禅、依旧自在眠。
蘆花与明月、一一是家傳。

旨貞享二年正月日　　法義（花押）
　　授附　　（印）（印）
　　義春首座

地方展開を遂げた林下曹洞宗各派は、公案参学を中心とする独自の教学的体系を有していたと思われる。

(9) 注（3）石川論文参照。石川氏は、以下のように指摘されている。

「また、切紙の集成という作業、さらには冊子への再編成という事態は、切紙伝授の精神の形式化の所産であると思われるが、さらに言えば、数十種から時には数百種にもなる数量の肥大化を反映した現象と言ってもよい。数量の肥大化とはとりもなおさず、そこに付加された仏事法要に対する需要を反映したものと考えざるをえない。そして、増加した切紙の内容を見るなら、たとえば知識葬法・地取作法・四門三匝・入棺作法・下炬・挙饗・没後喚起・亡者授戒・変化授戒・畜生授戒・弁験亡霊現形・鎮例現形・廟移・鎮墓焼法・鎮墓符・非人引導といった、葬送儀礼や追善供養関係のものが圧倒的に多くなり、これらを勘案するなら、この切紙資料が肥大化し集成される時期こそが、禅宗式の追善供養や葬法が社会の各層に広範に普及しはじめた時期に重なるのではないかという推測が成り立つ。」

(10)「第三章第二節高国英峻関係料　№39永平寺話頭総目録」（『永平寺史料全書　禅籍編　第二巻』、二〇〇三・一二）

(11) 金田弘「洞門抄物類書目解題」（『洞門抄物と国語研究』、桜楓社、一九七六）。金田氏によって、以下のように紹介されている。

参禅切紙　写一冊（四八枚）　一二行二八字（タ二七・ヨ二〇・ウ）
智堂光紹（寛文二〇年寂）写（編）　古田紹欽氏蔵

◇本書は、題箋に、「参禅切紙　後巻　光紹叟」とあるように、前後二巻のうちの後巻である。前後合わせて一九六種の切紙類を収めてあったことが、永平寺四二世江寂円月の認めた識語（延享二年）によって知られるが、本巻には、「文禄四年」「慶長四年」「同十一年」「寛永十二年」「同拾九年」などの年を記した五八種の切紙・大事・参などが収めてある。本文の一つ一つの切紙類に智堂光紹（恵輪水明禅師）の朱印（長方形。白文）が押されているところから、総寧寺から永平寺三〇世に出世した寛文四・五年ごろ、永平寺で、総寧寺関係の切紙・伝参、永平寺関係の切紙・大事の類などを撰して編纂したものと考えられる。ただし、末尾に前述の円月和尚の識語などがあるところから、延享年間に改めて前後二冊に仕立てられたことも考えられるが、本巻は一丁から一八丁までと、一九丁から四四丁までの本文はそれぞれ別筆である。随侍の僧などに書写させたものか。また、花押の書き表わし方からみると、智堂自筆本を転写して押印した副本のような書とも考えられる。「切紙」「大事」の類は、漢文体。「参」はデ走（ダ・デソロ・ナリ）、または一部漢文体である。

(12) 光紹所伝の切紙は、「№21　道元和尚嗣書切紙」「№25　永平和尚一枚密語」「№26　元和尚黒衣之由来」「№27　宗旨秘書」「№28　血脈袋之大事」「№29　山居傳戒切紙」「№51　栄西僧正記文」（以上『永平寺史料全書　禅籍編　第一巻』所収）、「№43　一条紅線」「№45　卵形之図」（以上『永平寺史料全書　禅籍編　第二巻』所収）、「№1　法衣傳授之時参」「№2　袈裟之切紙」「№3　卵形血脈并参禅」「№4　十智同心」「№5　州縣村」（以上『永平寺史料全書　禅籍編　第三巻』所収）、上記十五通が永平寺に現存する。

(13) 永平寺所蔵『佛家之大事』の奥書によれば、

従開山大禅仏二代参問了、二代示義介、
義演、寂円、当山代々住持計可相伝者也、
当山伝法二十八世勅特賜大覚仏海禅師鉄心御州筆

本書は、道元、懐弉、義介、義演、寂円以降、その派下に相伝されてきた本参であることがわかる。しかしながら、本書端裏に、

此レハ御州禅師直筆ニテ、絹地ニ書レタルモノ尓、宝法脈箪笥中ニ有リ、此レハソノ写ナリ、

とあることから、宝法脈箪笥に収蔵されていた絹本の『仏家之大事』が永平寺二十九世鉄心御州（～一六六四）の自筆原本であり、本書はその写しであることがわかる。本書の内容は、寂円派下に相伝されてきた切紙の参の集成である。ちなみにその切紙の種類をあげれば以下の通りである。

(1)勤行、(2)粥了諷経、(3)観音経・大悲咒読誦、(4)日中祈祷、(5)放参、(6)回向、(7)四時坐禅、(8)鶏鳴の一点、(9)小開城（静）、(10)大開城（静）(11)鐘鼓、(12)土地神、(13)祖師堂、(14)御影堂法華経読誦、(15)祠堂の本尊、(16)鉢、(17)聖僧、(18)小施餓鬼、(19)祝聖、(20)韋駄天、

(14)「第三章第四節鉄心御州関係史料　№42吉祥山永平寺総話頭目録本参」（『永平寺史料全書　禅籍編　第二巻』、二〇〇三・一二）

(15) 椎名宏雄「六地蔵寺所蔵無名冊子について」（『宗学研究』第一四号、一九七二・三）
　同　右「六地蔵寺所蔵禅籍目録及び開題」（『書誌学』新二六・二七号）

(16) 同　右（『宗学研究』第一八号、一九七六・三）

(17) 円応寺所蔵「秘録」にも「仮名見性」と見え、今日も現存する「仮名見性」の奥書には、「寛永禄五年〈壬戌〉（一五六二）五月上旬日圓應隱老真如子為児孫書之。／前総持妙音天義付与勝鈍了、□以／圓應丈室置焉。／寛元和五〈己未〉〈一六一九〉年黄梅吉日」とある。

［記］

本稿は、平成十五年度特別研究助成（個人）による研究成果の一端である。

永平寺所蔵『切紙目録』関係史料対照表

	永平寺所蔵『切紙目録』（嚴巖英峻書写、光紹智堂所持）	駒澤大学図書館蔵『室中切紙謄寫』	面山瑞方『洞上室内断紙擿非私記』	普満韶堂関係「切紙」目録（正龍寺所蔵）	『参禅切紙　後巻』（故古田紹欽氏所蔵）	参考史料
1	一、竹篦切紙	(23) 竹篦切紙 (41) 竹篦・拄杖参話并注脚	(75) 竹篦切紙 ［外に(82) 竹篦拄杖参話竝圖(112) 竹篦拂子拄杖寸尺切紙あり］	(77) 竹篦切紙（鉄心御州→普満韶堂、従永平室中直伝） (82) 拄杖・拂子・竹篦之図（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持） (83) 竹篦由来（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持		
2	一、手形事		(27) 手形切紙			
3	一、露柱切紙		(60) 露柱切紙			
4	一、知識三々行		(126) 知識三箇行話			
5	一、祖師禅切紙	(93) 祖師禅切紙 ［外に(92) 祖師禅嫌道話切紙あり］			(54) 祖師禅切紙	
6	一、無住相					
7	一、宗門五図之参					
8	一、宗門四字参					
9	一、施餓鬼切紙	(19) 施餓鬼之切紙		(69) 施餓鬼焼香作法（鉄心御		

				州↓普満韶室、従永平室中直伝）
10	一、九識円備		（135）九識圓滿切紙	
11	一、両鏡之図		（44）両鏡圖大事	
12	一、七佛直伝印心	（13）七佛傳授戒法之二枚紙（心田之話・（カ）五相之圖）	（4）過去七佛心字參	
13	一、道元十三則目録		（94）道元十三則目録	
14	一、念佛切紙		（73）念佛切紙	
15	一、知識上参			
16	一、頂門眼切紙		（103）頂門眼切紙	
17	一、誰十八則拗破図添		［（102）誰圖大事黒圓（カ）］	
18	一、拂子	（42）拂子	（76）拂子切紙	
19	一、永平宝鏡三昧図			（32）寶鏡三昧
20	一、米門之切紙	（34）米門之切紙	（78）米門切紙〈松ト梅ト棒ト牡丹トノコト〉	
21	一、正伝始末切紙		（21）正傳始末切紙	
22	一、天童一紙大事		（61）天童一紙大事	
23	一、先祖廟移切紙	（47）廟移作法	（73）廟移截紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）	
24	一、先師取骨大事	（46）先師取骨之大事	（113）先師取骨切紙	
25	一、卍字之図	（37）卍之切紙	（50）卍字之圖	（80）卍之實裡紙（従永平寺室

		「外に（48）卍字大事（49）卍字切紙〈卍字ハ七ノ字十ノ字トニヲアリ〉」	中直伝、普満韶堂所持カ）			
26	一、臨終五問答	（134）臨終人問答切紙				
27	一、耳口之偈血脈					
28	一、住吉大明神之切証			（28）住吉五ヶ条託宣		
29	一、光明之迷	（36）光明迷参				
30	一、涅槃之作法					
31	一、大（太カ）白峰記			（38）太白峰記		
32	一、人々具足図	（109）人人具足圖切紙				
33	一、合封之切紙	（45）合封折角之切紙		（2）「合封参」		
34	一、山門之図	（33）山門切紙		（52）山門切紙		
35	一、上来之図					
36	一、伝儀加行	（10）傳儀加行				
37	一、御大事看経回向	（20）御大事　看経・回向	（104）御大事看經回向切紙			
38	一、七佛伝授作法					
39	一、洒水室中秘伝［則是訓訣也、二通］		［（41）曹洞三種訓訣（カ）］			
40	一、佛々相傳戒作法	（13）七佛傳授戒法之一枚紙（心田之話・				

	五相之圖）カ				
41	一、多子塔前傳附作法之作法	（43）多子塔前傳附法切紙	（128）多子塔前傳付作		
42	一、七佛師承道場莊嚴切紙	（21）道場莊嚴之圖			
43	一、伝法義儀軌	（3）傳法之儀軌	［（132）室中儀軌參（カ）］	［（87）伝授之儀軌（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）］	
44	一、血脈道場儀式		（121）血脈道場儀式		
45	一、伝法儀式				
46	一、伝底作法			［（64）檀家血脈行時道場莊嚴（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）］	
47	一、道場莊厳図	（21）道場莊嚴之圖			
48	一、道場儀式				
49	一、伝授道場次第				
50	一、御開山伝法儀式				
51	一、道場莊厳儀式				
52	一、授戒之作法				
53	一、七佛伝授戒法一枚書、				
54	一、法嗣儀記	（1）嗣法之儀記			
55	一、伝法儀式、				

56	一、嗣書伝授儀記、			
57	一、嗣法論	(2) 嗣法論	(138) 天童與道元問答嗣法論〈妄説也〉	(16) 嗣法論大事
58	一、永平寺参禅切紙目録			
59	一、血脈袋大事	(17) 血脈袋之大事（子狐トモ）		
60	一、問訊之大事		(75) 問訊切紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）	
61	一、三十四話切紙			
62	一、宗門十八種劔			
63	一、没後作僧切紙、			
64	一、安座点眼［四通］	(29) 安座点眼 (30) 開眼点眼切紙并塔婆点眼	(71) 塔婆点眼大事（鉄心御州→普満韶堂、従永平室中直伝、寛文四年二月吉日）	(20) 安座點眼大事
65	一、六祖筆紙図［一通	(11) 六祖示青原半紙大事		
66	一、嗣書焼却大事［二通		(81) 嗣書焼却貴裡紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）	
70	一、一條紅線	(66) 濟下一條紅線切紙	(105) 住山大事切紙	(22) 住山眼大事
71	一、住山之大事	(18) 住山之大事		

72	一、八師之次第	(124) 八師次第切紙〈傳法師傳戒師受戒師參學師言行師依止師学得師右妄説也〉				
73	一、達磨知死期秘密	(117) 達磨知死期之祕密				
74	一、鉢盂之切紙					
75	一、龍天勘破図					
76	一、日用行事作法、	(58) 日用行事作法祝聖切紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）				
77	一、栄西記文		(39) 榮西記文			
78	一、嗣法論始終					
79	一、三悟道一位図	(86) 三悟道同切紙				
80	一、牌当之大事	［(85) 牌塔伝授截紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）］				
81	一、四十九位之本位	(116) 四十九餅本位切紙				
82	一、四句之文切紙	(39) 四句文之切紙	(52) 諸行無常四句切紙	(7) 四句文参		
83	一、衣鉢血脉作法	(30) 衣鉢血脈傳授作法	(60) 衣鉢血脈伝授作法（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）			

84	一、天竺二枚紙		(13) 天竺二枚紙	(57) 仏祖以前血脈天竺二枚截紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）		
85	一、三老普門大事		(16) 三老普門大事〈釋迦文殊彌勒〉			
86	一、三国一位図		(9) 三國一位之血脈			
87	一、永平一枚密語					
88	一、四処平夜図		(43) 四處平夜之圖參			
89	一、二度伝授	(14) 二度傳授參	(107) 二度傳授切紙			
90	一、嗣書地絹之様子	(4) 嗣書地絹之樣子	(111) 嗣書地絹切紙			
91	一、法衣伝授参事〈法衣傳授之時參話〉	(33) 山門法衣之大	(28) 法衣傳授參話			
92	一、袈裟之大事		(25) 袈裟大事圖「外に(26) 袈裟心傳大事あり」	(53) 袈裟大事（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）		
93	一、襪子之切紙		(55) 襪子切紙			
94	一、仏頂上円相切紙		(42) 佛頂上圓相圖切紙		(1) 圓相參、(25) 血脈圓相大事	
95	一、鷺鷥切紙		(56) 鷺鷥切紙			
96	一、御影切紙				(56) 御影画像書様	

97	一、勃陀勃地切紙［二通］		(35) 勃陀勃地斷紙		(8) 勃陀勃地參
98	一、宗旨秘書	(12) 宗旨秘書	(63) 宗旨祕書		
99	一、住持焼香切紙		(72) 住持焼香切紙		
100	一、曹洞八圏図［三通］		(33) 曹山八圏圖		
101	一、白蛇之切紙	(28) 白蛇切紙（帰朝本則）			
102	一、漆下之御大事				
103	一、竹梅之切紙				
104	一、林際曹洞両派血脈		(65) 臨済曹洞両派血脈		
105	一、鎮守之切紙	(25) 鎮守切紙	(51) 鎮守切紙		(12) 鎮守参、(31) 鎮守之参
106	一、霊供之切紙		(70) 亡者靈供切紙 (71) 亡者靈供切紙〈龕前熱田明神ニ上ルコト本地不動明王ト云コト〉	(84) 霊供秘極（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）	
107	一、最極無上之大事		(40) 佛祖正傳菩薩戒血脈最極上大事		
108	一、拈奪瞎之切紙		(100) 拈奪瞎三事切紙		
109	一、戒文参［二通］		(23) 戒文傳授參〈代		

110	一、香厳樹上切紙［二通］		語〉 （24）戒文拈提参〈代語〉	
111	一、劒刃上之切紙		［（85）天童山樹上切紙〈大極ト五位ノコト〉（カ）］	（59）［香厳樹上話（仮題）］（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）
112	一、拈花微笑之図［七通］		（84）劒刃上切紙 （46）拈華微笑訣参〈他家訓訣邪解カナ抄ナリ〉	
113	一、非人亡者結縁大事	（50）非人亡者之事		
114	一、十三佛之切紙		（115）十三佛血脈切紙	
115	一、善知識切紙		（57）善知識切紙	
116	一、嗣書相伝巻			
117	一、達磨一心戒儀同十戒之図		（93）祖師禅切紙	
118	一、祖師禅切紙 ※5ニモアリ		［外に（92）祖師禅嫌道話切紙あり］	
119	一、文殊手内一巻経		（133）文殊手内一雀経〈一名佛説三身壽量	

		無邊經コレ僞經ナリ〉		
120	一、栄西僧正記文録			
121	一、七佛血脈図［二通］	(1) 過去七佛血脈	(61) 七仏血脈図諸話頭根本（鉄心御州→普満韶堂、従永平室中直伝）	
			(62) 過去心字血脈一大事（鉄心御州→普満韶堂、従永平室中直伝）	
122	一、達磨三安心図［二通］			
123	一、九六三之大事			
124	一、白山妙理大権現切紙［三通］	(31) 山神授戒〈白山也、様子ト図アリ〉	(6) 白山妙理断紙	(65) 龍天授戒作法（鉄心御州→普満韶堂、従永平室中直伝）
				(74) 龍天血脈（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）
125	一、一中十位抄		(38) 一中十位切紙	
126	一、応身之録		(2) 應身録	
127	一、済下印可切紙			
128	一、緒環之参		(31) 緒環之参	
129	一、大蔵法教略要之図之下			
130	一、十佛名之大事切紙	(7) 十佛名切紙		

131	一、臨終問答			
132	一、遺戒之偈	(24) 遺誡之偈	(106) 遺誡偈大事	
133	一、伝法偈［三通］			
134	一、御開山黒衣之由来		(64) 元和尚黒衣由來	
135	一、四恩之参		(122) 四恩參	
136	一、君公書		(99) 君公書切紙	
137	一、身心脱落	(40) 身心脱落	(87) 身心脱落切紙「外に（88）脱落脱落切紙（89）脱落身心○初◎●あり」	
138	一、銀銭馬形之秘書		(74) 銀錢馬形切紙	
139	一、十宗之弁別			
140	一、晦翁弦望之図切紙		(123) 晦翁弦印切紙〈月圓〉	
141	一、誰之図大事		(102) 誰圖大事黒圓	
142	一、正法眼蔵血脈	(15) 佛祖正傳正法眼藏血脈		
143	一、卵形之血脈［并参禅有之三通］		(62) 大陽卵形見龍圖斷紙	
144	一、二句之偈嗣書［十通］		(68) 二句偈嗣書〈周穆王達磨聖德太子〉	(15) 二句偈參

145	一、白山妙理之図［并参禅］		［外に（69）二句偈傳授血脈竝十如是大事あり］	
146	一、三位三裏図		（96）州縣村切紙	
147	一、五位別紙	（26）五位之別紙亦五体五輪之圖	（14）洞山五位切紙〈亦名五體五輪圖〉（カ）	
148	一、皇城廿一社巡礼之切紙			
149	一、七堂之図		（39）七堂伽藍圖切紙	
150	一、御開山嗣書切紙		（17）道元嗣書不同切紙（カ）	
151	一、福田衣		（32）福田衣之參	（72）福田衣切紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）
152	一、大善知識頂上之達切紙		（47）大善知識頂上三世了達圓滿一⊙切紙	
153	一、頂相之大事			
154	一、林際三句切紙		（83）臨済三句切紙	
155	一、洞山价尊像			
156	一、大陽真賛		（22）大陽眞賛參話	
157	一、十智同真		（114）十智同眞切紙	

158	一、三宝印之大事［二通］	(8) 三寶印（嗣法之印籠相傳時之一紙）	(79) 三寶印切紙		
		(9) 三寶印之大事	(80) 三寶印大事		
159	一、參禪證地之切紙［二通］				
160	一、無之切紙［二通］	(38) 無之切紙			
161	一、諸佛影像抜精之一紙				
162	一、銀相（箱カ）鎖子之切紙	(44) 銀箱鎖子之切紙	(77) 銀箱鎖子切紙		
163	一、続松秘要		(53) 續松祕要參［外に(54)續松切紙あり］	(54) 続松截紙（従永平寺室中直伝、普満韶堂所持）	(29) 續松之切紙、(40) 太陽玄銀箱鎖子
164	一、三国流伝書		(12) 三國流傳之圖		
165	一、三国流伝乾栗陀耶差別切紙				
166	一、三国伝灯切紙				

（※各史料の（　）内の番号は、筆者が付した整理番号である。）

『仮名見性抄』三本対照表

叡山文庫所蔵『仮名見性抄』	円応寺所蔵『仮名見性』	駒澤大学図書館所蔵『假名見性抄』
「表紙」 假名見性抄目録 (1) 向上 一 (2) 向下 二 (3) 理致 三 (4) 機關 四 (5) 大疑 五 (6) 大悟 六 (7) 大用 七 (8) 大徹 八 (9) 本來面目 九 (10) 見性 十 (11) 得法 十一 (12) 无相 十二 (13) 无念 十三 (14) 教内 十四 (15) 教外 十五 〈以下目録を欠く〉	(目録無シ)	(目録無シ)

□南谷　淨教房　眞如藏　百五十四　惟

假名見性抄

禅ト者如来ノ心法、教文ニト丶コヲラス、只自己ヒトリ覚ル法也、」故ニ経ニ云、唯獨自明了、餘人所不見、トイヘリ、然則八十四年ノ末ニ曾テ」一字ヲモ不ニ説玉ハ一、滅後二十八祖ヒトヘニ心印ヲ傳テ、文字ヲ不レ立、」（第3折）佛成道ヨリ以来タ、一字ヲモ不レ説、ト説キ玉ヘリ、祖師心法ノミ傳、」ト云ヘリ、然則名ト云テ可レ名无レ法モ、言トシテ可レ宣モナシ、雖レ然佛應シ」レ病ニクスリヲ設（マウケ）玉フ衆生病ノヲ丶キカ故ニ仏ノ薬モ无レ尽コト也、佛」説ハ雷ノ似リ走ニ法雨ヲ洒（ソヽ）キ以テ、衆生ノ煩惱垢ヲアラウ、祖師ノ言」句ハ火ノホトハシニ似リ、我等カ无明ノ暗ヲ破ル故ニ、佛説ヲユルヤカニスヘ」（第4折）カラス、着テ地ニ月ヲサスト思ウヘカラス、祖師ノ言句ヲ不レ可レ疑、又是ヲ」實ニシテ瓦ヲトリテ玉トスル事ナカレ、惣シテ物トシテ着スル事ナシ、着スレハ、輪」廻ノ根本ナリ、爰ニ知ヌ物ヲ嫌ニアラス、着ヲキラウナリ、文字言句ニハ、」トカハナカリケリ、文字言句取テ、心ヨリ外ニアリト思ニ、外ニモトムル

○假名見性

禅ト者、如来之心法ハ、教文ニト丶コヲラス、只自己独覚ノ」法也、故曰、唯独自明了、餘人所不見、ト云也、然則八十年ニ未曾」不説一字ヲ、滅後二十八祖モ偏ニ心印而已傳テ、文字不立、佛成道ノ」以来、一字ヲ不説言ヱリ、祖師之心法而已、語ヲ不レ傳、ト云ヱリ、然則名（ナ）」ト云テ、名ツケヘキ法モナク、言トシテ宣ヘキ言モナシ、雖レモ然佛ハ應シテ病薬ヲ」与給ウ、衆生ノ病多カ故ニ、佛ノ薬モ無尽也、祖師ハ我等鈍癡ノ為ニ計事」ヲ成、詞ヲハキ玉ウ、佛説ハ雷ノ走カ如シ、法雨ヲソヽキテ、以テ煩惱ノ垢ヲ洗ィ」祖師ノ言句ハ、火ノ迸ルニ似、我等カ無明ノ暗ヲ破ガ故ニ、佛説ヲイルカセニスヘカラス、又」差（サシ）テ指ヲ取テ月ト思フ不レ可、祖師ノ言句ヲ不可疑、又是ヲ實トシテ瓦ヲ」取テ玉トスルコトナカレ、捻シテ物ニ着スルコトナカレ、着ハ輪廻ノ根本也、此ニ知ヌ物」ヲ嫌（キラウ）ニアラス、只着ヲ嫌也、文字ト言句ニ過ハナシ、文字言句ヲ取テ、自身」□□外ニ有ト思テ、

假名見性抄

禅ト者（ハ）如来ノ心法、教文ニ不レ留（ト、コホ）ラ、只自心獨覚之法也。故ニ経ニ」曰ク、唯獨自明了、餘人所不見、ト云ヘリ。然ハ則佛在世八」十年ニ、未タ曾テ一字モ不レ説キ玉ハ、滅後二十八祖偏ニ心印ヲ耳（ノミ）」傳テ、文字ヲ不レハ立、佛成道以来、一字モ不レ説、々キ玉ヘリ。祖師ハ心」法ヲ耳（ノミ）傳テ、語ヲ不レ傳ト云ヘリ。然ハ則名ニ云テ可ニ名付一ク法モ无ク、言ハトシテ」可レ宣言モ無シ。雖レ然佛病イニ應シテ薬ヲマウケ玉フ。衆生ノ病多キカ」故ニ、佛之薬モ无尽也。祖師ハ我等ガ鈍智ノ為メニ計（ハ）コトヲ詞ニ」弁ヘ給ヘリ。佛ノ説ハ雷（ライ）ノ走ニ似タリ。法雨ヲ洒（ソヽ）イテ、以テ衆生ノ煩惱ノ垢（アカ）ヲ洗フ。祖」師ノ言句ハ火ノ迸（ホトハシ）ルニ似テ、我等カ无明ノ暗ヲ破ガ故ニ、佛説ヲユルカセニスヘカラス、」（1オ）又著シテ指ヲ把テ月ト不レ可レ思、祖師ノ言句ヲ不レ可レ誹（ソシ）ル。又是ヲ為シテ実ト、」瓦ヲ把テ莫レ玉トスルコト。捻（スヘ）テ物トシテ莫レ著スルコト。著スレハ、輪廻ノ根本也。此（コヽ）ニ知ヌ、物ヲ非ズ」嫌（キ）ウニハ、只著ヲ嫌フ也。文字ト与ニハ言、咎莫（トカナ）リケリ。文字言句ヲ取テ、自リ心外ニ」有レ法思テ、外ニ求ルヲ、過（トカ）ト説也。

ヲ、過」説ナリ、其佛祖ノ言句ハ、向上・向下・理致・機関・大疑・大悟・大用・（第5折）大徹・本来ノ面目・見性・得法・無相・無念・教内・教外ナリ、佛祖ノ」言句雖レ多ト、是ヲ不出、言ハ、佛祖ノ骨髄、衆生ノ自己本分ナリ、」是ヲヨク〳〵心得テ傳ル処ヲモトヽメスシテ、懇ニ工夫ヲスヘシ、則生」死路頭ヲ截断シ、於レ法ニ自在ヲ可レ得、此ノ人ヲ観自在王如来ト名付、又ハ發心究竟ノ如来ト名付、十方ノ聖衆、爰ニ囲遶シ擁護ス」（第6折）護ス、四天ハ廻レ鉾、是人ヲ守ナリ、」

向上　一」

向上トハ、佛祖直ニ説法ノ相ヲ説ニ殊ナル无レ義、天ハ是天、地ハ是地、山ハ是」山、水ハ是水トサス所ナリ、我等衆生ハ、凡夫ノ心也、其凡夫トハ、空ニ」（第7折）シテ不空ニ、妙ニシテ不妙ニ、邪正モナク、迷悟モナク、三世モナク、十方モナシ、」東西モナク、南北モナシ、故ニ佛ヲ説玉ヘ、迷故ニ三界ハ城、悟ル故ニ十方ハ」、自レ本東西モナケレハ、何処ニカ南北アラン、ト也、又祖師ノ云、此心ヲ有ト」モ不レ言、

外ニ求ムルヲ過ト説也、○其佛祖ノ言句ハ、向上・向下・理」（1オ）致・機関・大疑・大悟・大用・大徹・本来ノ面目・見性・得法・無相・無念・教」内・教外也、○佛祖言句雖レ多、是ヲ出ス、佛祖ノ骨髄、衆生ノ自己本来ノ」田地也、是ヲ能々心得テ、得処ニトヽマラス、慇懃ニ工夫スヘシ、即生死ノ路頭ヲ截断シ、於レ法ニ自在ヲ得ヘキ、此人ヲ観自在王如来ト名ク、又發心究竟」王如来トモ名ク、十方聖衆モ此ニ囲遶シ擁護ス、諸天ハ鉾ヲ廻シテ、是人ヲ」守ル而已也、

○向上

向上ト者、佛祖直ニ諸ノ相ヲ説玉也、異義ナシ、天ハ是天、」地ハ是地、山ハ是山、水ハ是水、當体ヲ不動指処也、我等ト衆生ト、凡夫ノ心ナリ、」其凡夫ノ心トハ、空ニシテ空ニアラス、妙ニシテ妙ニアラス、邪正モナク、迷故悟ナシ、三世ナク、」十方ナシ、東西ナク、南北ナシ、故佛説ニ云、是心ヲ有トモ云ワス、無トモ云ワス、一ト」モ云ワス、一ニ有無合テ無性ト云ヘリ、此ノ心

夫佛祖ノ言句、向上・向下・理致（チ）・」機関（クワン）・大疑・大悟・大用・大徹（テツ）・本来ノ面目・見性・得」法・无相・无念・教外・教内也、佛祖ノ言句雖レ多シト、是ヲ」不過、言ハ、佛祖ノ骨髄、衆生ノ自己ノ本分也、能々心得テ得ル」所ニ不留シテ、懇ニ可レ為ス工夫一ヲ、則チ生死ノ路頭ヲ截断シ、於レ法ニ自」在ヲ可得、此人ヲ観自在王如来ト名付ク、又ハ發心究如来ト名」付ル十方ノ聖衆、此ニ囲遶シ擁應護ス、四天王ハ鉾（ホコ）ヲ回（メクラ）シテ、此」（1ウ）人ヲ守ル而已、」

△向上　」

向上トハ者、佛祖直ニ諸説法ノ相ヲ説ニ殊成ル无レ儀、天ハ是天、地ハ」是地、山ハ是山、水ハ是水、當体ヲハタラカサス、指所也、又我等衆」生ノ凡夫ノ心也、夫凡夫ノ心トハ、心空ニ非ス妙ニシテ非レ妙ニ、邪正無ク、迷悟モ」無ク、十方無ク、東西モ無ク、南北モ无シ、故ニ佛説給ワク迷カ故ニ道ニ三界」有リ、悟ガ故ニ十方モ无シ、本ヨリ東西無シ、何処ニカ南北有ントハ云ヘリ。又祖師」ニ云、此心ヲ有トモ不レ言、无トモ不レ言、一トモ

无トモ不レ言、一トモ二トモ不レ言、一二有無ナラビニ无ト云ヘリ、此ノ心」法界ノ心ナル カ故ニ衆生ノ心モナク、諸佛ノ心トモ云心モナシ、喩ハ大海ノ」（第8折）水ノコトシ、淺キ深キ処ノ水ニ差別无カ如シ、衆生、此心ニ迷マヽアサキ処ノ」水ニ喩、悟ハ各別ナリト雖モ、心ノ水ハ一ナリ、サレハ、悟ニモ不レ住、迷ニモ不」レ留、只心ニ自在ナルヲ向上ト云也、此前ニ、臨濟禅師、僧ノ門ニ入ヲ見テ」喝スル、是シニハ不レ留　德山禅師、如何是佛法ト問シカハ、則棒スル」一棒モ未タ心法ニハアラス、何ヲ以テナレハ、心トシテ別ニナスヘキ心モナシ」（第9折）法トシテ又可レ説法モナシ、故ニ圓覺經ニ云、修多羅ノ教ハ月ヲ」指カ如シト説キヘリ、又圓悟禅師ノ、言句ハ門ヲタヽク瓦ト云ヘリ」然ハ、向上ノ一路、千聖不傳ト云ヘリ、若シ向上ノ一路ヲ知ラント思ハヽ」可レ見、須弥ハ崩レテ在レ地ニモ、浪ハ水ヲ離テナシ、（第10折）

向下　二

向下ハヽ、万像惣持ノ言句也、諸塵三昧ノ心ナリ、万像惣持ノ言」句ナリト者、万法ハ是一心ハ、法界ヲ心トシテ、衆生ノ心ト云心モ無ク、諸佛ノ心ト云心無ク、タトヘハ大海ノ水ニ深淺ノ差別有カ如シ、衆生ノ性ハ、是心ニ迷ヲ淺キ処ノ水ニタトヘ、諸佛ハ、是ノ心ヲ悟ルヲ深処ノ水ニタトヘ、迷悟ハ各別也トイヘトモ、心水ハ」（1ウ）是一也、サレハ、悟ニモ不住、迷ニモ不住、只心自在ナルヲ、向上ノ一路ヲ蹈得タル人ト云也、」臨濟禅師、入門スレハ、即喝ス、一喝モ此心ニ不留、徳山禅師ニ、如何是佛法ト問ヘハヽ」即棒スル、一棒モ未レ心法ニ、如何トナレハ、心トシテ別ニ可レ示心モ無ク、法トシテ説ヘキ法モ無故ニ」圓覺經ニ曰、修多羅ノ教ハヽ月ヲサス指ト説リ、圓悟禅師ノ、言句、門ヲ扣瓦子ト云ヘリ」然ハ、向上ノ一路ヲハ、千聖不傳ト云ヘリ、若向上ノ一路ヲ知ラント思ハ、須弥ヲクツシテ地ニ在リ」浪ハ水ヲ不離

○向下

向下ト者、万像捻持ノ言句也、諸塵三昧ノ心也、万」像惣持ノ言ト者、万法ハ是一心不レ言一トモ不レ言、一二有无并テ」生無シト云ヘリ、此心ハ法界ノ心成ルカ故ニ、衆生ノ心ト云心モ無シ、諸佛ノ心ト云心」モ無シ、譬ハ大海ノ水ノ如シ、浅処深所ノ水ニ差別ノ无カ如シ、衆生、此心」（2オ）迷マヽ、浅キ所ノ水ニ譬ヘ、諸佛ノ此心ヲ悟マヽ、深所ノ水ニ譬マヽ、迷悟各別」成リト雖モ、心水ハ是一也、去レハ、悟ニモ不レ住セ、迷ニモ不レ留トヽコホ、只心ニ自在成ルヲ向」上ノ一路ヲ蹈得タル人ト云也、此前ニハヽ、臨濟禅師、僧ノ門ヨリ入ヲ見テヽ」喝スル一喝モ、此心ニ明メヽ、徳山禅師ニ、僧、如何是佛法ト問シニ、則棒セシモ」未心法ニ不當、如何トナレハヽ、心トシテ別ニ可レ得心モ無ク、法トシテ又可レ説一法モ無ヽ、故ニ圓覺經ニ云、修多羅ノ教ハ月ヲ指ト説給ヘリ、又圓悟禅」師云、祖師ノ言句ハ門ヲ敲ク瓦ト云ヘリ、然ハヽ、向上ノ一路ハヽ、先聖不」傳ト云ヘリ、若向上ノ一路ヲ知ラント思ハヽ、可レ見、須弥崩レテ地有リ、浪ハ水ヲ離テ無シ、

△向下

向下ト者、萬象捻持ノ言句也、諸塵三昧ノ心也、萬象」（2ウ）捻持ノ言句ハヽ、一ニハ萬法

心ナリ、一心ハ是万法ナリ、山河大地ハ佛」心ナリ、古人ノ云、心則山河大地ナリ、又法界ノ心躰ハ我心躰」、我心躰ハ是法界ノ身躰也、故ニ肇法師ノ云、天地ト我ト同根、万」（第11折）物ト我ト一躰也、春生シ夏長シ、秋凋ミ冬落ツ、是諸人ノ現前」三昧ト云ヘリ、故ニ法界トシテハ、我等ガ生老病死ノ四苦ナリ、法界ノ」四氣来云ハ、天地ニ煩イナシ、又我等カ生老病死四躰タイ、全ク」心法ニアラス、此ヲ不レ知シテ、衆生ノ心疎ニシテ、カリノ四躰ヲ實ト思テ、六道」輪廻ス、心ハ又无心ニシテ、其實性ナシ、病ト死トノ煩イナシ、華厳」（第12折）経ニ云、躰ハ則法界ノ心空寂ナリ、空寂ノ心ヲ不レ悟、ミタリニ實」アリト思テ、生死ニ流轉シテ、无量ノ苦ヲウクルナリ、故ニ経ニ云、空理ヲ」シラサルカ故ニ、生死輪廻スト説玉ヘリ、然則、法界ヨリ生シ、法界ヨリ」死ス、サレハ、生スルコトヲモ不レ願、死スル事ヲモイトワス、モトヨリ法界ノ死」ナルカ故ニ、古人ノ云、生ト云コト万法衆生ナリ、死ト者不死ナリ、智」（第13折）覚禅師云、生ト者、万法衆生ノミナモトナリ、死

也、一心ハ是万法也、山河大地ハ仏心也、古徳云、佛心ハ即山河」大地也、又法界ノ心体也、是我ガ心体也、我ハ是法界ノ心体也、故ニ肇法師ノ云、天地与」我同根、万物与我一体也、春生、夏長、秋凋ミ、冬落、是諸人現前ノ三昧也ト云ヘリ、」故ニ知ル、又法界ニシテワ、我等ハ生老病死ノ四苦也、法界、四季去リ来ルニ、天地ニ煩ナシ、又我等」生老病死ノ四体ヲ生シ、去来於ニ全ク心法ニ、生老病死ノ四ワ無、如何トナレハ、心ハ無心也、法モ」無相也、無心無相ナレハ、生老病死ト云四体モナシ、故ニ毘婆戸佛ノ云、身ハ従ニ無相中一受レ生ヲ」（2オ）□□幻出ニ諸ノ形像ヲト云ヘリ、幻ハ本ヨリ實相ナケレハ、出処ノ形像ニ、何ノ實カアラン」衆生ノ心愚ニシテ、假ノ四体ヲ實ト思イテ、六道ニ輪廻ス、心ワ、又無心ニシテ、其實性ナケレハ」生老病死ノ煩ナシ、故佛ノ云、人心ヲ悟ハ、本ヨリ無シ、無ナレハ、空シテ住処無ト説玉フ」又華厳経云、体ハ即法界也、心ハ空寂也ト説リ、空寂ノ心ヲ覚ラスシテ、此心ヲ實」ニ有ト思テ、生死ニ流傳（轉カ）シテ、無量ノ

是一心也、一心ハ是萬法也、山河大地」ハ是佛心也、古人ク、心則山河大地也、又法界ノ心体ハ是我体也」、我心体ハ是法界ノ心体也、故ニ肇法師云、天地我ト同根也」萬物我ト一体也、春ハ生シ夏ハ長シ、秋ハ凋ミ冬ハ墮ツ、是諸人現」前ノ三昧也ト云ヘリ、故ニ知ヌ、法界シテ我等ガ生老病死ノ四苦也、法界」四氣ニ去ニ天ト地煩無シ、又我等ガ生老病死ノ四体ノ生ヲ去ルニ」全ク心法ニ置キテハ、生老病死ノ四苦無シ、如何トナレハ心トハ无心也、法ト者」无相也、无ナレハ、生老病死ト云体モ亦無シ、故ニ毘婆戸佛ノ偈ニ曰ク」、身ハ無相ヨリ生ヲ受タリ、猶シ幻ニ諸ノ形像ヲ出スガ如シト云ヘリ、幻ニ自本」実相無クレハ、出処ノ形像ニ何ノ実カ有ン、衆生ノ心愚ニシテ、假ノ四体ヲ実ト（3オ）思テ、六道ニ」輪廻ス、心ハ又心ニシテ、其実性無レハ、病ト死トノ煩無シ、故ニ佛ノ曰ク、人ノ」心ヲ覓リヌレハ本ヨリ无也、无ナレハ善悪モ皆空ニシテ住スル処無シト説玉ヘリ、又花厳経ニ」云、体則チ法界也、心ハ空寂也ト説給ヘリ、空寂心ヲ不レシテ覚ラ、乱ミダリ此心ヲ実ニ」有ト思テ生死ニ流轉シテ、无量ノ苦ヲ受也、故ニ経ニ云、空ノ理ヲ不レ知カ故ニ」輪廻スト説給ヘリ、然ハ則、

トハ、諸佛入定」義ナリ、生ニ生ナシ、妄ニ妄ナシ、ト云ヘリ、又諸塵三昧トハ、煩惱」ナリ、又ハ妄念ナリ、三昧ト云ハ、定ノ義ナリ、菩提ノ性ナリ、諸寂ノ」根源ナリ、尋レハ、貪瞋癡ノ三毒ナリ、三毒ヲ尋レハ、只心ノ一法」ヨリ生ス、其一法□（ヲカ）尋ハ、空ヲ以テ躰トス、形像空寂ニ形像ナシ、」（第14折）心ニ實躰ナシ、此无實ノ躰ノ心ヨリ生スル毒モナケレハ、其實性□（ナカ）シ、」諸佛、三毒ノ實性ヲ悟テ、三界ニケカレス、又諸佛三毒ノ中ニアリ、」不レ同三毒ノ故ニ、三昧ト名、三昧ト□コトヲ委細ニ釈セハ、ヨニ明」ナリ、三世ト云ハ、貪瞋癡ノ三字ヲ實性ナシト悟テ、ウコカサルヲ定ト名ク、」如是心得タル人ヲ三世了達ノ人ト名付、此イワレヲ不レ知ルモノヲ、三悪道」（第15折）ニ落ト名付ルナリ、仏説キ玉ク、諸仏ノ无量ノ智恵ト、衆生无辺ノ」妄念ト是一千也、智恵トシテ求ヘキ智恵モナシ、妄念トシテイトウヘキ」妄念モナシ、妄念ト智恵トハ、是心法ニアラス、又心法ヲハナレテ、妄念ト」智恵ナシ、古人云、妄念ト智恵ト心法トハ、是佛祖端的ノ心ニアラ」ス、如来端的ノ心トハ、見聞苦ヲ受ル也、故經ニ云、「体即（墨ケシ）法界也、心ハ空寂也、」」空寂ノ理ヲ不レ知カ故ニ、生死ニ輪廻スト説玉ヘリ、然則、自レ法界、法界ニ死ス、然ハ、生ヲ願ワス、」本ヨリ法界ノ性ナルカ故ニ、又死ヲモイトワス、古人ノ云、生ト云ハ無生也、死ワ、不死也ト云」ヘリ、智覚禅師ノ云、生ハ、万法衆生ノ源（ミナモト）也、死ハ、諸仏入定ノ義也、生ニ無レ生、妄ニ」無レ妄ト云リ、又諸塵三昧ト云ハ、煩脳也、又ハ無念也、三昧ト云ハ、定ノ義也、菩提ノ」性也、諸着ノ根源ヲ尋ヌレハ、貪瞋癡ノ三毒也、心ノ一法ヨリ生ス、其心ノ一法ヲ」尋レハ、空ヲ以体ス、空寂ニ形像ナケレハ心實ナシ、是体心ヨリ生スレハ、三」毒モナク、實生モナシ、諸佛ハ、三毒ノ實性ヲ覚テ、三毒ニケカサレス、又三毒ノ」（2ウ）中ニ有テ、三毒ニ不同故ニ、三昧ト名ク、三昧ト云事ヲ微細ニ釈スレハ、三世明也、三世」者ト云ヲハ、貪瞋癡ノ三字ヲ實性ナシト覚テ、動セサルヲ定ト名ク、如是心得タル人ヲ」三世了達ノ人ト名ク、此謂ハレヲ知ラサル人ヲ、三悪道ニ堕スト云ウ、仏説云、諸佛」無量ノ智恵法界ヨリ生シ、法界ヨリ」死ス、然ニ、生スル事モ不レ願、自」本法界ノ生成ルカ故ニ、又死ヲモ厭ザレ、自本法界ノ死成カ故ニ、古人云、」生ト者、無生也、死ト者、不死也ト云ヘリ。知覚禅（智カ）師云、生ト者、萬」法衆生ノ源也、死者、諸佛入定ノ儀也、生シ生シテ生死无シ、妄ニ（ミタリ）」妄无シト云ヘリ、又諸塵三昧ト云ハ、煩悩也、又妄念也、三昧ト者、」定ノ儀也、菩提ノ性也、初寂ノ」根源也、貪瞋癡ノ三毒也、」（3ウ）貪瞋癡ノ三毒ヲ、只心ノ一法ヨリ生シ、其心ノ一法ヲ尋ニ、空寂ヲ以テ為レ体ト、空寂ニ形像無レハ、」心ニ実体無シ、此无キ実体ニ心ヨリ生スル三毒モ無レハ、其ノ實性」無シ、三毒ノ実性ヲ覚テ、三界ニケガサレズ、又三毒ノ中ニ有テ、不」レ同セ故ニ、三昧ト名付ク、三昧ト云事ヲ微細ニ釋セハ、三世ニ明カ也。三世ト」者、貪瞋癡ノ三字得タルヲ、三世了達ノ人ト名付ク、此謂（イワレ）ヲ不レ知者ノヲ、」三悪道ニ堕スト名付クル也、佛説テ曰ク、諸佛ノ无量ノ智恵ト、衆生ノ无邊ノ」妄念ト是一致也。智恵トシテ可レ求智恵モ無シ、妄念トシテ可レ厭妄」念モ無シ、妄念ト智恵トハ、是心法ニ非（アス）、又法ヲ離テ、妄念ト智恵ト無シ、古」人ノ云ク、妄念ト智恵ト心

覚知ヲハナレタリ、見聞覚知全ク是仏」（第16折）祖ノタンテキノ心ナリ、爰ニ知ヌ見聞覚知ヲキラワス、只分別ノ心ヲキ」ラウ、分別ノ心ハ、諸佛ト衆生ヲ各別ニ思テ、地獄ト浄土ト各別ト」思マ、人ヲヨロカニシ、我ヲシタシクス、我ハシル、人ハ知ラストト思ウ心ナリ、」其外无心ナリト雖モ、是ニハスキス、此心ナケレハ、則心歴々トシテ」アキラメサル処ナリ、法ニシテテラサヽル処ナシ、又冷々トシテトヽマル処ナシ、」（第17折）直ニ无心ノ地ニイタルヘシ、如レ是云処ヲ、ナヲシ不審アラハ、見ヘシ、鶏寒シテ登レ木、鴨寒シテ入レ水、

理致　三

理致トハ、諸佛ノ諸善万法ノ根源、諸佛ノ本源、

ト、衆生ノ無邊ノ妄念ト、是一致也、智惠トシテ求ヘキ智惠モナ」ク、妄念トシテ厭ヘキ妄念モ無シ、智惠是不レ心法ニ、又心法ヲ離テ、妄念ト智ト」無シ、古人云、妄念ト智惠ト心法トハ、是仏祖端的ノ心ニアラス、一念不生ナレハ、直ニ」如来端的ノ心ニ相應ス、如来端的ノ心トハ、見聞覚知ヲ離レハ、智惠アレ共、」分別之心ニアラス、分別ノ心ナケレハ、見聞覚知全是佛祖端的ノ心也、如レ是知ヌ」レハ、見聞覚知ヲ不レ嫌ト、只分別ノ心ヲ嫌也、分別ノ心トハ、諸佛与衆生各別ニ思イ、」地獄与浄土各別ニ思イ、心与レ法ヲ各別ニ思イ、人ヲ愚ニモ、我ヲ親クス、我ハシレリ、人ハ不知」ト思ウ心也、其外雖無心也、是ニハ不レ過、此心無ケレハ、心ハ歴々トシテ不レ明処無シ、法トシテ、」□□所ナシ、又冷々トシテ留処ナシ、直ニ無レ心ノ地ニ可到、如レ是云處、不審ナラハ、過ヘシ、」（3オ）鶏寒樹ニ上、鴨寒水ニ入事ソ、

○理致

理致ト者、諸佛諸善ノ根源、衆」生本心也、

法トハ、是佛祖ノ端的ノ心ニ非ス、一念モ不レハ生、直ニ」如来端的ノ心ニ相應スト云ヘリ、如来ノ端的ノ心トハ、聞覚知ヲ離タリ。見聞」（4オ）覚知ヲ離スレハ、智惠有レトモ、分別ノ心ニ非ス、分別ノ心無ハ、見聞覚知、全ク」是佛祖ノ端的ノ心也、此ニ知ヌ見聞覚知ヲハ不レ嫌、只分別ノ心ヲ嫌フ」也、分別ノ心トハ、諸佛与衆生各別ニ思、地獄与浄土各別ニ思ヒ」、心与レ法各別ニ思ヒ人ヲ疎ニシ、我ヲ親クスル、我知レリ、汝ハ不レ知思心也、其外」无心ナリトト云ヘトモ、是ニハ過ス、此心无ナレハ、則心々歴々トシテ不」明カナラ」処無シ、法々トシテ」不レ照サ処無シ、又冷々トシテ留処無シ、直ニ无心ノ地ニ可レ到、如レ此云処ヲ、猶」不審ナラハ、可レ見、鶏寒シテハ木ニ上リ、鴨寒シテハ水ニ入事ヲ。」

理致

理致者ハ、諸佛ノ諸善ノ萬法ノ根源、諸法ノ本源、

衆生」ハ、此心理ニ迷カ故ニ衆生、諸佛ハコノ心理ヲ悟ルカ故ニ一佛ト成」（第18折）ル、經ニ云、正教万差ナリトイエトモ、所全一理ナリ、云々、又圓悟禅」師ノ云、大法ノ一理ハ、三世ノ諸佛ヲナシク、歴代ノ祖師モ共ニツ」タウ、其一理トハ、則心境如々ニシテ皆空ナリ、正ニ是大乗ノ」覚ナリ、仏ハ理ヲ説シンカタメニ世ニ出世シ玉ウ事千度ナリ、此理ハ、我等」カ心性ナリ、生スルトキモ此性キタラス、影ト水トノ如シ、若シ我心理ヲ」（第19折）離テ別ニ佛アラハ、又心アリ、又理アルソト思ハヽ、身ヲハナレテ影ヲ」求、水ヲハナレテ浪ヲ求ルカコトシ、故ニ古人ノ云、理ヲ観セシテ」仏道ヲ行スルモノ、只フシタル牛ヽ、ニレヲカンテ、理ヲ不レ知カコトシ」理ヲ不レ知ラシテ、布施ヲ行スルモノハ、柱ニツナケルル犬ノ柱ヲメクルカ」如シ、理ヲ観ヽ佛道ヲ行スル者ハ、日月ヲ見ルカ如シ、理ヲサトリ」（第20折）布施スル者ハ、燈ニ光ヲ具シタルカ如シ、然則、万法ヲ学センヨリ」心ノ一理ヲ観センニハ如シ、万行ヲ修センヨリ、心ノ一理ヲ知ンニハシカシ」心ノ一理ヲ修スレハ、万法ヲ学シ、万行ヲ

衆生ハ、此心理ニ迷カ故ヽ衆生也、諸仏ヽ此心理ヲ悟カ故ニ一佛也、故ニ經云、正」教万差也トイエトモ、所詮一理也ト云ヘリ、又圓悟禅師云、大法ノ一理ハ、三世ノ諸」佛ニ同ク證シ、歴代ノ祖師モ共ニ其一理ヲ傳ウ、即チ心境如々トシテ皆空也、正是大乗ノ」實理也、仏ハ是理ヲ説カンカ為ニ、世ニ出現シ玉ウ事、八千度也、是理ト云ハ、我等カ心性也」、生ル時モ是性ハ不来、喩ハ影与身ノ如シ、若我カ離レ心理ヲ、別ニ佛有リ、又心有ル理」ト思ハ、身ヲ離テ影ヲ求カ如シ、水ヲ離テ波ヲ求カ如シ、故ニ古人云、理ヲ観セシテ、仏道ヲ」行スル者ハ、只臥タル牛ノ、ニレヲカムカ如シ、理ヲ不レ知シテ、布施ヲ行スル者ハ、柱繋ケル狗ノ」柱ヲ廻カ如シ、理ヲ観シ知リテ、仏道ヲ行スル人ハ、目有テ晴タル時、日月ヲ見カ如シ」理ヲ知テ布施行セハ、燈ニ火ヲ添タルカ如シ、然ハ、万法ヲ学センヨリ、心ノ一理ヲ観」センニハシカシ、修ニ万行ヨリ、心ノ一理ヲ不レ知レ知ンニハ、只心ノ一理ヲ修スレハ、万法ヲ」覚シ、万行ヲ勝レリ行ス

衆生ノ本心也」、衆生ヽ此ノ心理ニ迷故ニ衆生也。諸仏ハ此心理ヲ悟故ニ一仏」（5ウ）成ル故ニ、經ニ云ク、正教ハ万差也ト雖モ、所詮一理也、又圓悟禅師ノ云ク」大法ノ一理ハ、三世ノ諸佛同證シ、歴代ノ祖師モ共ニ傳ヽ其一理ト者」、即チ心境如々ニシテ皆空也、正ニ是大乗ノ實理也、佛ハ此ノ理ヲ為ニ」説シンカ世セ々ニ出世給フ事八千度也、此理ト者、我等カ心性也。生スル」時モ此ノ生不レ来、譬ハ影ト水トノ如シ、我カ心理ヲ離テ別ニ佛有リ、又心有リ」又理有ト思ハ、身ヲ離テ影ヲ求ヽ水ヲ離テ波ヲ求ルカ如シ、故ニ古人云ク」理ヲ不シテレ観セ、仏道ヲ行スル物ハ、只臥セル牛ノ、ニレヲカム如シ、不シテレ知理ヲ布施ヲ行スル者ハ、柱ニ繋ツナケル狗之柱ヲ回メクル」カ如シ、理ヲ観知シテ、佛道ヲ行スル者ハ、人ノ目有テ晴タル時ノ日月ヲ見カ如シ理ヲ了知シテ布施スル物ハ、燈与ト光具シタルカ如シ」然ハ則、萬法ヲ学ハンヨリハ、心理ヲ観センニハ不レ如カ萬行ヲ修シンヨリ、心ノ一理ヲ知シンニハ不」（6オ）レ如カ、只心ノ一理ヲ修スルハ、萬法ヲ学シ、萬行ヲ行スルニ倍マサレリ、故ニ古人ノ云ク、心理ヲ」観スル者ハ角ノ如ク法ヲ学スル者ハ毛ノ如シ。然則ソ実ノ如ク心理ヲ知者佛ト」云、心理ニ迷ヲ衆生ト云

行スルニ勝タリ、故ニ古人云、」心理ヲ観スル者ハ角ノ如シ、学スル者ハ毛如シト云ヘリ、然則、實ノ」コトク、心理ヲ知ル者ヲ佛ト云、心理ニ迷ヲ衆生ト云、佛ト衆生」（第21折）トギハ、各別ニシテ理ハ是一ナリ、衆生ヲ離テ佛ナシ、佛ヲ離テ」衆生ナシ、故ニ只氷ト水トノ如シ、若シ一念モ心理ヨリ外ニ別ニ佛ア」リト思ハヾ　ステニ三宝ヲ謗スル者ナリ、何ヲ以テカスレハ、佛出世シ玉フ事、」只是衆生ノ心理ハ諸佛ノ心理ナリ、全ク各別ナシト説キ玉フ事ヲ」キヽナカラ、ナヲシ不信シテ、我心理ヨリ外ニ佛法アリト思ヘ、佛ヲ」（第22折）念シ浄土ニ生ント願ヘ、是ハ佛ノ金言ヲ不信シテアル者ナレハ、」三世ノ諸佛ヲ謗スル者也、ナカク悪道ニヲチテ出離ノ期ナシ、」然ハ我心理ハ是佛ナリト信シテ、外ニ佛ヲ不求、又別法ヲサトラス、」有佛ノ処ニモ不留、无佛ノ処ニモ不留、如是ノ説ヲ心得スンハ、可」見、天ニハ日月ノ光照シテ明ナリ、地ニハ萬像青々トシテ緑ナリ、」（第23折）

機関　四

ルニ、故古人云、心理ヲ観スル者、如角ノ、万法ヲ覚スル者ハ、（3ウ）如毛ト云ヘリ、然ハ、實ノ如ク、心理ヲ知ヲ佛ト云ヘリ、心理ニ迷ヲ衆生ト」云、佛与衆生、機々各別ニシテ、理ハ是一也、衆生ヲ離テ佛ナシ、離テ仏衆生ナシ、」故ニ氷与水ノ如シ、若一念モ生シテ、自心理ノ外別ニ佛有ト思ハ、即謗ニ三宝ニ者也、」如何トナレハ、諸佛ノ出世ニ玉ウ事、只是衆生ノ心理ハ、諸仏ノ心理也、全各別ナシト」説玉ウ事ヲ聞ナカラ、猶不信シテ、我カ心理ヨリ外ニ仏有ト思イ、仏ヲ念シ浄土ニ」生ンナント、願ハ、是仏ノ金言ヲ不信ル者也、三世諸佛ヲ謗也、永悪道ニ堕シテ」出離ノ期（トキ）不可有、然ハ、我カ心理ハ是仏也ト信シテ、外ニ佛ヲ求メサレ、有仏ノ処ニモ不留、」如是説ヲ尚不心得ハ、可見キ天ニハ日月光ヲ照シ朗（ホカラ）也、地ニハ万像青々トシテ緑也、」

○機関

マヽ佛与ニ衆生ニ機ハ各別ニシテ理ハ一也。衆生ヲ離テ」佛無シ、仏ヲ離テ衆生無シ、故ニ只氷ト水トノ如シ、若シ一念生シテ心理ヨリ外ニ別ニ」仏有ト思ハヽ、既ニ三寶ヲ謗スル者也。如何トナレハ、諸仏ノ世ニ出玉事、只是」衆生ノ心理ヨリ諸仏ノ心理也、全ク各別無シト説給フヲ」乍聞、猶不シテ信、」我心理ヨリ外ニ仏法有思テ、仏ヲ念シ浄土ニ生レンヿト願マヽ是ハ皆佛ノ金言ヲ」信セザル者ナレハ、三世之諸佛ヲ謗スル者也、長ク悪道ニ堕シテ不可有ニ出離」期ト、然ハ我カ心理ハ是佛也信シテ、外ニ佛ヲ不求、又別之法ヲ不」学、有佛ノ処ニモ不留、无仏ノ処ニモ不留、如此説ヲ猶不スハ心得ヿ」（6ウ）可見、天ニハ日月ノ光照々トシテ朗ラカ也、地ニハ萬象ノ色青々トシテ緑也、」

△機関

キ関ト者、佛双林ニ涅槃時、迦葉尊者、キン棺ヲタヽケハ、」佛只一枝ノ華ヲ捧テ、目ヲマロカシ玉マ、迦葉、爰ニ大悟ス、滅」後ニ祖師ヲヽクシテ、如何是佛法ト問ハ、虚空ニ内外ナシ、」（第24折）大道ニ門ナシ云、又問、如何是佛祖ノ心ト問トキ、拄杖ヲ」タテ、拂子ヲ念ス、又問、如何是佛祖端的ノ心ト云ヘハ、庭前ノ」ハク樹枝、如何是祖師西来意、八角磨盤空裡ニ走」ル、又問、イカニシテ佛祖ノ心ヲ知シ、頂ニ天ヲイタヽキ足ニハ地ヲフン」テ、スヘテ只コレニ出テ憶ヲメクラシテ、心ヲ以テヱス、念ヲ通テ」（第25折）心ヲヲコサハ、皆悉クタカウ、當躰ヲハタラカサス、是非ノ疑ヲ」ナサス、直ニ佛祖ノ頂上ヲコヱ、虚空ヲタハ□スルナリ、雲外ニ手ヲ」ヒラケハ、向上ノ一路ニ是ヲタヽシクス、此光（千カ）聖モヒサヲマシヱ、佛モ」カタヲナラヘス、喩ハ鳳凰ノカケルソラニハ、鳥音（子）ヲナラヘス、獅子ノ山野ニ」遊ヘハ、獣ノヒツメヲマシヱサルガ如シ、如レ是一タンニヲイテ、義理ヲナシ、思」（第26折）量分別ヲナセハ、須弥ヲイタヽイテ、大海ヲ渡ルカ如シ、故ニ法華經云、」

機関ト者、佛双林ニ涅槃ス、時、迦葉尊者到テ、金棺ヲ敲ク、時、仏只一枝ノ」蓮華ヲ捧テ、目ヲマシロカス、於レ此ニ大悟ス、滅後ニ祖師多、如何是仏法ト問ヘハ、虚空ニ内」外無ク、大道ニ門無、又、如何是仏祖ノ心ト問ヘハ、拄杖ヲタテ、拂子ヲ抛ツ、又、如何」□（祖カ）祖師西来意ト問ヘハ、庭前ノ栢樹子、如何是仏祖端的ノ心ト問ヘハ、八角ノ」（4オ）□（磨カ）盤空裡走、如何是仏祖ノ心ヲ知ント問ヘハ、首ニ天ヲ頂、足ニ地ヲ蹈ト云、惣シテ於レ此思ヲ」廻シ、作レ是非ヲ、擬儀ヲ不レ入、直仏祖頂上越ス、虚空ヲ踏破シテ、雲外ニ手ヲ開テ、向上ノ一路ニ走ルコト」ヲタヽシクス、此ニハ千聖モ膝（ヒサ）ヲ交ヘス、佛祖モ肩ヲ並ス、喩ヘハ鳳凰ノ空ニカケルカ如シ、小鳥」ツハサヲ並ヘス、又獅子ノ遊ニ山野ニ、獣ノ蹄ヲ交ヘス、若此一段ニヲイテ義理ヲ成シ、」思量分別ヲ作ハ、須弥ヲ頂テ、大海ヲ渡如シ、故ニ法華經ニ曰、是法非思量」分別之所能解ト云ヘリ、思量分別ノ心、悟処ニアラス、説玉フ、如何トナレハ、思量分別」ヲ成テ求ント思心ハ、何物ソ、他ノ心カ、我カ心カト、如レ是思

機関ト者、佛ヶ双林涅槃之時、摩訶迦葉尊者至テ」金棺ヲ敲ク時、佛トシテ只一枝ノ蓮花ヲ擎（サヽケ）テ、目ヲマシロカズ、摩訶迦」葉尊者、爰ニ大悟ス、滅後ノ祖師多ク、如何是佛法ト問ヘハ、」空ニ内外無ク、大道ニ門無シト云、又問、如何是仏祖ノ心ト時ニ、拄杖ヲ立テ、」拂子ヲ投（ナケ）、又問、如何是祖端的ノ心、庭前栢樹、如何是」祖師西来意、八角磨盤空裡ニ走。又問、何トシテカ仏祖ノ心ヲ」知シ、首ニハ天ヲ頂キ足ニハ地ヲ踏、捻シテ只於レ爰ニ思ヒ回ラシ、心ヲ以テ不得、念ヲ」通シテ起サハ、皆悉クタガフ、体ハタラカサス、是非ヲナサズ、擬議ヲ不容（イレ）、仏」（7オ）祖ノ頂上ヲ越ヘ、虚空ヲ踏破、雲外ニ手ヲ開テ、向上ノ一路ニ足（是カ）ヲ正シクス、爰ニハ」先聖モ膝（ヒサ）ヲ不レ交（マシ）ヘ、仏祖モ肩ヲ不レ並（ナラ）ヘ、譬ハ鳳凰ノ翅（カケ）ル空ニハ小鳥」翅ヲ不レ双、獅子ノ遊山野ニハ獣蹄（ケタモノヒツメ）ヲ不ルカ交如シ、若シ一段ニソヒテハ、義」理ヲ成シ、思量分別ヲ成サハ、須弥ヲ載（ノセ）テ大海ヲ渡カ如シ、故ニ法」花經ニ云ク、是法非思量分別之所能解ト、思量分」別ノ心ニ悟ル処ニ不非有ト説給ヘリ、如何ナレハ、思量無クシ求ント思フ心ハ、是」何物ソ、他ノ心カ我心、如是ノ思量分別スル心、頓而是

是法非思量分別之所解上云、思量分別ノ心ヲ悟処ニアラスト」説玉マヽ イカントナレハ、思量スル、ヤカテ是佛祖ノ心ナリ、是又悉ク ナヲシ」朝暮ニ行住坐臥スルテイノ心、全ク是自己ノ本分ナリ、故ニ唯摩」居士ノ云、直心是道場也、後世ナキカ故ニ、直心是法界也、」（第27折）妄相ナキカ故ニ、直心是佛性、思量分別ナキカ故ニ、直心是」禅定、見聞覚知ニカヽワラサル故ニ、是ヲ覚ルモノ、キヲクタス者、ミナ是」道場ナリ、万物ヲイテ、サワリナキカ故ニ説玉マヽ 又白樂天ノ云、栄花」ノ時スキヌレハ、夢トナル、愁喜ヒ忘シヌレハ、則是禅定也、終日」ヲキ、竟夜ヨモスカラ ネフシヌレトモ、眠明ニス、病ニモ明ニスヽ、當ニ知シヌヽ、一念モ生（第28折）セサレハ、生死絶スヽ此ニ思量分別ナクンハ、柱ト シテ可レ明ニ成々、如レ是」了達シツレハ、佛祖ノナス処ノキセキニ到リ、偏ニ皆是一念不生ノ」処ノ心ニアラス、喩ハ水ノ上ノアワノ如シヽ、眼ノ中ノ塵、眼ニ入ル事アルヘ」カラス、願ハ自无心ナラハ、一切ニ明カナルヘシ、一念不生ノ処ヲ得レハ、」自然ニ本分ノ心ニ相應セン、此ニタンヲミテ、ナヲシキ関ヲ

量分別スル心、ヤカテ是仏」祖ノ心也、是悉ク朝暮ニ行住坐臥スル体ノ心、全是自己本分也、故ニ維摩居士ノ云ク、」直心是道場、後世無カ故ニ、直心是法界、妄相無故ニ、直心是仏性、思量分別」無カ故ニ、心是禅定也、見聞覚知ニカヽワラス、故ニ足ヲ上、手下モ、皆是道場也、万」物ニヲイテ碍（サワリ）無シト故ニ説玉ウ、又白樂天ノ云、栄花時ニ過レハ、都夢也、憂喜」ノ心ヲ忘シヌレハ、即是禅定也、終日臥シ、通夜寝トモ、眠明ニス、當ニ可レ知、一念」（4ウ）不生ナレハ、生死ヲ絶ス、思量分別無ンハ、於万法可レ明、如是達スレハ、佛祖ノ成ス所ノ」機関・伎倆、皆是一念不生ノ処ノ心ニアラス、喩ヘハ水ノ上ノ漚ノ如シ、眼中塵、根ニ入ル ヘカラス、願ハ自無心ナラハ、一切ニ可レ明ナル、一念不生ノ処ヲ得テ、自然ニ本分ノ心令ニ相應一、此一」段ヲ見テ、猶機関ノ分ヲ欲ニ打破ント一見ヘシ、鳥ハ天ニカケツテ魚ニタリ、魚ハ」淵ニ臨テカウヾタリ、泥牛ハ本ヨリ土、木馬ハ本ヨリ木也、只自手ヲ拍テシ笑、誰ガ」ナス処ノ伎倆ソヤ、

佛祖ノ心」也。此又盡ク於ニ朝暮ニ行住坐臥スル底ノ物也、居士ノ云ク、直」心是道場也、後世無カ故ニ、直心是禅定、」見聞覚知ニカヽワラス、故ニ足ヲ挙テ足ヲ下モ此レ道場也、萬物ニ於テ、无キ疑故ニトノ玉フ、」（7ウ）又白樂天ノ云、栄花ノ事過（スキ）ヌレハ、都ヘテ夢トナル、憂（ウキ）心ヲ忘レヌレハ、則是」禅也、日々臥シ通夜ヌレトモ、眠ニ病ニモ明マヽ當ニ知シ、一念モ不レハ生生」死爰ニ絶スヽ、亦思量分別無ク、萬法ニ於テ可レ明カナル、如ク是了」達シツレハ、仏祖ノ為ス処ノ機関伎倆、皆此ノ念不生ノ処ノ心ニ非ス、譬ハ」水ノ上ノ泡ノ如シヽ、眼中ノ塵リ眼ニ如シ不カ可レ入、願クハ自无心ナラハ、一切ニ可シ」明カ成一、又一念不生ノ処ヲ得ツレハ、自然ニ本分ノ心ニ相應ヘ。此一段ヲ」見テ、猶ヲ機関ノ分ヲ打破シテ、可レ見、鳥ハ天ニカケツテ冥々（メイ）タリ、魚ハ渕ニ」ヲヨイテカウ〜タリ。泥牛自（ミ）レ本是土也、木馬自己レ本」木也、自手（ミ）ヲ打テ笑ヽ、誰カ成ス（ナ）処ノ伎倆ソ」

タハセスン（第29折）ハ、可レ見、鳥ハ天ヲトンテ冥々タリ、魚ヲサカサマニ遊テカウ々々タリ」、泥牛ハモトヨリ是土也、木馬ハ本ヨリ木ナリ、自ラ手ヲウツテ」笑ヾ、誰カ為ノ処伎倆ゾ

大疑　五（第30折）

大疑者、文殊ハ利剱ヲ打振テ、三世ノ諸仏ヲ切破ト言玉々、又云、」我身ハ是佛也ト不レ信者ハ、三世ノ諸仏ヲ謗スル者也ト云、丹霞禅師遊山ノ次ニ、アル寺ニテ木佛ヲヤク、其寺ノ院主、是ヲミテ、」イカル、院主ノマツケ忽ニヲチテ、又則チ口閉ス、南泉禅師ノ云、猫ヲ」キル、希僧禅師ニ、僧ノ問、如何是佛祖ノ心ト問ハヽ、希僧虵ヲキル、」（第31折）川老禅師ノ云、有仏ヲハコロス、當翁禅師ノ云、无佛ヲハ打也、雲門禅師ノ云、我釈迦ト同ク出世ス、釈迦一棒タセツ（打殺）シテ、狗子ニアタエンモノ、是」ハ大ナル大疑也、或ハ佛ヲタセツシ、或ハ佛アリト云ハンヲコロサント」云ヾ、汝ヲ打云、或ハ釈迦ヲタセツシ、狗子ニアタエント云、是ハ道理」カ、佛、ナンノトカヽアル、如レ是イキヲ井ヲフルウ、大イナルウタカイアラ」（第32

○大疑

大疑ト者、文殊ハ利剱ヲ拂テ、三世諸仏ヲ切破スト」言フ、又云、我心是仏也、不信者ハ、三世諸仏ヲ忘スル者也ト云、丹霞禅師ハ遊山ノ」時、有寺ニテ木仏ヲ焼、其寺ノ院主、是ヲ見テ、イカリヲナス、院主ノ眉毛則」落ヾ、則口閉、南泉ニ僧問、如何是佛法問ヘハ、南泉猫児ヲ切ヾ、皈宗」禅師、僧問、如何是佛祖心ト問ハ、皈宗蛇ヲ切、又川老禅師ノ云、有仏ヲハ」殺當シ、翁云、無仏ヲハ打、雲門云、我レ釈迦ト同世ニ出タリシカハ、釈迦ヲ一棒ニ打殺シテ、」□□ニクレウト云、或ハ無佛ト云ハンヲハ、汝ヲ打ントニ云イ、是ハ道理カ非カ、是仏ニ何ノ」（5オ）□□アル、如レ是威ヲ振ハ、是大ナル疑ニ非ヤ、仏祖モハカリカタシ、是ヲ善ト説ヘキ、悪ト」ヤ説ヘキ、ナマシイニ知解ヲ

△大疑（8オ）

大疑ト者ハ、文殊利劒ヲ振テ、三世ノ諸佛ヲ切破ト言ヘリ、又云ヾ」我カ身ハ是仏成リト不レラン信セ物ハヾ、三世ノ諸仏ヲ謗スル者也ト云、丹霞」禅師遊山次テニ、或寺ニテ木佛ヲ焼、其ノ寺院主ノマツゲ忽ニ」落テ、又則口閉、南泉禅師ノ云々、僧云、如何是仏法ト問シカハヽ、」南泉猫ヲ切ルヽ曳蛇ヲ切ル、川老禅師云々、有仏ヲ殺サン、无仏ヲハ打ンヽ、雲門禅」師云々、我レ釋迦ト同世ニ出タリシカハ、釈迦ヲ一棒ニ打殺シテ、狗ニクレマシ、大キ」成ル疑也、或ハ仏ヲ切破シ、或ハ佛有リト云ヘヽ、殺サントニ云、或ハ佛無シト云ハヽ、汝ヲ」打ントニ云、或ハ釈迦ヲ打破シテ、狗ニクレマシト云、是ハ道理ヲ、是ハ仏ニ何ノ過」有テ、如レ此威ヲ振テ、大ニ疑ニ非スヤ、仏祖モ難シ測リ（ハカ）、是ヲ善ト可レヤ説、悪」ト」（8ウ）可レ説、ナマシイノ知疑ヲ以テ善トモ

折）ス、佛祖モハカリカタシ、是ヲ善ト説ヘキカ、悪ト説ヘキカ、ナマ」シイニ知解ヲ以テ善トモ悪トモ思ハス、是トモ云ス、此一段ハ、只自語言ヲ以テ問コト勿レ、如何トナレハ、我シル人シルモノナレハ、アケサルニ知ンヌ、」ト云ハス、心エタリ、故ニ法華經ニ云、唯佛与仏、乃能究尽ト説テ、」只能ク佛ト仏ト、則諸法實相ヲ究尽スト言ヘリ、又佛祖ノ」（第33折）云ク、眼ヲ以テテラシ、眼ヲ以テ心ヲ傳ウ、外ニコトンナル覚リヲナスコト」ナカレト云ヘリ、文殊、佛ヲタハシ、木佛ヲヤキ、雲門、釈迦ヲ一棒ス、」是ハ只ウ相ノ仏ニ着シテ、我心ノ无相ノ仏ヲ知ス、故ニ有相ノ仏ヲタ」ハシテ、无相ノ眞實ノ仏ヲ我ニシラシメンカ為也、成処ノ方便也、」无相ノ真實トハ、一念不生心也、故ニ金剛經ニ云、三十二相ヲ」（第34折）以テ仏トセハ、轉輪聖王モ是仏ナルヘシ、若シ色ヲ以テ我ヲミ、音声ヲ」以テ我ヲモトメハ、此人邪道ヲ行シテ、如来ヲ奉レ見コトアタワシト」説玉ウ事、明ニ知ンヌ、有相ノ佛ハ是无性ノ仏ニシテ、无相ノ佛ニ不レ逢」ト云事ナシト知ヌ、此ノイワレモ不レ知シテ、思イノマヽニ佛ヲ謗セン者、无以、善トモ悪トモ不レ思、是トモ非トモ不言、此一段ヲ、自能」々知ヘシ、人ニ莫レ問、若ハ知人ニハ問ヘシ、莫レ口閉コト、舌ヲ揺シ、以レ言語莫問コト、如何ナレハ、我モ」知、人モ知レハ、アサケルニ、又不信ニ心得ル故也、故ニ法華經云、唯仏与仏、乃能及尽ト」説玉ウ、只佛与佛、能諸法實相ヲ窮尽シ玉フト云、又祖師云、眼ヲ以眼ヲ」照シ、云、心ヲ以心傳、異ナル解ヲ莫レ作コトト云ヘリ、又文殊仏ヲ打破シ、丹霞木佛焼、」雲門釋迦ヲ一棒ス、是只有相ノ佛ニ着シテ、我心無相ノ仏ヲ不知カ故、有相ノ仏ヲ打破シテ、」無相眞實ノ佛ヲ、我等ニ悟ラシメカ為ニナス処ノ方便也。無相眞實ノ佛トハ、一念不生ノ心是也、故ニ金剛經云、若色ヲ以テ我ヲ見、音声ヲ以テ我ヲ求ハ、是人邪道ヲ」行スル者也、不レ能ニ如来見奉コト、若以ニ三十二相ヲ如来ヲ観セハ、轉輪聖王則是如来也、」明ニ知ヌ、有相ノ佛ハ是無相ノ佛ニテ、無相真實ノ仏ヲ知ラシメカ為也、如レ此謂ヲ」不知、思ノ侭ニ佛ヲ謗シテ、無間地獄ニ堕シテ、無量劫ヲ經ヘシ、南泉猫ヲ切事ハ、」（5ウ）物ヲ貪ル欲念悪トモ不レ思、是トモ非トモ不レ云、此一段ハ、」只自能ク獨可レ知、人ニ問事无レ、若知人ニハ可問、口ヲ開テ舌ヲ不」レ動、語言ヲ以テ莫レ問事一、如何トナレハ、我レ知リ人知リヌレハ、不レ挙知リ、不レシテ」言心得ル故ニ、法花經ニ云ク、唯仏與（仏脱カ）、乃能究盡ト説給フ、只」能佛与レ仏、則諸法ノ實相極メ盡シ給ヘリ、又祖師云、眼ヲ以テ」照シ、心ヲ以テ傳ヘ、外ニ異解ヲ成ス事莫レ、文殊、佛ヲ打破シ、丹霞、木」佛ヲ焼、雲門、釋迦ヲ一棒ス、是ハ只有相ノ佛ニ着シテ、我心无相ヲ不」レ知故ニ、有相ノ佛ヲ打破シテ、无相眞實ノ仏、我等ニ為レ令レ悟ラ、成」処ノ方便也、无相真実ノ仏ト者、一念不生ノ心是也、故ニ金剛經ニ」云ク、三十二相ヲ以テ佛トセハ、天（転カ）輪聖王是可レシ成ル仏、若シ色ヲ以テ我ヲ見、」（9オ）聲ヲ以テモ我ヲ求ハ、此人ハ邪道ヲ行スル物也、如来ヲ見ルコト不レジト能説給ヘリ、明ラケシ、」又有相ノ仏ハ是无性ノ仏ニシテ、无相実相ノ仏ニ非サルコト、知ンヌ、クワシモ不レシテ」知、思ノ侭ニ仏ヲ謗セン者ハ、无間地獄ニ堕ラ、无量劫ヲ可レ經、又南泉」猫ヲ切ル事、猫ハ物ヲ貪欲スル念深キ物也、我等衆生物ヲ貪欲スル念」深キ間、六道ニ輪廻ス、然間、人

間地」獄ニ堕マ、无量劫ヲ経ルヘシ、南泉斬猫ト云事、貪欲ノ念深キヲキル」（第35折）者也、我等衆生ノ貪欲スル念深キ間、六道ニ輪廻シ、然間、人来」テ如何是佛法ト問時ハ、斬猫ト答也、誠ニイキタル猫ニハアラス、物ヲ」貪欲スルル猫ノ心ヲキルト云也、貪欲ナケレハ、佛法歴前（ママ）タリ、故『法華』経ニ云、諸苦所因、貪欲為本、若滅貪欲、无所依止ト云ヘリ」諸苦マコトニ貪欲ヲ以テ本トス、若貪欲滅ハ、諸ノ苦不レ留ト」（第36折）云コト无ト、云々、希僧虵ヲキルコトハ、躰アル蛇ニハアラス、一切衆生皆是レ」邪念ニヨツテ生死ニ流轉ス、然間、僧来ル佛祖ノ心ト問時ニ」、希僧虵ヲキルト答マ、此底ノ方便マ、不レ知シテ、シタ井ニ因果ヲハ」タシ、ウシナワス、罪ヲハヽカラス、祖師ヲ謗スル者ハ、黒縄地獄ニ堕」テ、塵沙劫ヲ経ヘシ、然則学道ノ人、一念不生ニシテ、无相ノ佛ヲ」（第37折）悟ナハ、念ヲウコカシテ、心ヲヨコス有相ノ佛ヲモ謗セス、无相ノ」佛ニモ着セス、如レ是ノコトヲ猶シ心得スンハ、可レ見、水ナカレテ深々タリ、風吹テ颯々タリ、深者也、我等衆生ノ物ヲ貪ル欲念深キ間、六道ニ輪廻ス、然間、人」来、如何是佛ト問ヘハ、猫ヲ切テ答ル也、眞實生タル猫ニハ非ス、物ニ貪欲スル一念ヲ切ト云ヘリ」、貪欲ナケレハ、都佛法暦（歴カ）然タリ、法花経云、諸苦諸因、貪欲ヲ以テ本為ス、若欲ヲ滅セハ」、依止スル所ナシト云ヘリ、皈宗蛇ヲ切ニ非ス、一切衆生皆是邪念ニ因テ、生死ニ流傳（轉カ）ス、然間、僧」来、佛祖ノ心ト問ハ、蛇ヲ切ト答、是体ノ方便ヲ不知、因果撥撫（無カ）シテ、罪ヲ不レ憚（ハヽカラ）、祖師ヲ」ナイカシラニスル者、黒縄地獄ニ堕シテ、塵沙劫ヲ経ヘシ、然ハ則学道ノ人、一念不生ニシテ、無相ノ」佛ヲ悟リナハ、念ヲ動シ心ヲ起シ、有相ノ仏ヲモソシラス、無相ノ仏ニモ不着、如是云支ヲ、猶心得」セスンハ、可レ見、水流テ深々タリ、風吹テ颯々タル支ヲ、来テ如何ナルカ是レ仏ト問時ニ、猫ヲ切ラント答也、」（9ウ）潤（ウルハシキ）生ノ猫ニハ非ス、物ヲ貪欲スル猫ノ心ヲ切ト云ヘリ、貪欲無レハ、都テ是仏法可シ」為ニ歴然（タル）、故ニ法花経ニ云、諸苦所因、貪欲為本、為（若カ）滅貪」欲、无所依止ト説給ヘリ、諸ノ苦ノ因（イン）ハ、貪欲ヲ以テ為レ本ト、若貪欲滅セハ、」諸ノ苦ノ因留ル事无ト云マ、希曳蛇ヲ切ル事ハ、蛇ヲ切ルニ非ス、一切衆生ハ皆」此ノ邪念ニ依テ生死ニ轉ス、然間、僧来テ如何ナルカ是仏祖ノ心ト問時ニ、曳」（9ウ）云、蛇ヲ切ルト答、是禅ノ方便ヲ不レシテ知、妄（ミダリ）ニ因果ヲ撥撫（ハツブ）シテ、罪ヲ不レ憚マ、祖」師ヲ無（カシラ）イ頭ニセン者ハ、黒縄地獄ニ堕テ、塵沙劫ヲ可レ経、然則学道ノ人」一生心是无相ノ佛也、悟ナハ、念ヲ動シ心ヲ起シ、有相ノ佛ヲモ謗セサレ、无相ノ仏ニモ」不レ着、如是云事ヲ猶ヲ不ハ心得ニ、可レ見、水流テ深々タリ、風吹テ蕭々タリ。」

大悟　六（第38折）

大悟ノ心ハ、本ヨリ不生ナリ、法ハ本ヨリ无相ナリ、本ヨリ煩悩ナシ、」本ヨリササナシ（菩提）、心トシテ求ムヘキ心ナシ、法トシテ尋ヌヘキ法ナシ、煩悩トシテ」尋ヌヘキ煩悩ナシ、菩提トシテ尋ヌヘキコトナシ、是ヲ大悟ト云、又六」祖ノ云、自心ノ佛性ハ、本来清浄ニシテ、煩悩ノ性ト平等ニシテ」ナキ也トサトル、六道衆生ハ、本来无相ナリ、一切衆生ハ悉ク」（第39折）佛ナリ、我心ト諸佛ノ心ト一切衆生ノ心ト、各別ナシトサトルヲ大」悟ト名ク、本心ヲサトリ、本性不滅ナリトシテ、一切ノ処ニヲイテ念々ニ」自法ヲ本ツキ不レ滞ラ事ナケレハ、一心一切ノ心ニシテ、万境ハ自心ニ」ヨルナリ、无念ヲ ム子トシテ、无相躰トス、无住ヲ本ヌ、一念生セサレハ、」則衆生是佛ナリ、一念生スレハ、佛是衆生也、我心自仏也、」（第40折）若仏心ナクハ、イツレノ処ニカ初テ佛ヲ求ンヤヌ、自心則佛心ト悟ルヲ」大悟トモ世尊トモニ云ナリ、又黄蘗禅師ノ云、自レ本是法ナリト」覚リヌレハ、一法トシテ得ウヘキ法モナク、一行トシテ修スヘキ機モナシ、」是成道

○大悟

大悟ト者、心ハ本ヨリ不生也。法ハ本ヨリ無法ナリ。煩悩モ無ヌ、菩提モ無ナリ。」心トシテ可求心モナク、法トシテ尋ヘキ法モナク、煩悩トシテ可断モ無、本ヨリ菩提ノ證ヘキナシト」悟ヲ、大悟ト名ク。六祖云、自心ノ佛性、本来清浄ニシテ、煩悩ノ生（性カ）ト諸仏ノ性平等ニシテ」□□ト覚リ、六道ノ衆生、本来無相也、一切衆生ハ悉ク佛也、我心与諸仏心、一切衆生ノ」（6オ）［　］無ト悟ヲ、大悟ス、本心ヲ悟レハ、本性不滅成ト見テ、一切ノ処ニヲイテ念々ニ自ラ万法ニ見ニ、滞支ナケレハ、一心一切心ニシテ、万境ハ自心ニ依テ也。我心自佛ナリ、」若佛心無ンハ、何処ニカ始求レ佛ヤ、自心則仏心ト悟ヲ、大悟ト云也、又ハ、世尊トモ云也、」又黄蘗禅師ノ云、自心本来是佛也ト覚ヌレハ、一法トシテ得ヘキ法モ無シ、一行トシテ可修機モナシ、是無上ノ道、真如仏也。故ニ達磨大師、直指人心、見性」成佛、教外別傳、不立文字ト宣玉ウ、如何トナレハ、本ヨリ不変也、常住ノ」心ニシテ、其形像ナケ

△大悟

大悟者、自本不生也、法者、自本无法也、自本煩悩無シ、自」本菩提トシテ可レ求心モ無ク、法トシテ可レ尋法モ無シ、煩悩モ無シ、自本菩提」無キ故ニ、菩提トシテ可レ證無ト悟ルヲ名ク大悟ト、又六祖云、自心佛性」、本来清浄ニシテ、煩悩ノ性、諸佛ノ性平等ニシテ無也ト覚リ、六」道衆生、本来无相也、一切衆生ハ悉佛也、我心ト諸佛ノ心ト」（10オ）一切衆生ト各別無シト悟ヲ、本心ヲ覚リ、本性不滅也ト見テ、一切ノ処ニ於テ」念々ニ自萬法ヲ見ニ留トコホルル事無レハ、一心一切心ニシテ、萬境自ニ依ル也。无念ヲ」宗トスル、无相ヲ体トス、一念不生ナレハ、則衆生是佛也、一念生セハ、是衆生也、」我心ニ自ラ佛有リ、若シ佛心無ハ、何処ニカ初テ佛求ンヤヌ、自心即仏心ト」覚ヲ大共云、世尊共云也、又黄蘗禅師云、自心本来是」佛法也ト覚スレハ、一法トシテ可レ得法モ無シ、一行トシテ可レ修機モ無シ、這ハ是レ无上」道也。真如佛也。真如佛成ルカ故ニ、達磨大師云ク、直ニ人心ヲ指シテ」立地ニ令ム成佛セ。教外別傳ニシテ文字ヲ全ク不立ヌ、如何ンソトナレハ、是自レ本」不変也、常住ノ心ニシテ、其形像無レハ、

也、故ニ達磨大師ノ云、直ニ人心ヲサシテ、タチ処ニ」成佛セシム、教外別傳ニシテ文字ヲ立セス、心ハ是了々（第41折）常住ニシテ空寂也、又是如来ノ心法也、此心ハ師ニヨツテ覚ルニ」アラス、只自心ニシルカ故、教外別傳ト云也、上ミ佛祖ヨリハシマリ」下モ衆生ニ至ルマテ、全ク一ノ心也、ウハツハカリモ安ス カラズ、喩ハ水」ト浪トノ如ク、未代ノ学者、心ヨリ外ニ佛アリ、心ヨリ外ニ法アリト」思ハサル間、此ノ佛祖ノ心、衆生ノ心、我心ト、差別ナシト、分明ニ」（第42折）知シラサテモ、此心ヲ證シ玉フ人ハ誰人ソヤ、答云、過去七佛、一ニハ」毘婆尸佛、人命八万歳ノ時、出世シ玉フ、二ニハ尸棄佛、人命七万」歳ノ時、出世シ玉フ、三ニハ毘舎浮佛、人命六万歳ノ時、出世シ玉フ、四ニハ狗留孫佛、人命四万歳ノ時、出世シ玉フ、五ニハ狗那含牟尼佛」人命三万歳ノ時、出世シ玉フ、六ニハ迦葉佛」人命二万歳ノ時、」（第43折）出世シ玉フ、七ニハ釈迦文佛、周照王廿四年甲寅四月八日、王宮ニ誕生シ玉フ、同四十二年八月十五夜半ニ、御年十九ニテ出家シ、檀特」山ニ至リ玉フ、御レハ、文字ヲ不レ立、心ハ是常住ニシテ空寂也、亦是如来ノ心法也、」此心法ハ、師ニ依テ可レ覚非レ心ニ、自心知ルカ故ニ、教外別傳ト云ヘリ、上佛祖ヲ始トシテ、下」衆生ニ至迄、全ク毫髪斗モカワラス、タトヘハ水ト波トノ如シ、然ハ、末代ノ学者、心ヨリ外」仏有ト思ワサレ、問、然ハ、此心ハ、仏祖ノ心与衆生心、差別ナキ支ヲ分別ス サテモ、」此心ヲ證ル人ハ、誰人ソヤ、答云、過去七仏、一ハ毘婆尸佛、此仏ハ、人ノ命八万歳時、出」世シ玉ウ、二ハ尸棄佛、人ノ命七万歳之時、出世シ玉ウ、三ハ毘舎浮佛、人ノ（6ウ）命六万歳時、出世シ玉ウ、四ニハ狗留孫佛、人ノ命五万歳ノ時、出世シ玉ウ、五ニハ狗那含」牟尼仏、人ノ命四万歳時、出世シ玉ウ、六ニハ迦葉佛、人ノ命三万歳ノ時、出世シ玉ウ、七ニワ」釋迦牟尼仏、周ノ昭王廿四年甲乃（寅カ）四月八日ニ、王宮ニテ誕生シ、同四十二年之二月八日ニ」至テ、御年十九ニテ出家シ玉ウ、檀特山ニテ道ヲ修シ、御年三十之時成道、十二月八日ニ」明星出時、菩提樹下ニシテ正覚ヲ唱ヘ玉イテ、文字ヲ不立也、心是寥々、常」住ニシテ空寂也、又是如来ノ心法也、是ハ師ニ依ツテ可レ覚ル心ニモ非ス、（10ウ）自心成ル カ故ニ、教外別傳ト云也。上ミ佛祖ヲ始メ、下衆生ニ至迄」全ク毫髪計リモ不レ替ラ、譬ハ水ト浪トノ如シ、然ルニ、末代ノ学者、心ヨリ外ニ」佛有、心ヨリ外ニ法有リト不レ思、問、抑此心ハ佛祖ノ心、衆生ノ心与ニ自」心ニ差別无事ヲハ分明ニ知ル、去テモ、此心ヲ證セン人ハ誰人ソヤ、答テ曰、過去ノ」七佛也、一ニハ毘婆尸佛、此仏ハ、人ノ命八万歳ノ時、出世シ玉フ、二ニハ尸」棄佛、人命七万歳ノ時、出世シ玉フ、三ニハ毘舎浮仏、人ノ命六万歳ノ時、出世シ玉フ、四ニハ狗留孫仏、人ノ命四万歳ノ時、出世シ玉フ、五ニハ狗那」含牟尼仏、人ノ命二百万歳ノ時、出世ル七ニハ釋迦文佛、周ノ昭王廿四年甲寅四月」八日、王宮ニ誕生シ玉フ、周四十二年二月八日、御〇九ニテ出家シテ、檀」（11オ）徳山（特カ）ニテ道修シ玉フ、御年三十ノ時、十二月八日、明星出ル時、菩」提樹下ニシテ正覚ヲ唱ヘ説法利生シ玉フ事四十九年也、令レ説玉フ」処ノ経ハ、始メ花厳経ヨリ、終リ涅槃ニ至迄、八万法

年三十ノ時、十二月八日、明星出ヲ時、菩提樹下ニ」正覚ヲ唱ヘ、説法利生シ玉フ事四十九年也、今説ヲ処ノ経ハ」始華厳経ヨリ、ヲワリ涅槃経ニ至マ、八万法蔵也、此佛キエン」（第44折）既ニツキ、周之穆王五十二年酢二月十五夜半ニ入滅シ玉フ」迦葉尊者ヲ招キテ、我ニ正法眼蔵、涅槃妙心アリ、実相无相、微妙法文、摩訶大迦葉ニ付属ス、同ク金ランノ袈裟ヲ授ク法」本法ハ无法也、无法ノ法ニ亦法也、今无法サツクル時、法々ナンソカツテ」法ナラン、是ハ諷誦経ヨリ出タリ、滅後廿八祖ニ當マ、達磨」（第45折）南天竺ヨリ来マ九年坐禅ス、其時、恵可大師ヲハシメテ六」代ノ祖師、恵能大師マテ、此袈裟傳マ、唐ノ曹溪ニトゝ」メテ、今ニアリ、内ニ傳ル心法ハ、法ニシテ、今ニタエス、證スル其数ヲ不レ知」喩ヘハ一月ノ万水ニウツリ、燈アマタニウツレトモ、光リ同キカ如シ」イニシエノ佛祖、此心ヲ證シ玉フ、今我等何トシテ證セサランヤ」（第46折）如レ是ナレハ、佛祖ノ心ト衆生ノ心トヘタテナシ、只一心ナルカ故ニ只」信ルヘ也、サレハ、トカナリ、故ニ六祖云、説法利生シ玉ウ処ノ経ハ、四十九年也。今説」玉ウ処ノ経ハ、始華厳経ヨリ、終涅槃経ニ至マテ、八万法蔵経也、此佛化縁既」尽テ、周ノ穆王五十二年癸酉二月十五夜半ニ、涅槃ニ入玉ウ、迦葉尊者ヲ」招テ曰、我ニ清浄涅槃妙心、実相無相、微妙ノ正法有、汝独ニ授ントテ、金(襴カ)ノ」袈裟ヲ授玉ウ。法ノ本法、無法、無法ノ法亦法也、今無法ヲ付ル時、法々何曽法ナラン、」是ハ諷誦経ヨリ出タリ、滅後廿八祖ニ至テ廿八代也、達磨、西天ヨリ来、九年」坐禅ス、其時、恵可大師始マ六祖歴代ノ祖師、恵能大師マテ、此袈裟」□□玉ウ、唐ノ曹溪ニ留マ、于今有リ、内ニ傳ル法々ニシテ、今ニ不断、人ヲ證スル其ノ」（7オ）□□不知、タトヘハ一月ノ万水ニ移リ、燈アマタニウツセトモ、灯テラスコト周キカ如シ」古ノ仏祖モ、此心ヲ證シ玉イテ、今我等何ソ證セサランヤ、如何トナレハ、佛祖ノ心ト衆」生ノ心ト無ノ隔、只一心ナルカ故ニ只信スルト不レ信ト、知与不知、修与不修ノ」故ニ六祖云、不修ヲ衆生ト名ケ、修ルヲ佛ト名ク、如レ是云ヲ不審ナラハ、見」蔵ノ経也、此佛ノ化縁既ニ盡マ、周ノ穆王五十三年壬申二月十」五日夜半ニ涅槃ニ入玉マ、迦葉尊者ヲ招イテ(マヽ子)、我ニ清浄ノ涅」槃ノ妙心、実相微妙正法有リ。汝獨ニサヅケントテ、金襴ノ袈裟ヲ授ケノ(金ヲ糸ニシテヌイヒロケタルサヲ也)曰マ、法ノ本法ハ无法、無法ノ法モ亦法、今付スル(ニ)無」法ヲ時、法々何ソ曽ア」法ナラン、是ハ諷誦経ヨリ出タリ、滅後ノ廿八祖ニ當」迄ハ、二十八代也。達磨、南天竺ヨリ来マテ、九年坐禅ス、其時、恵」可大師ヲ始、六代之祖師、恵能大師迄、此袈裟ハ傳マ」（11ウ）唐ノ曹溪ニ留リテ、今ニ有、内ニ傳心法ハ法々、マシテ今ニ不レシテ絶、證スル」人其数ヲ不知。譬ハ一月ノ萬水ニ移(ウツ)リテ、燈ノ多ニ移シ燈(トホ)セトモ、灯ハ昭」昭トシテ光同キガ如シ、古祖此ノ心證シ給ヒキ、今ノ我等何トシテ不レヤ證、如何(シ)トナレバ、」佛祖ノ心ト衆生ノ心ト隔無シ、只一ッ心成ルガ、只信ゼザルト不レ知云マ、不審ナラハ、」可レ見、飯ハ是来成ル事ヲ、」

修セサルヲ衆生ト名ク、修スル」ヲ佛ト云、如レ是云ヲ不審ナラハ、可レ見、飯ハ此来ノ成事ヲ、

大用　七（第47折）

大用トハ、佛祖モツタヱス、向上ノ一路ニハシリ出テ、生死路頭ヲ絶断シ」自己ノ風光、无明ノヤミヲ打破テ、日輪太虚ニ登テ法界ヲ照ニ」悉ク光明ナル、自然ニ知ルハシメヨリ、一切ノ智現前シテ、万法明シテ、万物クラカラサルコト、理ノ心ニシテ内外ニトヽマラスト云コト、他ヲ利ス」ル処ヲ煩ハセサルヲ大用ト云ナリ、喩ハ龍ノ一滴ノ水ヲ出テ」（第48折）遍ク（二ヲカ）ソヽキ、万物ヲ生長スルカ如ク、然□、経□、一タビ本心ヲ見テ、永ク生死ヲハナル、大智光明、遍照法界ト云ニ、一度本心ヲミ」ツレハ、我本ヨリ佛ナリト覚テ、佛ヲモトメス、心ヲ以テ法ヲ求ム、過」去ノ心トモ思ハヽ、現在ノ心トモ思ス、未來ノ心モ思ス、只當躰思量分」別ス成シ、善心ヲコシ、悪心ヲコシ、ウヱ來ハ飯ヲ喫シ、寒來ハ衣」（第49折）ヲカサ子、眠来ハフセル、サムレハヲキ、此心全ク是本ヨリ仏ナリト知ッヌ」レハ、永ク生

ヘシ、飯ニハ是来ノ作（ナル）事ヲ、

○大用

大用トハ、仏祖モ不傳、向上ノ一路ニ走ル生死ノ」路頭ヲ截断シ、自己ノ風光ニ、無明ノヤミヲ打破シ、日輪太虚ニ昇（ホカラ）テ、法界ヲ照ニ、悉ク」光朗カナルカ如シ。自然智、無師智、一切現在シテ、万法ニ明ニ、万物ニクラカラス、心朗ニシテ内外ニ」滞ラス、他ヲ利スルニ、人ヲ煩ワサヽルヲ、大用ト云也。喩ヘハ、竜ノ一滴ノ水ヲ以、普ク万物ノ相」ソヽイテ、令生長カ如ル。然ハ、圓覺經云、一度本心ヲ見ハ、永ク生死ヲ超ヱ、大智光」明、遍ク照ス法界ヲ、一度本心ヲ見ハ、我心本ヨリ仏也、仏ト悟リ得テ、心ヲ以ヲ不レ求、心」ヲ以不」求レ法ヲ、過去ノ心トモ不」思、現在心トモ不レ思、未来ノ心トモ不思、只當体思」量分別ヲナス、善心悪心ヲ起シ、飢来ハ飯ヲ喫シ、寒来ハ衣ヲ重、眠来ハ」（7ウ）臥シ、サムレハ即起ル。此人全ク是元ヨリ佛也ト知ハ、永ク生死ヲ超越ス、如レ是本心見ハ、

△大用

大用トハ者、佛祖モ不傳、向上ノ一路ニ歩出シテ、生死之路頭ヲ截」断シ、无明之暗ヲ打破テ、日輪ノ太虚ニ昇テ法界ヲ照ス、自然智」、无垢智現前シテ、萬法ニ明ニ、萬物ニ不」暗カラ事、理ノ心朗ニ内」外ニトコホ留ル事無クシテ、他ヲ利スルニ人ヲ不レ煩サ大用ト云也、譬ヘ龍ノ一滴ノ水ヲ」（12オ）以テ普ク澍ソヽイテ、萬物ノ相ヲ生長スルガ如シ、然レハヽ圓覺經ニ云、一見本心、永超生死、大智光明、遍照法界ニ云云、一度本心ヲ見ツレハト」者、我心本ヨリ学得ノ心ヲ以テ佛ヲ求ム、心ヲ以法ヲ求メヽ過去ノ心トモ不」思、現在ノ心トモ不レ思、只當体思量分別ヲ成シ、善心ヲ起シ、悪心ヲ」起ス、飢來ハ飯ヲ喫シ、寒來ハ衣ヲ重テ、眠来ハ臥シ、覚レハ則チ起ク」此心全ク是本ヨリ佛也ト知ヌレハヽ、長ク生死ヲ超出也、如レ是本心ヲ見ツレハヽ」三世ノ諸佛ノ説給フ処法ニ明也、其餘以テ衆生ヲ利益スルマヽ大」智之光明、普ク法界ヲ照スト云也、此レ又心ノ大用也、心ヽ燈之」如ク、念

死ヲイツルナリ、如是本心ヲ見ハヽ、三世諸仏ノ説処ノ」法ニ明也、其レヨリ以テ衆生ヲ利益スルヲ、大智ノ光明、遍ク法」界ヲ照ト云也、此又心ノ大用也、心ハ燈ノ如シ、念ハ光ノ如シ、心トハ云処ノ」本心ナリ、念トハ妄念也、又心ヲ以テ本心ヲ得タリトモ思ハヽ、得トハ」（第50折）得ル処无ヲ云也、又心ヲ以テ念ト□（思）ハサレ、妄念ハ本ヨリ妄也、妄ニハ實」躰ナキカ故ニ、又妄念ハ是心ノ用也、又心ノ智恵也、妄念无ハ智恵」アルヘカラズ、智恵无ハ心アルヘカラス、智恵无キ者ヲ木石ト云、智恵」アル者ヲ報身仏ト云、故ニ六祖云、空解ノミアツテ、智恵方便」无レハ、木石ノ者也、智恵方便アレハ、法王ノ人ナリト云、心ニ慈悲ア」（第51折）ルヲ應身ノ仏ト云、心ノ方法ハ是一心也、一心ノ外ニ法无ト覚マヽ心ニ」着相无ハ、此一心ハ是色ニアラス、形ニアラス、有ニモアラス、空ニアラサルニモア」ラス色ニモ形ニモアラサルニモアラスト覚テ、万法ニ於テ、トヽコヲラス、」一念モ生セサル心、是法身ノ仏也、是ハ法報應ノ三身ノ仏也、此三仏ハ」只吾一心也、一心ニ迷モノハ三仏ニ迷、我一心ヨリ外三世」ノ諸佛ノ説玉ウ法ニ明也、其ヲ以テ衆生ニ利益スルヲ、大智光明、普ク法界ヲ照ス ト云也、」是又心ノ大用也、心ハ灯ノ如ク、念ハ光ノ如シ、心トハ、心ノ本心也、念ハ忘念也、又心ヲ以テ本心ヲ」得ト思ワサレ、得処無ヲ得ト云也、念ハ忘（妄）念也、念ヲ以忘ト思ハサレ、妄念已ニ本ヨリ」妄也、實ニ体無カ故也、妄念ハ是レ心ノ智恵也、忘念無ンハ、智恵不レ可レ有、智恵無キハ、木石也ト云、」智恵有者ヲ報身仏ト云ヘリ、故ニ六祖云、空ヲ解スルノミ有テ、智恵方便ナキ時ハ、」木石也、智恵方便有ヲ、法王ノ人也ト云、心ニ慈悲有ヲ、應身仏ト云也、佛ノ心ハ、大」慈悲也、慈悲無者ヲ邪見ノ者ト名ク、万法ハ、既ニ一心也、一心ノ外ニ法ナシ、悟ヌレハ、心ニ」着相無シ、此一心ハ是色ニアラス、不レ形、不レ有無ニ、不レ空不レ色ニモ、不レ形ニモ、於レ万法不レ滞（トヾ）、」万物ニ碍ナク、一念モ生セサル心、是法身・報身・應身仏也、此三身仏ハヽ、只此一心也、」迷ハ三身ニ迷ヽ、悟ハ三身悟ル也、我一心ヨリ外ニ仏ナシ、自心ノ外ニ仏ヲ思ヘカラス、只一念」□□ノ上ニ指ハ光ノ如シ、心ト者、云心ノ本心也、念ト者、妄念也、又心ヲ以念ヲ」妄念トモ不レ思、妄念ハ是自レ本妄念也、實ニ」体無キカ故ニ、又（12ウ）妄智恵無キ物ヲハ木石ト云、智恵有物ヲ報身佛ト云、故ニ六」祖ノ云ク、空解耳有テ、智恵方便無キハヽ、木石ノ物也、方便有ルハ」、法王ノ人也ト云、心ニ慈悲有ルヲ應身佛ト云、故ニ仏心トハ大慈悲是」也、心ニ慈悲無キヲハ邪見ノ物ト名付ケ心ノ慈悲ヲ應身佛ト云マヽ心」ノ萬法ハ是一心ノ外ニ法無シト覚リ、心ニ着相無ク、此一心ハ是色ニ非ス」、形ニ非ス、不レ有ヲ非ス、空ニ不レ有非ス、覚リノ萬法ニ於テトヽコホラス、萬」法ニ於テサワク事無ク、一念モ不レ生心、是法身ノ佛也、是ハ法身・報身・」應身三身ノ佛也。此ノ三ノ佛ハ只我カ一心也、迷ヲ物ハ三」身ニ迷マヽ我カ一心ヨリ外ニ三身ノ佛ヲ念シ」、浄土ニ生セン事ヲ願マヽ三身ノ佛ハヽ」是一心也ト覚リヌレハヽ心ヨリ外ニ佛ヲ可モ念無ク、浄土トシテ可レ生浄土モ無シ、只」（13オ）一念不相（フチ）ナレハ皆是一心ノ大用也、如是説クヲ、猶不審ナラハヽ、見ヨ『虚』空ニ雲無レハ日月ノ光明成事ヲ、」（13ウ）

三身ノ仏ヲ念ズ」（第52折）浄土ニ生（セン）事ヲ願イ、三身ノ仏ハ、是一心也ト覚ヌレハ、心（ヨリ）外ニ可」レ念仏モナシ、浄土トシテ生スヘキ事无、只一心不生ノ処ニ打向マヽ心モ」ツケス、念ヲモツケス、无相ナレハ、皆一心ノ大用也、如レ是ノ説マヽ猶シ」不審ナラハ、可レ見、虚空直ニ雲无ハ日月ノ光光明ナル事ヲ」（第53折）

大徹　八

大徹トハ、通レイノ心性、玲々トシテ万物ニサワラサル如シ、万法明ニ一切ニ」徹スル事ヲキスナキ玉ノヨクモノニ徹シ、万像ヲウツスカ如クナル故ニ」我心性ノ玉ハ、煩悩ノキスナク、妄想ノ万境ニウツリ来テ去ル、心性ハ」玲々トシテ全クソノマヽ也、喩ハ疵无玉ニ万相移リ去ニ、此玉全ク」（第54折）万像ノ形ニナラス、本ノ玉ト成カ如シ、故ニ吾心性ヲサシテ大徹ト」云ヘリ、我等衆生心性ノ玉ウツリ来リウツリ去ルニ妄相、万境ノ形ニ」動轉シテ、心性霊ノ玉ノ常住不退シテ、无相无念成ヲ不レ知ミタ」リニ六道輪廻ス、クラキヨリクラキニ向テ、心ニ着セス、念ニ不着、無相ナレハ、皆是一心大用也。如是説ヲ」（8オ）□□不審ナラハ、見ヘシ、空ニ雲ナケレハ日月明ナルリ也（ママ）」

○大徹

大徹トハ、通例（ヨノツネノ）之心性、玲々トシテ万法ニ明ニ、万物ニ滞ラス、一心ニ徹スル事、疵（キス）」無玉ノヨク万像ヲ移カ如シ、故ニ心性ノ玉、煩悩ノ疵（キス）ナケレハ、妄想カ境ニ移リ来リ」皈リ去ル、心性玲々トシテ、全ク不動事、タトヘハ疵無玉ノ如シ、万像移来去ルニ、此玉全」万像ノ形ナルニアラス、本ノ玉ナルガ如シ、故ニ我心性ヲ指テ大徹ト云ヘリ、我等衆生ノ心」性玉ウツリ来去、忘相、万境ノ形ニ動轉セラレテ、心性ノ霊、玉ノ常住不変ニシテ、無」相無念ナルヲ不レ知、妄（ミタ）リニ六道ニ輪廻ス、以レ是業ヨリ入レ業、自レ苦々ニ入、只願ハ学道ノ人」

△大徹

大徹者、通例ノ性玲々（レイ）トシテ萬法ニ明ニ、萬物ニ不レ障（サエ）ラレ、一切ニ通（トヲ）ル」事、疵（キス）無キ玉ノ能物ヲ通（トヲ）シ、萬像ヲウツスカ如シ、故ニ我心性ノ玉煩悩ノ」疵無クシテ、妄想ノ萬境ニ移リ来リ移リ去ニ、心性ハ玲々トシテ全ク同ゼル事、」譬ハ疵無キ玉ニ萬相移リ来去ニ、此ノ玉ノ全萬像ノ形ニ不レシテ成、」本ノ玉成ガ如シ、故ニ心性ヲ指テ大徹ト云也、我等衆生ハ心性ノ玉」移来リ移去ル妄想、萬境ノ形ニ動轉シテ、心性ノ霊玉ノ常住」不変ニシテ、无相無念成ルヲ不レシテ知、乱リニ六道ニ輪回シテ、冥（ヨリ）冥ニ入リ、苦（ヨリ）」苦ニ入ル、只乞願ク学道ノ人、妄想境ニ住シテ妄念ヲモ不ル生有相ニ着シテ、愛著ヲ

入、苦ヨリ苦身ニ入、只覚道ノ」人、妄相ノ境ニ住シテ妄念ヲナサス、有相ニ着シテ愛念ノ相ヲモナサス、」（第55折）无念ニ住シテ真ヲモトメス、妄ヲモノソカス、妄相ノ境ニ住シテ、妄念ヲモ生」セス、又一念一向无念无心ニナレト云ニハアラス、念生スルトモ念ニ着セシト云也、相ノアレトモ相ニ着セント云也、相ハ有無ノ相ニ着セシト云義也、如是」會得シテ、一念不生ノ処ニ工夫成ヲ大徹ノ人ト云也、是ヲ不審ニ思」ハ、可レ見、太虚ニ風吹テ未タ曾テ虚空ノ不レ破カ如シ、」（第56折）

本来面目　九

本來面目トハ、久遠劫已前ノ心性、父母未生以前ノ心虚也、久遠」劫以前トハ、天地未レ開ケ事也、父母未生以前トハ、父母ノ胎内ニ未レ宿」サキノ事也、久遠劫以前、父母未生以前ノ心性ヲ、三世諸仏モ説玉ス、」（第57折）歴代ノ祖師モ未レ傳ヘ玉故ニ、何トナレハ、久遠劫已前ノ性ト云心性モナシ、」父母未生以前ノ心霊ト云心モ无、故ニ諸仏ノ心ト、衆生ノ心ト別ニナケレハ、」是コソヲ、衆生ノ心ト云、各別ノ无カ忘想ノ境ニ不レ住、妄念ヲ不レ生、有相ニ不レ着、愛着ノ想ヲモ不レ作、無念無住ニシテ、」真ヲモ不求、妄ヲモ除カス、妄想ノ境ニ住シテ、妄念ヲモ不生レト云ハ、一向無念無心」ナレト云ニハアラス、念ハ生スレ共、念ニ着セス、相ハアレ共、相ニ不レ着シテイヨト云也。如レ是會」得シテ、一心不生ノ処ニ工夫ヲ作ヲ、大徹ノ人ト云也、是ヲ不審ナラハ、太虚ニ風吹トモ未曾テ」虚空ノ破レサル事ヲ、

○本来面目

本来面目ト者、威音劫以前ノ心性、」（8ウ）父母未生以前ノ心霊也、威音劫以前トハ、天地未開叓也。父母未生以前トハ、未胎」内不宿前ヲ云ヘリ、威音劫已前、父母未生以前ノ心性ヲハ、三世ノ諸佛モ説玉ハス、」歴代祖師モ未傳、如何トナレハ、威音劫以前ノ性ト云心性モ無ク、父母未生ノ心霊」ト云心モ無ク、諸仏心ト与ト衆生ノ心、分別無也、故ニ、諸佛モ説玉ワスト云ヘリ、兪（喩カ）ハ大海モ不レ成、無念無住ニシテ心ヲモ不レ求、妄ヲモ不レ除、妄相ノ境ニ」住ニ、妄念ヲモ不レトハ生セ、又一向無念无心ニ成レト云ニハ非ス。念生スルトモ念ニ不レ着セ」ト云也。相ニ有レトモ相ニ不レト着セ云義也、如是會得シテ、一念不生ノ処ニ工」夫ヲ成ヲ大徹ノ人トモ云也、是ヲ不審ニ思ハ、可レ見、大虚ニ風吹トモ未」曾テ虚空ノ不レ破カ如シ、

△本来

本來ノ面目ト者、威音劫以前ノ心性、父母未生以前ノ心」霊也、威音劫以前ト者ハ天地未タ開ケ古也、父母未生以前ト者ハ」父母ノ胎内ニ未レ宿ラ前ノ事也。威音劫已前トハ、父母未生以」（14オ）前ノ心性ヲハ、三世ノ諸佛モ説不レ給、歴代ノ祖師モ未ダ傳不レ給、」故如何ントナレハ、威音劫以前性トハ、心性モ父母未生以前ノ心霊ト云」心モ無シ、故ニ諸佛ノ心モ、別ニ衆生ノ心モ外ニ無レハ、是コソ諸佛ノ心是コソ衆生ノ」心ト云、

故ニ諸佛モ説玉ワスト云ヘリ、喩ハ大」海ノ水ト小河ノ水ト云ニ入物カワレトモ、水ノ性同キカ如シ、微塵計」隔テナシ、祖師モ傳スト云也、喩ハ岳平地トノ如シ、高下ノ名ハ替レトモ、」（第58折）土ノ性ハ全ク一成カ故、金剛經云、過去心不可得、現在心不可得、未」来心不可得トニ云モ、我等カ心性、本ヨリ三世一心ナル理ヲシラスシテ、三界ニ」流轉ス、種々ノ苦ヲ受ル也、三世不可得ノ心ヲ悟マヽ本来ノ面目ヲ悟ル」者トニ云ヘリ、當躰ノ心ハ、自ラ不生不滅也、此心全ク本來面目也、此心正ニ是久遠劫以前ノ心性也、身ヲハナレテ名ヲ尋ルガ如シ、如レ是」（第59折）ノ説ニ、本来面目ニ本ツカスンハ、可レ見、昨日出日今日出ル日夜ヲ隔」ルト雖モ、日輪ニカワラサルカ如シ」

見性　十

見性ハ、仏性也、万法ノ實性也、謂ル衆生ノ心ノ水ト」小河ノ水ト云ニ入物ハ各別ナレ共、水ノ性ハ同カ如シ、祖師ノ一念不生ノ心ト、我等カ思」量分別、妄想ノ心ト、微塵斗モ隔無、故ニ祖師モ不傳ト云ヘリ。岳ト平地トノ如シ、高下ノ名ハ替レ共、土ノ性ハ全ク一也、金剛經ニ云、過去心不可得、現在心不可得、未来」心不可得ト云モ、我等カ心性、本ヨリ三世ノ心トテ別ニ三ナシ、故ニ三世不可得ト説玉ヘリ、」我等衆生、三世一心ナルリヲ不知シテ、三界ニ流傳（轉カ）シテ、種々ノ苦ヲ受ク、三世不可得ノ心」悟、本来ノ面目ヲ悟ト云、當体ノ心ハ、本ヨリ不生不滅也、此心全本来面目也、又」此心正ニ是威音劫以前ノ心性也、是心ヲ離テ外ニ求ヘキ悟ナシ、若此心性ヲ」□□別ニ不レ求者アラハ、身ヲ離テ影ヲ尋カ如シ、如レ是説テ、本来面目ニモトツカ」（9オ）□□、見ヘシ、昨日出日モ今日出日モ、夜ヲ隔ト雖モ、日輪ノ影ハ如レ不カ替、云々、」

○見性

見性ト者、佛性也、万法ノ實性也、所謂衆各別ノ心無カ故ニ、諸佛モ説キ不レスト給云ヘリ、譬ハ大海ノ水、小河」水ト云物ハ別成リト雖モ水ノ性ハ同如シ、祖師ノ一念不生ノ心ト、我等ガ思」量分別ノ妄想ノ心、微塵計モ隔テ無レハ、祖師モ不傳ト云也、譬ハ」岡ト平地トノ如シ、高卑（ヒキ）名ハ替レトモ、土ノ性全ク一成ルガ故ニ、金剛經ニ云、過去」心不可得、現在心不可得、未来心不可得ニ云、我等ガ心」性、本ヨリ三世トテ別ニ三ノ性無カ故ニ、三世不可得ト説也、我等衆生」三世一心ノ理ヲ不シテ知、三界ニ沈淪シテ種々ノ苦ヲ受ル也、三世不可得ノ」（14ウ）心マヽ本来ノ面目ニ悟ル物ト云也、當体ノ身自レ本不生不滅也、此心」全ク本来ノ面目也、此心正ニ是威音劫以前ノ心性也、此心ヲ離テ」外ニ可レ求物モ無シ、若シ此心性ヲ離テ別ニ求者ハ、譬ハ身ヲ離テ」名ヲ尋シンカ如シ（モトツカ）如是説ニ、本来面目ニ不ニ本付一、可レ見、昨出ル日」今日出ル日、夜隔ト雖モ日輪ノ不レル替事ヲ、

△見性

見性ハ、佛性也、萬法ノ實性也、所謂衆生ノ

性也、此性ハ、有情非」（第60折）情ニ渡リ、凡夫賢聖遍シテ、スヘテ住スル処无カ故ニ、无住ノ性ト云、有」情ニアツテモ有情ニアラスヤ、非情ニアツテモ非情ニアラスヤ、諸仏ニ」有モ諸仏ニ住セス、衆生ニアツテモ衆生ニ住セス、善ニアツテモ、悪ニアツ」テモ、色ニ在テモ形ニ在テモアラス、一切ニ住セサル間、无住ノ性ト云、又此性、」色ニアラス、有ニアラス、无ニアラス、住ニアラス、明ニアラス、煩悩ニアラス、菩提ニア」ラス、全ク實性ナシ、如レ是ノ覚見性ノ法ト名ク、衆生ハ此性ニ迷」故ニ六道ニ輪廻ス、諸仏ハ此性ヲ覚テ、六道ニ在テモ六道ノ苦受玉ス、故ニ願ワス」」学人、我カ心性是佛性也、本ヨリ不生ニシテ常ニ変セス、无生ナリト」悟テ、心性ヨリ外ニ仏性ヲ求メサル故ニ、古人云、衆生ノ性則佛性也、」此性ヲハナレテ佛ナシ、此心性ヲハナレテ衆生ナシ、喩ハ水ト波トノ」（第62折）如シ、又云、性ハ寂滅ノ性、是涅槃ノ性也、涅槃ノ性我也、衆生ノ地」獄アルトキモ此性去ラス、故ニ衆生、佛ニ成ル時ニモ此性不レ来、有」僧大珠禅師ニ問、如何是大涅槃ノ性、答云、生死業ヲナ生ノ實性也、此性ハ、」有情非情ニ渡ル、凡夫賢聖ニ普ク實聖ニ周シテ、住処無シ、故ニ、無住ノ性ト云、有情ニ有テモ」有情ニ不レ住、諸仏ニ有モ諸仏ニ不レ住、衆生ニ有モ衆生ニ不レ住、一切不住ノ間、無住ノ性ト」云、又此性ハ、非レ有ニ、非レ無ニ、非レ行、非レ住、非レ明、非レ暗、非煩悩、非レ菩提、全ク實性無也、」如レ是悟ヲ、見性ト云、衆生ハ此性ニ迷カ故ニ、六道ニ迷ウ、諸仏ハ此性ヲ悟テ、六道ニアレ共、六道ノ」苦ヲ不受、願ハ、学道人、我心性ハ是仏性也、本ヨリ不生不滅也、常住不変、」無性也ト悟テ、仏性ヲ不レ求、故ニ、古人云、衆生ノ性ハ則仏也、此心ヲ離テ、衆生無シ」喩ハ水与波ノ如シ、又ハ、寂滅ノ性也、寂滅ノ性ハ、是涅槃ノ性也、涅槃ノ性ハ、我等カ」性也、衆生ノ地獄ニ有時モ、此性ヲ不レ去、故ニ、衆生ノ仏ニ成時モ、此性ヲ不レ去、或ハ僧」大珠禅師問、如何是佛性、答云、一也、又問、如何大涅槃ノ性、答云、生」死ノ業ヲナサヽル者、是涅槃也、又、如何是生死ノ業、答云、大涅槃ノ性ヲ求ハ、生」（9ウ）死ノ業也、此僧大悟ル、知ヌ、此性ヲ菩提ヲ求ン人ハ、皆生死ニ心性也、性有」性非性ニ渡リ、凡夫賢聖ニ普ク都テ住スル処無シ、故ニ、无住ノ性ト云、」有情ニ有テモ情ニモ不レ住、非情ニ有テモ非情ニモ不レ住、諸佛ニ有テモ諸」佛ニモ不レ住、衆生ニ有テモ衆生ニモ不レ住、善ニ有テモ善ニモ不レ住、悪ニ有テモ悪ニモ」不レ住、一切不住ノ間、无住ノ性ト」云、又此性ハ、色ニ有テモ色ニモ不住、形有テモ形ニモ不レ住、一切不住ノ間、无住ノ性ト」云、又衆生ハ此性ニ迷故ニ、六道ニ輪廻ス、諸佛ハ此性ヲ覚テ、六道ニ有テモ六」道ノ苦ヲ受不レ給、故ニ願ハ、学道人、我カ心性ハ是佛性也、本ヨリ不」滅不生ニシテ常住不変无性也ト悟テ、心性ヨリ外ニ佛性ヲ不レ求、故ニ」古人ノ云ク、衆生ノ性則佛性也、此ノ心性ヲ離テ衆生無シ、譬ハ水ト波トノ」如シ、又云ク、性ハ寂滅ノ性也、寂滅ノ性ハ是涅槃ノ性也、涅槃ノ性ハ」我等カ性也、衆生ノ地獄ニ有時モ、此性不去、故ニ衆生、佛ニ成時モ此」性不来、或僧大珠禅師問云、如何是大涅槃性、大珠」（15ウ）答テ云、生死業ヲ不レ作者、是大涅槃ノ性也、又問、如何是大」

サヽル」者是大涅槃也、又問、如何是生死業、答云、大涅槃ノ生ヲ求ルハヽ」生死業、此僧大悟ス、知テ、又性ヲ以テ菩提ヲ求ル人ハ、皆生死流」（第63折）轉スヘキ也、求ルニ本ヨリ生死ナシ、今ハシメテ涅槃ヲ求メサレハ、是ヲ」見性ト名ク、猶シ心得スンハ、可レ見、柳ハ緑花ハ紅ナリト云事ヲ」

得法　十一

得法トハ、无法也、无法トハヽ、諸佛ノ心法、衆生ノ心、本来清浄ノ」（第64折）心法也、有為ノヒ法、无為ノヒ法、生滅ノヒ法、寂滅ノヒ法、本来」常住不変ノ法也、故ニ釈尊ノ云、法ノ本法ハ无法也、法□（ヘカ）无法ヲ」付ル時、法々何ヶ曾テ法ナラン、云々、又金剛經ニ云、法ハ只一字也、又无字ナリ、」本ヨリ言説ナシ、何トシテ言説ノ処ニ在ンヤ、又浄名經ニ云、所説ノ法ハヽ」有ニアラス、无ニアラス、因縁ヲ以テ故ニ、諸法ヲ生ス、又法華經ニ云ヽ」（第65折）是法住法位、世間相常住也、又云、法ハ常ニシテ无生也、佛種ハ緣」ヨリ起ル故ニ一乘ト説ヲ、又云、只一乘ノミアツテ、二ヽモ流傳スヘシ、本ヨリ生死ナシ、」今始テ涅槃ヲ求サレ、是ヲ見性ト名ク、是不審セハ、見ヘシ、柳緑花紅ナル支ヲ、

○得法

得法ト者、無法也、無法ハヽ、諸仏ノ心、諸ノ衆生、本来清浄ノ心法、非ニ有為法ニ、非ニ無為法ニ、非ニ生滅ノ法ニ、非ニ寂滅ノ法ニ、本来常住シテ、不変ノ法也、故ニ」釋迦云、法ノ本法ハ無法也、無法ノ法又法也、今無法ノ付スル時、法々何曾法ナラン、」金剛經云、佛法者、即非ニ仏法ニ、是ヲ名テ仏法ト云ヘリ、此心ハ、仏法ト云ハ、即非仏法」是ヲ名仏法ト見ヘタリ、又師子吼經云、法ハ只一字也、又所謂無ノ字也、本ヨリ」無、ナンソ言説ノ処有ンヤ、又浄明（名カ）經云、説処ノ法ハ、非レ有非レ無、因縁ヲ以テ故ニ、諸法ヲ生ス、」又法華經云、是法住法位、世間相常住也ト涅槃性、答曰、大涅槃性ヲ求ルハヽ、生死業也、愛ニ僧大悟ス、知ヌ性ヲ」以テ菩提ヲ求ル人、皆生死ニ流轉スヘシ、自レ本生死無シ、今始テ涅槃ヲ不レ」求、是ヲ性ト名付ク、於レ此ニ不傳心ノ者ハ、可見、花ハ紅水緑成ル事ヲ」

△得法

得法ト者、无法也、无法者、諸佛ノ心モ、諸ノ衆生本来清浄ノ」心也、有為ノ法ニ非ヌ、无為ノ法ニ非ヌ、寂滅ノ法ニ非ヌ、本来常住不」変ノ法也、故ニ釋迦佛偈ニ曰、事ナラント云、又金剛經ニ云、佛」法者則非ニ佛法。此ヲ佛法ト名ックヽ又獅子吼經ニ云、法ハ只一」字也、所謂无字也、自本言説無ヽ何ッ言説スル処有ンヤヽ又浄」（16オ）名經ニ云、所説ノ法ハヽ有ニ非ヌ无非ヌ、因縁ヲ以テ故ニ、諸法ヲ生ス、又法花經ニ云、」是法ハ法住（位カ）ニ住シテ、世間ノ相常住也、又云、法ハ常ニ无生也、」佛種ハ緣ヨリ起ル、此故ニ、一乘ト説、又云、唯一乘ノ法ノ有テ、无二无三、今云所ノ一乘ノ法ハヽ我等カ心法也、

无ク二モナシ」、今云処ノ一乗ノ法トハ、我心法也、祖師云、我等カ心法ヨリ外ニ法」トシテ一法モツタヱス、名テ心法ヲツタウト云、大恵禅師ノ云、此經」ハ本ヨリ我心法ニシテ、外ヨリ得□□セス、又師ニヨツテ得ルニ非ス、一法」（第66折）トシテ授クヘキ法モナシ、若可レ授法アラハ、未タ生死解脱ノヒ法、无明」ノ法也ト、云リ、達磨ノ云ク、不立文字ノ心法本ヨリ言説ヲハナレタル故ニ」此心法ヲ以テ心アト問ハス、言説ヲ以問ハス、无言ヲ以問ハス、有」ハナレ、着无クシテモ問ハス、无ヲハナレ、着アツテモ問ハス、心ヲハナレ、念ハナレ、言」ヲハナレテ、法ヲ以テモ問ハスト云ヘリ、一念モ生シテ」此ノ心法ヲ問ヘ、皆仏」（第67折）祖ノ心ヲソムクヘシ、是我心法ニアラサル故ニ、古人ノ云、僅ニ心ヲ生」スレハ則ソムク、念ヲ動スレハ忽ニアヤマル、只一念モ生セサレハ、万法ニト」カナシ、トカナケレ、法ニアラス、心ニアラスト云リ、如是心得テ、一念不生」ノ処ニ、打向テ心煩ナク知マヽ、得法トハ云ヘシ、猶シ不審ナラハ、見ヨ烏ハ黒ク鷺ハ白キ事ヲ」（第68折）

云ヘリ、又云、法ハ常ニ無生也、佛種従レ縁」起ルト見ヘタリ。故ニ、唯有二一乗ノ法ノミ、無レクニ無シ二、今云処ノ一乗ノ法トハ、我等カ心法也。又」祖師ノ云、我カ法ヨリ外ニ、法トシテ一法モ不レ傳マヽ、名テ心法ヲ傳ト云。大恵法師ノ云、是法ハ」□□我カ心法ニシテ、外ヨリ得ニアラス、一法トシテ可レ授無レ法、若可レ授法有ハ、見是生死」（10オ）□□不レ法ニ、無明ノ法也。今達磨傳玉ウ、不立文字ノ心法ハ、本ヨリ言」説離レタル故ニ、是心法ハ、有心ヲ以テモ不レ問、言説ヲ以テモ不問、無言以テモ不問、有ヲ」離レ、無ニ着シテモ不問、離レ無ヲ有ニ着シテモ不問、心ヲ離レ念ニ着モ不問、離レ言法ヲ以モ不問」、都テ一念生シテモ是法ヲ問ハサレ。若一念生シテ是ノ心法ヲ問ハ、皆仏祖ノ心ニソムクヘシ。又」我カ心法ニアラス。故ニ、古人云、纔ニ心生スレハ則ソムク。念ヲ動スレハ忽ニ錯、只一念モ生セサレハ、」自然ニ仏祖ノ心ニ相應ル又祖師ノ云、一念不生ナレハ、万法咎無、々レ咎法ニ非ス、々ハ法心ニ」非ストト云ヘリ。如是ノ心得テ、一念不生ノ処ニ指向テ、煩イナシト知ルマヽ、得

祖師ノ云ク、我等カ心法ヨリ」外ニ法トシテ一法モ不ルヲ傳、名付テ心法ヲ傳フト云ヘリ、大恵禅師ノ云ク」、此法ハ本ヨリ我ガ心法ニシテ、外ヨリ得ルニ非ス、又師ニ依リテ得ルニ非ス、一法トシテ可」レ授ク法无シ、若授得ヘキ法有ラシ、未タ是生死解脱ノ法ニ非ス、」无明ノ法也ト云ヘリ、今達磨ノ傳ヘタマヽ、不立文字ノ心法ハ、自レ本」言説離タル故ニ、此ノ心法ハ、有心ヲ以テモ不レ問、无心ヲ以テモ不レ問、言」説ヲ以テモ不レ問、有ヲ離テ无ニ着シテモ不レ問、无ヲ離テ有ニ著シテモ不レ問、」（16ウ）心ヲ離レ、言ヲ離テ、法ヲ以テモ不レ問、都ヘテ一念モ生シテモ此法ヲ不レ問、若一心モ」生シテモ此法ヲ問ント思ハ、皆是佛祖ノ心ヲ可シ背ク、又是我心法ニ不レ至ラス歟」故ニ、古人ノ云ク、纔ニ心ヲ生スレハ則背ク念ヲ動スレハ忽ニ謬ル只一念モセ（生脱カ）ザレハ、」自然ニ佛祖ノ心相應ス、又鑑智禅師ノ云ク、一心不レハ生、萬法ニ」過無シ、萬法ニ過無レ法ニ非ス心ニ非ストト云事無シ、如レ是心得テ、一念」不生ノ処ニ、指向テ心ニ煩ヒ無マヽ、得法ノ人トト云。是ニ於テ不審ナラハ、見ヨ」烏ハ黒ク鷺ハ白キ事ヲ、

法ノ人ト云ヘリ。是ヲ」不審ナラハ、見ヘシ、烏ハ黒鵲ハ白シ。

無相　十二

无相トハ、諸佛ノ心相、衆生ノ心源ナリ、万法ハ无相ヲ以テ本トス、故ニ」達磨ノ云ク、菩提トハ、无相ヲ以テ性トス、衆生ハ有ニ着シテ、二十五有ノ」生死ニ輪廻シテ、種々ノ苦ヲ受ク、諸佛ノ諸相ハ无相ナリト悟、十方ニ」（第69折）遊ヒテ、種々ノ樂ヲ成玉フ故ニ心相トス、故ニ无相トス、金剛經ニ云ク、我」相人相衆生相壽相也、是菩提ニアラスト云、六祖ノ四相ヲ釈シテ曰ク、」能所在アツテ、衆生ヲカロシムルヲ我相ト云、持戒ヲタモチタルヲ憑テ、破」戒者ヲカロシムルヲ人相ト云、三悪道ノ苦ヲイトイ、天上生ント願ハ、是」衆生相也、心ニ命長カン事ヲ思テ、善根ヲ修セサルヲ壽者相ト云也、心ニ」（第70折）四相有ハ、佛是衆生也、四相ナケレハ、衆生則仏也、黄蘗禅師曰ク、」无相ナルハ、法身ノ法也、法身ノ相ハ、虚空ノ如シ、虚空ト法身ト異」相ナシ、佛ト衆生ト、異相ナシ、生死ト涅槃ト異相ナシ、煩惱ト菩提ト」異

○無相

無相ト者、諸佛ノ心相、衆生ノ心源也、」万法ハ無相ヲ以テ本トス、故ニ達磨云、菩提ト者、無相ヲ以テ性トス、衆生ハ有相ヲ以」本トス、故ニ、二十五有ノ生死ニ輪廻シテ、種々ノ苦ヲ受ク、諸佛□諸相ハ無相也ト悟、十方ニ」遊戯シテ、種々ノ樂ヲウク、故ニ心相ト云、故無相ト云ヘリ、金㝵經ニ曰、我相・人相・衆生」相・壽者相ト有ハ、菩提ニ非スト云、六祖ノ是四相ヲ釈シテ云、心ニ能得ル処有テ、衆生ヲカルシムル」（10ウ）ヲ我相ト名ケ、自ラ持レ戒ト憑テ、破戒ノ者ヲカルシムルヲ人相ト云、三途ノ苦ヲ厭テ、天上ニ生ント」願ハ、是レ衆生ノ相也、身命長ント思テ、菩提ヲ修スルヲハ壽者相ト云ヘリ、心ニ四相有、」佛モ則衆生也、四相無ンハ、衆生即佛也、又黄壁（檗カ）禅師云、無相ナレハ、法身也、法身ノ相ハ、」虚空ノ如シ、虚空ト法身ト異ナル相ナシ、生死与涅槃ト異ル相ナ

△無相

无相ハ、諸佛ノ心相、衆生ノ心源也、萬法ハ无相ヲ以テ為レ本ト、故ニ」達磨曰ク、菩提无相ヲ以テ性トス、衆生ハ有相ニ著シテ、二十五有ノ」（17オ）生死ニ回リテ、種種ノ苦ヲ受ク、諸佛ノ諸相ハ无相也ト悟テ、十方ニ遊」戯シテ、種々ノ樂ヲ受ケ給フ、故ニ心相トシ、无相ト云、金剛經ニ云ク、我相・」人相・衆生相・壽相有ル、是菩薩ニ非ス、六相（祖カ）、此相ヲ」釋シテ曰、心ニ能所有テ、衆生ヲ輕シムルヲ我相ト名ク、自ハ戒ヲ持タリト思テ、破戒ノ者ヲ輕ルヲ人相ト名ク、三途ノ地獄ノ苦ヲ厭ヒ、天上ニ生ゼント願フハ、是衆」生相也、心ニ命長カラン事ヲ思テ、善根ヲ修スルハ、壽者相也、心ニ四相」有ラハ、佛則是衆生也、心ニ四相无クハ、則衆生是仏佛也、黄檗」禅師ノ曰、无相ナルハ、法身佛也、法身ノ相、虚空ノ相ノ如シ、虚空ト」法身ト異相無シ、衆生ト涅槃ト異無シ、煩惱ト菩提ト異相」無シ、都テ一切ノ相ヲ離レヌレハ、則是佛也、又六祖ノ云ク、何ヲカ无相ト名ツクル、」

相ナシ、都一相離ルレバ、則是佛佛也、六祖云、何ヨリカ无相」ナツケン、相ニヲイテ相ヲハナルゝヲ无相トス、外ニハ一切ノ相ヲハナレ、内ニハ諸ノ」（第71折）相ヲ着セズ、此ヲ无相ト名ト云々、一切ノ相ニ着セスシテ无相ナルヲ、是」仏也トス、相ニ着シテ相ヲハナレス、是ヲ以テ衆生无ナル事ヲ因果ヲ」タゝシ、无相ナレハトテ、因果ヲハタシ、ウシナウテ、心ヲ以テ无相ナラン」トスルハ、又是外道、一切ノ相ヲアレトモ、一切ノ相ニヲイテ心ニ着ナキヲ、」一念モ生セサル、是ヲ无相ト名ク也、只願ハ学道ノ人、法身ノ（佛）」（第72折）成ト思ヽ、万物ニヲイテ心ニ着相ナカレ、着ノ相无クンハ、當躰ヲ」ハタラカサス、全ク是佛成ヘキ也、猶シ不審ナラハ、見ヨ、纔ニテモツ」ナキタル舩ノ風ニ順シテ大海ニ出シカ如シ、」

无念　十三（第73折）

无念トハ、佛祖内證、衆生正路也、佛祖ハ一切ノ諸法ニ於テ、」一念モ生セス、无念ナル故ニ、生死ニ於テ自在ヲ得給ヘリ、衆生」ハミナ万物ニ出テ念ヲ生シ、着念アル故ニ、生死ニ流轉シテ念シ、煩惱与」菩提異ル相ナシ、都テ一切ヲ離ルゝハ、即是仏也、又六祖云、何ヲカ是無相ト名ク、外ニ」一切ノ相ヲ離レ、内ニ諸相ニ着セサルヲ、無相ト名ク、是ヲ以テ知ヌ、一切ノ相ニ着セシテ無相ナルハ」是佛也、相ニ着シテ相ヲ不レ離ヲ衆生ト云也、但シ無相ナレハトテ、因果撥撫シテ、心ヲ以テ」無相ナレトスルハ、是外道ノ教也、一切相アレ共、一切ノ相ニヲイテ、心ニ着無ハ、是無相也、」只願ハ學道ノ人、法身仏ニナラント思ハ、於テ□物ニ心ニ着相ナクンハ、當体ヲハタラカサス、全ク是佛也、是猶不審ナラハ、見ヘシ、ツナヲ離タル船ノ風ニ随テ大海ヲハシルカ如シ、

○無念

無念ト者、佛祖ノ内證、衆生成仏ノ正路也、佛祖ハ一切ノ於ニ諸法ニ、一念不」□□無念ナルカ故ニ、於生死ニ自在ヲ得玉ウ、衆生ハ万物ニヲイテ念ヲ生シ、着念」（11オ）□□故、（17ウ）相ニ於テ然モ相ヲ離ルゝヲ无相トス、外ニハ一切ノ相ヲ離レ、内ニハ諸ノ相ニ不レ着ヤ、」无相ト名ク云、是ニ知ヌ、一切ノ相ニ不レシテ着无相成ルヲ、是佛也トス、相ニ」着シテ相ヲ離レサルハ、是衆生成ル事ヲ、但シ无相ナレハ因果ヲ措ノ无シテ、心ヲ」以テ无相ナラントスルハ、又是外道也、一切相ハ有レトモ、一切ノ相ニ於テ心ニ」着無シテ、一念モ不レルハ生、是无相也、只願ク学道ノ人、佛ニ成ラント思ハヽ、」萬物ニ於テ心ニ莫レ着相ニ、猶不審ナラハ、見ヨ、トモツナニツナヲツナカス舟ノ」風ニ随テ大海ニ走ルカ如シ、

△无念

无念ハ、佛祖ノ内證ノ心性ノ成佛ノ正路也、佛祖ハ一切ノ法ニ」於テ、一念モ不レシテ生、无念成ルガ故ニ、生死ニ於テ自在ヲ得給ヘリ、衆生ハ」（18オ）一切萬物ニ於テ念ヲ生シ、着念成ルガ故ニ、

苦ヲ」得(ウ)ル也、六祖ノ曰ク、衆生成佛セント思ハヾ、先无念ナルヘシ、无念ナル」故ニ、頓ニ成佛スト云々、大惠禅師ノ曰ク、ソレ有心ヲ以テ生(セバ)」（第74折）是邪見外道也、无念ヲ以テ念スレトモ、无性ヲ以テ生スレハ、是空」見ノ外道也、念ハ无念ヲ性ニシテ、无性是仏ノ第一義諦也ト云々」然則、一向ニ无念ニシテ、木石ノ如クナルト云ニハアラス、又一向ニ念ニ着(シテ)」猿ノ木枝ニウツルカ如クナルト云ニハアラス、念ハアレトモ、二念ヲ着セサレト」云、无念ノ処ヲ以テ心ヲ无念トモ思ハサレ、有念无念ヲハナレテ、一念」（第75折）モ生セサルヲ无念トス、施灯経ニ云、佛ニ四種ノ證妙善法アリ、」一ニハ戒、二ニハ禅、三ニハ般若、四ニ无獨也、一切ヲ忍也、故忍スルトハ、」无念也、大知(智力)（度力）玄論ニ曰、三禅行処也、只佛果ヲ證セバ、必无念ノ定力」ニヨル也、然則佛法万差成(用力)ト也、雖レ然、必皆无念ノ定力ヲ以入也、又瓔」珞経ニ云、无念ノ心ニテ、心意識ヲハナルヽヲ、法身究竟ノ仏ト云々、四」（第76折）十二章経ニ云、悪人ヲ百人ヲ養(ハン)ヨリ、善人獨リ養(ハン)ニハ如(シカ)ス、千人ノ」善人ヲ養(ハン)ヨ

生死ニ流傳(轉力)シテ、念々苦ヲ受ル也、故六祖ノ云、衆生ヲ成佛セント思ハ、先無念」ナルヘシ、無念ナルカ故ニ、成佛スト云ヘリ、又六祖云、其レ有心ヲ以念トシ、以レ生々トセバヽ」是邪是(見力)外道ノ所住也、無念以テ念トシ、無性ヲ以性トセハ、是空見外道ノ」所住也、念ハ無念ノ性ニシテ無性ナレハ、是何身ノ第一義諦也、然ハ則、一向ニ」無念ニ着シテ、猿ノ木ノ枝ヲ落ルカ如ク成ト云ニワ非ス、念ハ生スル共、則念ヲ移シテ念ニ着」セサレト云リ也、無念ノ処ヲ持テ、無念トモ思ハサレ、有念無念ヲ離テ、一念モ生セ」サルヲ無念トスル也、又施灯経ニ曰、佛ニ四種證妙ノ禅法アリ、一ニハ戒、二ニハ善、三ニハ」般若、四ニハ無独ノ心也、於其中ニモ、禅定第一也、一切ヲ忘スルカ故也、忘トワ、無念ノ義也、」大知(智力)度輪(論力)ニ云、三禅ノ行処雖レ異、仏果ヲ證スルハ、必無念ノ定也、然則、仏法万差」タリト云トモ、必無念ノ定ヲ用ル也、又瓔珞経ニ云、無心無念ニシテ、心意識ヲ離ヲ、法身」究竟佛ト云、又十二部経ニ云、悪人百人ヲ供養センヨリ、一孤ノ

生死ニ流轉シテ念ニ苦ヲ得ル也、」故ニ六祖ノ云々、衆生成佛セント思ハヾ、先ッ无念可レ成ル、无念成ルカ故ニ、」頓ニ成佛ト云云、又大惠禅師曰、夫有心ヲ以テ念スト(モ)生(トセバ)、是ハ邪見ノ」外道ノ所従也、无念ヲ以テ念ズトモ、无性ヲ以テ性トスレハヾ是空見ノ外道ノ一」性也、念ニシテ无念、性ニシテ无性ナレハヾ、是佛見、第一義諦也云云、然ハ」則、一向ニ无ニシテ、木石ノ如ク成(ナ)ト云ニハ非ス又一向ニ念着シテ、猿ノ木ノ枝ニ移(ガ)」如ク成(ナ)トニハ非ス、念ハ生ズレトモ、二念ニ移リテ念ニ着セサレト云、无念ノ処ニ心ヲ以テ无」念トモ不レ思、有念无念ヲ離テ、一念モ不レ生无念トス、施燈経ニ云々」佛ニ四種ノ證妙ノ善禅法有リ、一ニハ戒、二ニハ善、三ニハ般若、四ニハ无獨」心也、其中ニ禅定第一也、一切ヲ謗スルガ故ニ、一切ヲ謗スルハヾ无念ノ義也、」（18ウ）大智度論ニ云々、三種ノ行処ハヾ、雖レ異ナリトモ、佛果ヲ證スルハヾ、必ス无念ノ定」力ニ依々、然ハ則、佛法萬着也成ト雖トモ、必无念ノ定力ヲ以テ入也、又」瓔珞経ニ曰、无心无念ニシテ、心意識ヲ離レタルヲ、法身究竟佛ト云云、」四十二章経ニ云々、悪人ヲ百人従(リハ)養ヽ、善人獨ヲ不シ如レ養ンニハ、千」人ノ善人ヲ

リ、獨ノ五戒ノ者ヲ養ハンニハ如シ、万人ノ五戒ノ者ヲ供」養センヨリ、獨ノ須陀洹ヲ供養センニハ如シ、千人ノ須陀洹ヲ供養」センヨリ、獨ノ斯陀含ヲ供養センヨリ、獨ノ阿那含ヲ養ハンニハ不レ如、万々人ノ阿那含ヲ供養センヨリ、獨ノ（第77折）阿羅漢ヲ養ハンニハ不レ如、一億ノ阿羅漢ヲ供養センヨリ、獨ノ辟支仏」ヲ供養センニハ不レ如、十億ノ辟支佛ヲ供養ンヨリ、獨ノ仏ヲ養ハンニハ」如シ、百億ノ三世ノ諸佛ヲ養ンヨリ、无心无念不住无修无語（得カ）ノ」者ヲ供養ンニハ不レ如、今云処ノ无念ニシテ、一念不生ノ人也、然則、李（利カ）長」ト云者、介（金剛カ）経ノ三世不可得ノ心ヲ悟リ、无念ヲ悟リシカハ、天人食ヲ」（第78折）ヲクリ玉マヽ須菩提、无念ニシテ坐セシカハ、帝釈来テ、常ニ法ヲ問マヽ」仰山禅師、无念ニシテ坐セシカハ、羅漢来テ、花ヲ捧ゲ、其外」数ヲ不レ知、然則、无念ノ人ヲ、梵天帝釈四大天王ヲ始トシテ、」十方ノ聖衆、此人ヲ圍遶渇仰ス、三世諸仏モ此人ヲ供」養シ玉ヘリ、願ハ学道ノ人、无念无心无住ニシテ、一念モ不レ生、是」（第79折）則浄妙法身ノ如来ト名ク、不レ可レ疑、不審ナ

善人ヲ供養センニワ」シカシ、千人ノ善人ヲ供養ンヨリ、独ノ五戒者ヲ供養ンニハシカシ、万人ノ五戒ノ者ヲ供養ンヨリ、」（11ウ）独ノ須陀洹ヲ供養ンニハソシシ、万人ノ須陀洹ヲ供養ンヨリ、独ノ斯陀含ヲ」供養ンニハシカシ、百万人ノ斯陀含ヲ供養ンヨリ、独ノ阿那含ヲ供養ンニハシカシ、一」億ノ阿那含ヲ供養ンヨリ、独阿羅漢ヲ養ンニハシカシ、十億ノ阿羅漢ヲ供養」ンヨリ、独ノ辟支仏ヲ供養ンニハシカシ、百億ノ辟支佛ヲ供養ンヨリ、独ノ佛ヲ供養ン」ニハシカシ、千億ノ三世諸佛養ンヨリ、独ノ無心無念無住無修無證ノ者ヲ」不レ如レ供養ニハ、今所レ謂畢竟ハ、一念不生ノ人也、然者則、李長者、金剛經ノ」三世不可得ノ心ヲ覚リシカハ、天人供養ヲ送リ、須菩提ハ、無念シテ坐禅セシカハ、帝釈」来テ、花散ス、仰山禅師ハ、無念ニシテ坐セシカハ、羅漢来テ、常ニ法ヲ聞ク也、其外カヽル倒（例カ）」證数ヲ不レ知、無心無念ナル人ヲ、梵天帝釈天王モ、十方聖衆、此人ヲ供養シ玉ウ、」願ハ学道ノ人、無念無心無修無證ニシテ、一念不生ナラハ、

従レリハ養、獨ノ五戒ノ者ヲ不シ如レ養ニハ、万人ノ五戒ノ者ヲ従レリハ養、」須陀洹ヲ不シ如レ養、十万人ノ須陀洹ヲ従レリハ養、獨ノ斯陀含ヲ」不シ如レ養、千万人ノ斯陀含ヲ従レリハ養、獨ノ阿那含ヲ不レ如レ養、」百万人ノ阿那含ヲ従レリハ養、獨ノ阿羅漢ヲ不シ如レ養、一億ノ阿」羅漢ヲ従レリハ養、獨ノ辟支佛ヲ不シ如レ養、十億ノ辟支佛」ヲ従レリハ養、獨ノ佛ヲ不シ如レ養、百億ノ三世ノ佛ヲ従レリ」養、无心无住」（19オ）无教无證ノ者ヲ不シ如レ養、所レ謂今云処ノ无念ヲ一念不生ノ人」也、然ハ則、李長者、金剛經ノ三世不可得ノ心ヲ悟テ、无念ヲ」悟リシカハ、天人食ヲ」送リ、須菩提、无念ニシテ坐センカハ、帝釋来テ、花ヲ散ス」仰山禅師、无念ニシテ坐セシカハ、羅漢来テ、常ニ法問ス、其外数ヲ不」レ知、然ハ則、无念ノ人ヲハ、梵天・帝釈、四天王ヲ始テ、〇此人ヲ供」養シ給ヘリ、願クハ学道ノ人、无念无心无執無證ニシテ、一念モ不レ生、是」則浄妙法身ト名ク、十方ノ聖衆モ、此人ヲ圍遶渇仰シ、三世ノ」諸佛モ擬議ヲ不レ容レ云云、是猶不審ナラハ、可レ見、水清シテ」浪無シハ、月輪移テ光赫々タル事ヲ、

ラハ、見ヨ、水ハ」澄テ浪ナシ、月輪赫赤（赫カ）タルコトヲ」

教内　十四

教内ハ、真言ニハ、六大悉ク法身ナレハ、三千々々ニッアラス、三」（第80折）則大日也、四曼皆眞言ナレハ、百法々々ニアラス、百法則覚」王也、心王則大日也、躰トシテ、諸法、真言トシテ、法界ヲ浄土トス」天台ニハ、三諦相即ノ月輪ハ、六即經行ノ臺ニ明ニ、十界ノ牙」具宝珠ハ、大圓教ノ室ニ明也、一心三観ヲ修シテ、即心成佛也」三諦ハ空假中ノ三諦也、三諦則一念三千也、三観トハ、心性」（第81折）ノ因縁ニヨツテ生スルヲ有ト説キ、心性ノ縁ニヨツテ滅尽スルヲ」空ト説キ、心性ノ縁ニヨツテ生滅スレトモ、心性心躰ノ常住不」変ヲナスヲヌ、中道ト名ク、又空假中ノ三諦ニ形像ナキヲ、一心」三観ト名ク、華厳ニハ、三界唯一心、心外无別法、心仏及衆」生、是三无差別也、三界ハ是一心也、心ノ外ニ法ナシ、仏ト心ト及」（第82折）衆生ト、此ノ三浄妙法身ノ如来ト名ク也」疑ヲ容レサレ、猶不審ラハ、見ヘシ、水清浪ナケレハ、月輪移テ光明赫々タル事ヲ」

○教内ト者、真言ニハ、六大悉ク法身ナレハ、三千三□□非ス　三千則大日也、此時」（12オ）「　」真言ナレハ、百法々々ニ非ス、百法則覚王也、心王則大日ヲ体トシ、諸法ヲ真言」トシ、法界ヲ浄土トス、天台ニハ、三諦相即ノ月輪ハ、六即經行ノ処ホカラカ也、十方」牙具宝珠ハ、一大圓教ノ室ニ（ムロ）鮮（アサヤカ）也、一心三観ヲ修シテ、即身成仏ヲ期ス、三諦トハ」空假中ノ三諦也、即一念也、一念即三千也、三観トハ、心性ノ因縁ニ依テ生スルヲ有」ト説キ、心性ノ因縁ニ依テ滅スルヲ空ト説、心相ノ縁ニ依テ生滅スレ共、心性心体、常住」不変ナルヲ、名テ中道トナス、又空假中ノ三諦ニ形像ナシト観スルヲ、一心三観ト名ク」●華厳宗ニハ、三界唯一心、々外無別法、心仏及衆生、是三無差別ト観ズ」●三論宗ニハ、三轉法輪ノ恵風ハ、尽浄虚融

△教内（19ウ）

教内ハ、真言ニハ、六大悉ク法身ナレハ、三千三千ニ非ス　三千即大日也」四曼皆真ナレハ、百法ニ非ス　百法即チ覚王也、即チ大日ヲ為レス体ト」諸法ヲ真言トシテ法界ヲ為ニス浄土ト、天台宗ハ、三諦相續ノ月」輪ハ、六即戒行ノ臺ナニ朗カニ、十界牙具ノ寶珠ハ、一大圓」教ノ室ロニ鮮（アサヤカ）ニ、一心三観ヲ修シテ、即心成佛ヲ期スト、三諦トハ空」假中ノ三諦也、則一念三千也、三観トハ、心性ノ因縁ニ依テ」生スルヲ有ト説テ、心性ノ縁ニ依テ滅スルヲ空ト説々、心相縁ニ依テ生滅スレトモ」心性心体ナレハ常住不変ナルヲ、中道ト名ク、又空假中ノ三諦ニ」形像無シト観スルヲ、一心三観ト名ク、花厳宗ニハ、三界唯一心、々外无別法、心仏及衆生、是三无差別ト云、三界ハ只」（20オ）是一心也、心外ニ別ニ法無ク、佛ト心ト及ヒ「※脱有ルカ」仰ニ相諸證ノ覚」月ハ、畢竟皆空ノ天ニ輝ク、其レハ畢竟皆空ヲ為レス心ト、法」

ハ差別ナシト観スル也、三論宗ニハ、三轉法輪ノ惠」風、盡淨虚融ノソラニ明ニ、相諸證ノ覚月、畢竟皆空ノ」天ニカヽヤキ、是ハ畢竟皆空ヲ心トスル也、又法相宗ニハ、万法」明乃観文空月ハ、八識羅邪ノユカニ明カ也、五諦各別ノ唯」識ヲム子トス、万法空観ヲ住シテ、唯識以テ心トス、変化所生、化他」（第83折）他ノ起性、圓成ノ實性、コノ三性ヲ得トス、悉是ハ万法蔵也、各」別ノ義ナシ、故ニ諸仏ノ法モ又无心ナリ、衆生ノ心モ无心ナル故ニ、戒」ニモ又无心ナリ、衆生ノ心モ又无尽也トイヱトモ、心意識ノ三ヲハナレハ、」仏法无尽ナリ難（難カ）、戒定惠ノ三学ヲサタス、是ヲ教内トス、」（第84折）

教外　十五

教外ト云ハ、不立文字ノ宗也、謂ル禅宗也、師モナク、示スヘキ教モ」ナシ、教ヘキ事モナシ、只自ラ独覚ル法ナリ、心ハ玲々トシテ一物モナシ、」時ニ煩悩モナシ、菩提モナシ、生モナシ、涅槃モナシ、迷ヲモイトワス、涅槃」ヲモシラセス、本ヨリ涅槃ナシ、只一念不生ノ空ニアヲキ、二相諸證ノ覚月ワ、」畢竟皆空ノ天ニカヽヤク、是ハ皆畢竟皆空ヲ心トス也、法相宗ニハ、唯万法ハ明色ノ観文、空月ハ、八識羅那ノ床ニ朗（ホカラカ）也、五諦各別ノ唯識観ヲ宗トス、万法皆空観ニ住シテ、唯識ヲ以心トス、変化ノ所生ハ、佗ニ依テ起、性ハ、圓成實ノ性也、此ハ三性ヲ得ル、都テ」悉（クワシク）云ヘハ、是八万法蔵也、各別之義ナシ、故ニ諸仏ノ法モ亦無心ナレハ、我モ亦無心也、衆生ノ」（12ウ）心モ又無心也トイヱトモ、心意識ノ三ヲ不出、仏法雖ニ無尽ト一、戒定惠ノ三ヲ不レ出、」是ヲ教内ト云也、」

○教外

●教外者、不立文字ヲ宗トスル也、師モナク、示スヘ」キ法モナク、示スヘキ機モナク、教ヘキリモナシ、唯独自悟ル法也、心ハ玲々トシテ一物ナキ」時、煩悩モナク、菩提モナシ、生死モナク、涅槃モナシ、迷モナク悟モナシ、悟ヲモ」不レ願、迷ヲモ相宗ニハ、萬法明色、観文ノ空月ハ、八識羅耶ノ床ニ朗ラカ」也、五諦（姓カ）各別ノ唯識観ヲ為レ宗ト、萬法皆空ノ観ニ住シテ、」唯識ヲ以テ為レ心ト、変化所執、依起（他脱カ）性、圓成實性、此ノ」三性ヲ為レ有ト、都テ悉ク是ハ萬法蔵也、各別ノ義无シ、」故ニ諸佛モ亦无盡也、衆生ノ心モ无盡成カ故ニ、戒モ亦」无心也、衆生ノ心モ亦无心也ト雖トモ、心意識ノ三ツヲ不出、佛性無心也ト雖トモ、戒定惠ノ三学ヲ不出、是ヲ為ス二教内ト一、」

△教外（20ウ）

教外ハ、不立文字ノ宗也、所レ謂禅宗也、師モ無ク、可レ得機モ」無ク、可教物モ無ク、只自ラ獨覚ル法也、心玲々トシテ一物モ無ク、煩悩モ」无ク、菩提モ无ク、死モ无ク、涅槃モ无ク、悟モ无ク、迷ヲモ不レ厭（イトハ）、自レ本」生死无シ、涅槃ヲモ不レ證セ、自レ本涅槃无シ、只一念不生ノ処ニ」

処ニ打向ヘ、自己ノ本分ヲ」（第85折）ヒラク、是禅宗ノ大モウ也、禅ト云ハ、仏心也、禅ト云モ教ト云カリノ」名ナリ、仏ト衆生ト、煩悩ト菩提ト、生死ト涅槃ト云モ、皆カリノ」名ナリ、実ニ有ル処ナキ故ニ、金剛経ニ曰ク、我レ法アツテ説ト云ハ、是仏」ヲ謗シ、僧ヲ謗スル者也ト云、又古人云、若人仏前ニ文字語言」アリト云ハ、仏ヲ謗シ法ヲ謗シ僧ヲ謗スル人也、此故ニ祖師ノ、不」（第86折）立文字、教外別傳、直指人心、見性成佛ト云ヘ、全ク文字」言語ヲタテス、直ニ人ノ心ヲサシテ立処ニ成佛セシム、又曰、三界」ニ法ナシ、心何処ニカアル、四躰本空ナリ、如来何レニカ坐スト云々」筆ヲハナレテ文字ナシ、口ヲハナレテ言ナシ、眼ヲミヨ、ミス、舌口ヲサラス、」墨ハクロク、紙ハ白、誰カ不レ見、是ヲ教外別傳ト云々、可秘々々」（第87折）

不レ厭ワ、仏ヲモ不求、煩悩モ不レ断、本ヨリ煩悩ナケレハ、菩提」ヲモ不求、菩提無レハ、生死モ不レ厭、本ヨリ生死無レハ、涅槃ヲモ不求、本ヨリ」涅槃ナケレハ、唯一念不生ノ処ニ指向テ、自己本分ヲ打開ク、此ハ禅ノ大網(綱)也」禅宗ト者、所レ謂ル佛心也、禅ト云モ、教ト云モ、假名也、佛ト云、衆生ト云、生死ト云」涅槃ト云モ、皆假名相也、實アル処無シ、故ニ金剛経ニ云、我ニ法有ヲ説ト云ワ、是」仏ヲソシリ、僧ヲ謗レ者也、又古人云、若人佛前ニ文字言句有ト云ハ、佛謗シ僧」ヲ謗ル人也、是故ニ祖師、不立文字、教外別傳、直指人心、見性成仏ト云テ、「　」字言句語(ヒ)ヲ不レ立、直ニ人ノ心体ヲ指テ立処ニ成仏セシム、又云、三界ニ法」（13オ）「　」処カ心有ン、四大本ヨリ空也、如来何処(衍カ)ニカ有ト云云、書了筆ニ文字ナシ、」ナシ、言ヲ離レハ、口ニ語ナシ、眼ヲ見ハ、眼ニミス、舌頭口ヲ不レ出、墨ハクロク、紙ハ白シ、」誰カ看サランヤ、是教外別傳也、　假名見性終、」

指向ヘ、自己ノ本分ヲ打開ク、是禅宗ノ大網也、禅ハ、所レ謂」佛心也、禅ト云モ教ト云モ、假ノ名也、佛ト衆生ト、煩悩ト菩提ト、」生死ト涅槃ト云モ、皆假相也、宗有ル処無シ。金剛経ニ云ク」我ニ法有ヲ説ト云ハ、是佛ヲ謗シ、僧ヲ謗スル者也ト云、又古人云、」若人佛前ニ文字語言有ト云ハ、佛ヲ謗シ法ヲ謗シ僧ヲ謗スル」人也、此故ニ祖師ハ不立文字、教外別傳、直指人心」（21オ）見性成佛ト云テ、全ク文字言語ヲ不シテ(セレ)立、直ニ人ノ心体ヲ指テ、忽ニ」立処ニ成佛令(セシ)ム、又云、三界ニ法無シ、心何処ニカ有四大、本空也、」如来何処ニカイマスト云云、書キ畢(ヲワンヌ)レハ文字無シ、是レ事畢ヌレハ、口ニ詞ハ」無シ、眼眼ヲ不見、舌ハ口ヲ不去、墨ハ黒ク、紙ハ白シ、誰カ不(サラ)レ見、是ヲ」教外別傳ト云云、」

自見集　全

主春青（第88折）

（白紙）（第89折）

○洞門之児孫、此ノ書ヲ守、宗トスヘシ、然則、書中ニタツサワル事ナカレト云也、」能物ヲ見時、其見又見ニアラス、敢見着スル事ナカレ云々、道元誌焉、」

寛永四暦霜月二日

播州於本徳寺書之畢。［墨印一顆］（21ウ）

寛永禄五年壬戌五月上旬日　圓應隠老真如子為子孫書也、

前総持妙音三世天叢付与勝鈍了、□以」

圓應丈室置焉（朱印一顆）」

寛元和五己未年黄梅吉日」

史料（一）【叡山文庫所蔵『獨達密参』】

［原表紙］
「獨達密参」（打ち付け）
「見返」タヾアリ

即心ノ人ヲ見ルコソ佛ナレ仏ヲ見レバ即心ノ人

禅宗ノニゴリノ付羊バ
［十］ナゼナレバ、［十］ヒツケウ
〜（鼻）アウン（見返し）

(1)

山門塔南谷　淨教房　真如蔵　三百十一　以

●洞山無寒暑
師云、無寒暑ノ処ヲ。学挙ノ云ク、白骨野邊ニサラシタ迄テ走。△心得ハ、肉ト云ワ、悟リ田(名)ゾ。呈ニ、肉在ラバ、寒ニ苦ルシミ、暑ニクルシンダ「ダゾ。只タ白骨ニ打ヲ成テ、一点ノ肉ノナイ時ハ、寒暑ヲハナレ田ゾ。其ノ境界ヲコソ、無寒暑トワ云タレ。（1オ）又師云、着語ヲ。代、面吹不レ寒カラ楊柳ノ風。△心ワ、面ノ六門ガタツタ一ツニアキトヲツタ時、卒度モ隔ヲナイゾ。時コソ、寒暑ヲバシラヌ「タゾ。此ノ肌ヲ無寒暑ノ処トモ云タゾ。畢竟功ヲツキ派也。功ト云ワ、寒暑ノ間タヨ。無功ノ時キガ、無寒暑也。（1ウ）●此古則ニ雑談有リ。一州サマ〳〵、此古則ニツマツテ、趙(上)州ヱ御越ナサルヽトキ、赤来ノフモトニ白ラ頭ヘノ有ルガ、眼耳鼻ガ、タツタ一ツニアキトヲツテ、風モタマラヌヲ見テ、悟リ被レ成ルヽ也。呈ニ、此古則ニ尋常ノ心得有リ。大抎々々。是ワ、一州派ノ秘参也。（2オ）

(2)

●玄沙地獄ヲ。代、我胸ヲ指ノ、爰ガ地獄テ走。師云、何ント代、善悪ノ沙汰ヲノ走。師云、破リ様ヲ。代、胸ヲ丁ド打テ、ホカト一喝ル。師云、畢竟ヲ。代、元ト是謝三郎。心ワ、是ダゾ、非田(名)ゾ、會ダゾト、サタスルガ、地獄ナリ。地獄ト云テ、遠クワ見マイゾ。我ガ（2ウ）胸ノ間タニ皈シタソ。呈ニ、ホカト一喝シタワ、マトワル是非ヲ喝シテノケタゾ。処ワ、元ト是謝三良(郎)、元トノ栖(スミ)家デ居タソ。是ワ一度ヒ切レ目ガ在ッテ、生身トスワツタゾ。大抎ノ心得也。

(3)

●即心即佛。代、長老ノ前ニ行イテ、坐禅ヲシテ、眼ラ半分開イテ、口ヲアケテ、トツクト（3オ）イル也。是ワ只今生レタ子ノ如ク也。爰ニ何ニ心ガナキナリ。其證拠ニ句ヲ。代、老蚌含ム明珠ヲ。▲心ワ、大海ニ風吹ズ波モタヽヌ処ニ、ハマクリガ口ヲ開イテ居ル也。明珠ヲ含ムトワ、月ノ光リガサス也。ト云心ワ、トツ

クト坐ノ口ヲ開テイタトキ、何ニ心モナキナリ。月珠トマ、此本心ガ現シタゾ。末コ、ガ、即（3ウ）心即佛也。ナミ風トワ、ヨク念志念也。畢竟何心モ胸ニ出ス処ガ肝要也。能々工夫可ニ坐禅一。●又即心即佛ヲ。代ニ、鐘ヲ聞テ声ヲ不レ分、花ヲ見テ色ヲ分ヌデ走。師云、句ヲ。前念不生即心、後念不滅即仏。是レモ前ノ古則ト心得一ッ也。（4オ）

(4)

飯銭之参。天嶺和尚ノ云々、先ッ當則ヾ、扣キ様ガ大事デヲ署ル。一千七百則ノ内デモサシ出シテ、此話頭マ、後世ノ大事デヲ署ル。他山デワ、何ント在ルヤ。快庵派デワ、向デヲ署ル。先ッ扣キ羊ワ、闍羅ガ鉄棒ヲ以テ頭上ニサシ上ゲテ、已レガ娑婆デ五味ヲ受テ（4ウ）食シタ物マ、今マ皈セ〳〵ト逼セメ掛ケル也。呈ニ、一粒ノ米ノ喫シ難タイ、又タ一滴ノ水モ消ジ難イガル。皈ェ皈サズンバ、頭上ヲ微塵ニ打砕イテクレウズト、鉄棒ヲ以テセムル也。●師云、先ッ五味ノ皈シ羊ヲ云テ見サシマイ。学云ク、一息截断ノ當頭デ、尽ク〳〵皈シテ走。△心マ、何ント（5オ）皈ェシタゾ。ナレバ、地水火風空ト皈シテ走ルゾ。人ノ五躰マ、地水火風空ノ五ッガマルマツテ、人間ト成也。死スル時、夫レヲ一々ニ皈シヲワル処デ無形無相ニ成ル也。呈ニ、形ワミヱ走ヌゾ。卒都婆ナドニモ、先ッ頭ヲニ此ノ五躰ヲ表ノ、空風火水地ト始メ筆ニ書スル者也。〇師云、マダモ闍羅ガ鉄棒ヲ捨ヌゾ。捨ッル（5ウ）羊ニ云テ見サシ。学云、二天鬼神咒主、マヅ皈ェセト挙ス也。向云ワレテ、闍羅ガ鉄棒ヲガラリト捨ル也。爰ニ雑談ヲ引也。霊山ノ麓ニ鬼子母ト云鬼有リ、子ヲ二千人持ッ也。去間、人子ヲ二千人ッ、取リテ、已ガ子ニ食スルナリ。是ヲ世尊ノゴ覧ジテ、衆生ヲ助ケンガ為ニ、方便ヲ廻ラシ（6オ）テ、其ノ子ニ三才ニナルヲ取テ蔵ノゴザアルトキ、鬼子母マ、是ヲ悲マ、上ワ有頂天、下ワ金輪水際ニ至ル迄マ、尋ヌレトモ更ニナシ。鬼子母、世尊ノ御前ニ参、タツ子申ス也。世尊ノ云々、已ガ二千人子ノ内ヲ独リ見ヌヲダニ嗟クニ、今日ヨリシテ、人間ヲ取ルマイナラバ、已ガ子ヲ可レ出ス被レ仰也。鬼子母答（6ウ）云、中々取リ申マイ、別ニ食物ヲ与ェタマヘト申ス。世尊云々、扨テワ、ヲノレニワ、我ガ會下ノ八万ノ大衆ノ茶飯ヲ与ェヘシ、トヲヽセラルヽ也。夫レナラバ、取リ申マイト云テ、其ノ時ノ起請文ニ、嗢急如律令ト血脈ヲスル也。呈ニ、夫レヨリ此方、時ニ生飯ヲ取リテ、二天鬼神咒ト云鬼ニムケテ食スル也。呈ニ、挙（7オ）派モ主モ先ッ皈ェセト云マ、八万人ノ大衆ノ生飯ヲ受ケテ、其ノ五味ヲ皈ェセト云心也。此ノ話頭ヲバ、ドノ門戸デモ如レ是心得ベシ。快庵派天嶺和尚ノ御扣キ也。

(5)

迦葉ノ刹竿。師云、金襴ノ衣ノ頂戴シ羊ヲ。△嫌道マ、何ント云モ、皆ナタチ目縫目ニ（7ウ）成ルゾ。其レワ一度ビ尽テ行クゾ。此ノ金襴ノ衣ト云マ、火ニ入テモ焼ズ、万刼ヲヘテモ尽ヌ一衣タト、此ヨリ外ニワ尽ヌ者ワ別ニワ無イゾ。金波羅花ト云モ、此ノ一衣ノ事也。此ノ一衣ヲ拈ジ、迦葉ニ示ノ御座在ル七仏已前ヨリ、此ノ衣取

リ傳ヘテ断絶無イゾ。扨亦、是ダヨト取リテ出セバ、布七條ニ成ルゾ。百千歴（レキ）（8オ）歴祖トモニ私シ物ノニセヌ一衣也。代云、空位ヲ指ノ心（スミカシ）ト挙ス也。師云、其レヲ五人ノ胎ニ披在シ羊ヲ。代云、袈裟ヲ引キ回ノ掛クル模様ヲ成ス也。師云、阿難ト召セバ、應諾クヲ。云、其レワ皆ナ常ノ性名ニ成ルゾ。変易スルゾ。扨テ、爰ノ喚應諾クワ、万刧不レ変理ニ叶タゾ。迦葉モ只タ不レ覚喚ダゾ。（8ウ）阿難モ不レ覚應シタゾ。代云、ヨツ。師云、句ヲ。代、雲ノ無ニ嶺（レイ）上生ル、有レ月波心落ル。二老ノ処ニ一点ノ曇リガナイニ依テ、碧天ノ撓子モ波心ニヨウ落チタゾ。阿難ワ、迦葉ノ心ニ叶イ、迦葉ワ阿難ノ心ニ叶タゾ。ドコニ續メガ見得タゾ。只タ以心傳心迄ヨ。畢竟ノ落居ワ、学ク行テ皈ル也。（9オ）爰ワ、即今無事也。平人ニ落居ノ相續也。卒度モ叀ガ出ヌ┐也。時ガ、正法眼具足ナリ。悪クスレバ、眼ニスヂガ出スルゾ。微笑ノ処デ、世尊ノ処ニ迦葉ワ叶テ御（座カ）――アル。阿難ト云処ロデ、ヨツト迦葉ノ心ニ叶タゾ。向コウ（ママ）付属シタレ。向フ附属シタ時、ツキ目ワ見得ヌ┐ナ呈ニ、當則ヲ取名古則ト當（9ウ）門戸テ云イ走ゾ。是ワ、希明派本目録也。

(6)

●珠数之参。師云、珠数ノ定ヲ。代云、一圓相ヲナス。師云、夫ノ心ヲ云エ。心ヲ指テ走。師云、圓柳ノ三窮ヲ。代云、三世ノ諸仏モ爰ヨリ出デ、歴代ノ祖師モ爰ヨリ顕テ走。

(7)

●紅葉之参。風定テ花猶ヲ落ツ、鳥啼テ山更ニ幽（カスカ）ナリ。（10オ）師云、風定リ羊ヲ。学云、一息截断デ走。師云、花ノ落チ羊ヲ云エ。学云、皮肉ヲ野原ニ引キ散ラシテ走。師云、鳥啼羊ヲ。学云、犬ト鳥ノ争ソイデ走。師云、山更幽ナヲ云エ。学云、白骨連（ツラナ）レル山ニ。△心ハ、地水火風空ガ、五躰五形ナリ。先ツ母ノ胎内ニ一寸四方ノ（10ウ）池有リ、其ノ内ニ清浄水ト云テ、一滴水在リ。陰陽和合ノ徑（タヾ）チ、陽水陰水ガ、其ノ池ノ内ニ籠テ有レトモ、一七日ノ間ワ、陰水ワ々々、陽水ワ々々、卒度モ混ダクセヌ也。二七日メニワ、ドロリツト一ツニトロケ合也。三七日メニ、グル〳〵ト成ル也。爰ヲ阿部頓伽羅藍ト云也。四七日メニ、六窓ヲ卒度モヨウスル也。五七日メニ、（11オ）六窓ガキラリツトスルナリ。六窓トワ、眼耳（舌身カ）○意ノ┐ナリ。六七日メニ、衣祁（ナ）袋ヲカムツテ、母ノ千房（フサ）ヲ含ンデ居ル也。七日（々脱カ）目ニ皮肉相應ヾ、夫レヨリ十月ト云ニ生ルヽナリ。先ツ五形ト云ワ、地ト空ガ体トナリ。風ガ出息入息ト成、火ガ皮肉ノアタ々マリト成、水ガ目シル、鼻シルトナリ、是ヲ一息截断ノ処デ、水ヲバ水ニカヱシ、火ヲバ火ニ皈シ、夫レ〳〵ニ皈シタ時、体ワナイゾ。処ガ、無形無相也。時閻羅ノ鉄棒ヲバ受ヌゾ。呈ニ、本来無一物ト云モ、亦本来無東西ト云モ、爰ノ┐ヨ。亦古謌ニモ、水ワ水火ワ火ニ皈シ地（ツチ）ワ地風ヲサマレバ我レハ其侭、ト云モ、夫レ〳〵ニ皈シタ時、棒ノ當ルベキ人相ガ有ラバコソ。亦（12オ）五輪ニ地水――空ヲ飜ノ空風――地トカクモ、此故也。秘参ナリ、〳〵。

(8)

●竜天之参。師云、何物ガ竜天ト成テ、佛法ヲ守護シタゾ。代云、真个修證ガ、護法神デ走。△心ワ、竜天ト云テ、別ニワ無イゾ。即今修證、正法ニ落著ガ佛法ノ守護神ダゾ。師云、承當ニ句ヲ。代云、我レ為テ二法王一ト（12オ）於レ法ニ自在ス。心ハ、即今修證ニ落著タ時キ、仏法ヲ自由自在ニ弄ジタゾ。是ワ、一州和尚之秘訣ノ参也。

(9)

●白山妙理大權現。師云、白山ヲ云テ見サシ。代云、母胎ヲ出ル（境カ）接イデ走。師云、妙理ヲ。代云、一向ニ分目ノ無イガ、妙理テ走。師云、大權現ヲ。代云、（13オ）却来シテ這裡ニ山居ス。△私云、白山ワ、誕生一色ト可心得一。妙理ワ、不点ノ黒物ト心得ベシ。大權現ヲ奥裡ヨリ、コナタ却来シタ処ガ、這裡ニ行李ダ。此ノ参ヲ問ワセテカラ、看經ヲ傳エサスルナリ。先ツ坐具ヲ展ベタワ、尽大地一坐具ダ。誕生一色、二ツ無イゾ。母胎ヲ出ル境イニ、眼ワ無イ呈ニ、合（13ウ）眼ダ。未開ノ卵モ合眼渕底ダ。妙理大權現ト、開眼八葉ノ卵ダ。看經ノ時モ坐徹ノ正當、コヽガ白山ダ。畢竟分別ヲ無ク、偏ニ念ジ申サデワ。此ノ時白山モ守護ナサレデワ。麟鈿ガ白山ダ、別見テワ千里万里ヨ。是盛安和尚ヨリ直傳ナリ、秘参妙ワ〈イトケナイウントヨムナリ、〉（14オ）

(10)

霊供之参。師云、先ツ霊供ノ々ジ羊ヲ。学ク、師ノ前ニ至テ、良久坐禅ス。師云、句ヲ。代云、滿瓶傾ケ不レ出、大地ニ無シ二飢人一。△私云、良久坐禅ノ正當、滿瓶傾ケヌゾ。餓鬼畜生修羅人天、皆同供養ダソ。嫌道ワ、挙シ挙著樣ヲナシ樣ヲナス間ダヲバ、眼供養ダソ。（14ウ）耳供養ダゾ。尽ク〳〵ク嫌ナリ。急度良久坐禅ノ時、四生六道畜凡聖諸仏共ニ、供養シタゾ。坐禅ノ末正當、竪ニ窮メ二三際一ヲ、横ニ亘ツ二十方一ニタゾ。上ニ置ヲク揣食ト云、揣ハミギルトヨンタ。六根混融ノ処也。師云、受ケ羊ヲ。代云、如前ノ挙ス也。師云、句ヲ。自心他心体无二。（15オ）△私云、佛与レ我レ一枚ニナラスンバ、受ケラレヌ叓ダゾ。挙著ノ正當、自他平等利益ダゾ。平生ノ礼拜ノ焼香モ此ノ旨デスル物デ走ゾ。是ワ自超和尚之御扣キ秘参也。

(11)

○宗門舟ノ参。師云、舟ノ定メヲ。学云、五尺ノ入道ガ舟デ走。師云、舟ニ積物ヲ。覚云、眼――意デ走。後ニ師云、本源ノ皈シ羊ヲ。代云、一息截断ノ時皈シテ走。師云、舟ノツナギ羊ヲ。覚云、出息入息デ、ツナギテ走。師云、棄タル人ワ誰ソテ走。△心得ハ、宗門デ、此ノ一舟ト云ガ、大叓デ走ゾ。會下僧タラウズ物ワ、一度此ノ舩ニ叶ワデワ、是ヲ云ワズンバ、後生ワ大叓デ走。人間ワ、此世ニ生レテ地――空ヲ借テ（16オ）五躰ヲウクルガ、舟ノカザリ羊ダゾ。此ノ舩ニ積物ト云ワ、眼――意ト六識ヲ賃田ゾ。此ノフ子ノツナギ羊ト云ワ、出息入息ヲ以テ命ヲツナ

ギヲイタゾ。有ルガ、一息截断ノ端的ニ、此舟ヲバ打破（ヤフツ）テノケ田ゾ。時土ワ土ニ皈シ、夫レ〳〵ニ皈シタ時、何テモ跡ニワ殘ラヌゾ。向ウ夫レ〳〵ニ皈シタ時、閻（16ウ）羅モ鉄棒ヲ放下ヨ。何ンモ（テカ）モアレ、体ガツレアツテ社ソ。如是會下僧ワ、修行ヲシテコソ。閻羅テンケンヲバ、遁（ハヅ）レウスレ。サテコソ、生（ナマ）修行ナニ依ツテ、苦ヲ受ゾ。ナウ、人々心得肝要タゾ。

(12)

●七堂参禅并切紙、師云、方丈ヲ云ヱ。代、大極已前ガ方丈テ走。師云、大（17オ）極已前ニ此話無シト云タガ、ナンテ方丈デワ在ソ。代曰、此ノ話ノ無イ処ガ、主人ノ住家テ走。師云、句ヲ。明ニ無レク明暗ニ無シ暗。師云、庫（ク）（庫カ）裡ヲ。代ニ、嗞（シイ）味ヲ付クルガ、庫裡テ走。代曰、良久ス。師云、嗞味ノツケ用ヲ。代曰ク、早朝喫粥、後（17ウ）時喫飯。師云、嗞味ヲ付ヌ処ヲ。代ニ、飯裡ニ砂ヲ咬（コウ）著ス。師云、咬著ノ正當如何。代ニ、無シ他事一。師云ク、僧堂ヲ。代、良久ス。師云、其レハ何ンテ。僧堂テワ在ソ。代曰、空々寂々トメ那邊ノ叀ヲ明ラメ得テ走。師云、其ワ何テ。代、佛祖截断デ走。師云、佛殿ヲ。代、立（リツ）（18オ）身叉手（シヤシユ）ス。師云、其カ何テ佛殿テワ在ルゾ。代ニ、我ガ旨ヲ打テ末（マツコ）爰ガ佛殿デ走。師云、抆（ココ）个ノ佛殿ナガ、何テ去（キヨ）来ワ在ルゾ。代、本ト空佛ト見レハ去来メ去来ノサタワ走ヌ。師云、如何是空佛。代ニ、大通智勝佛デ走。師云、風呂ヲ。代ニ、心ンヲ清ヨメルガ、風呂デ走。師云、清メ羊ヲ。代ニ、一（18ウ）千七百則ヲアライ尽シタ処カ、清メ用テ走。師云、浄頭ヲ。代ニ云、出世邊ガ浄頭テ走。師云、夫レガ何テ浄頭テワ在ルメ。代ニ云、出世シ下タレバ、今時ノ路デ走。師云、門ヲ。代、荘コンスルガ門テ走。師云、其證拠ヲ。代、直ニ面テヲアラワシタテモ無ク、亦アラワサヌデモ走ス。（19オ）師云、スデニ是ワ、為大圓覚以我伽藍トシタガ、何テ七堂トワ成タソ。代ニ、一中一切中〇（一中）。師云、如何是伽藍中ノ主。代、兩手辰（テン）開ス。師云、畢竟如何。代、伊（カレ）ハ是レ無形、喚（ヨ）レフ伊（カレ）ヲ有リ声（テン）ス。畢竟心得肝要也。胸旨ニ忘相ノ出ヌ肌ヱ活伽藍也。（19オ）

［※図在リ。］

七堂順堂ノ之圖　心〇三界唯一心トスル也。唯一心ト見タ時、邪广外道ノ面テヲ出タサウスキガ無イゾ、大叀〳〵、可秘々々（20オ）（20ウ）

(13)

●趙州独達一路　先ツ独脱ノ一路ヲ云ヱ。学、挙ス、生レタ時ノ路ヲ。死スル時モ皈ツテ走。師云、句ヲ云ヱ。代ニ、臨終ニ無ニ別路一。△心ワ、ドノボウ人モ聖人モ、此ノ路ヲバノガレヌゾ。呈ニ、独達ノ一路ト云ワ、平生ノ智音タト云テモ、ツレテモ行カヌ路ダ。呈ニ、無二亦無三、只タ一路マデヨ。向見レハ生ニ在ル死、々ニ在ル生タゾ。心ロデ（21オ）見ヌ一ダ。畢竟我ニ在ル心得タ。爰ニ雜

談ガ在ルヲ引ク也。皆川ノ新衛門、病中死ニ臨ンデ、竜州和尚ニ参ンメ云ク、某甲ワ今日カ明日カ内ニ死ニ申走ゾ。呈ニ、末ニ(スヘ)謌ヲ着語メ置キ申走ゾ、ト云テヨム。其歌ニ云、独リ来テ独リ皈リシ路ナルヲ道ヲモヱント云ゾハカナシ。竜刀刀ノ御辺謌ニ云、独リ来テ独リ皈ヱルト思フナヨ行ジ（21ウ）去ラズノ路ヲヲシヱン、ト被成タ。爰ヲ、新衛門ワ、ナント心得タガ、其ノ侭死シタ。是ラガ、爰ニ来タ事デワ走ヌガ、宗旨テモ能クサヱ修行スレバ、水ニ入テモ火ニ入テモ、卒度モヲボレヌゾ。修行ノカイナイ者ノガマドイ回ルゾ。此旨ヲサヱヨク心得タ郎ニワ、生死ニクルシムト云理ワ在マイゾ。何ッ成モ死迄ヨ。能々（22オ）心得肝要ノ古則也。太源派之秘参也。

(14)

●道吾女人拜、師云、深々ノ処ヲ云ヱ。代、母ノ胎内デ走。△心ヱワ、道吾ノ御家デワ、爰ヲ、本位向上ト云也。師云、禅床ヲ下テ作シ女人拜ヲタ幾ヲ。代云、生下ノ端的テ走。△心得ワ、禅床ガ母ノ胎内ナリ。生シルガ禅床ノ（22ウ）下リ羊ナリ。爰ヲ正中来ト云タゾ。爰ハ如何モサタノナラン処也。師云、其コニ句ヲ。代、兩脚蹈レ天ヲ。△此ノ心ワ、キツクト生レ路(落)サマニ、天ヱ兩ノ足ガ成テ、サカシマニ落ルナリ。呈ニ、兩脚天ヲ蹈ムゾ。天ヲ路(蹈カ)ンタト見レバ、十分ニハアラワレヌゾ。亦タ、本位ノ風光ヲ帯ヒタゾ。頌デ聞ヱベシ。十出テ〈派ノ消息ト心得タゾ。是ワ一洲派ナリ。〉（23オ）

(15)

徳山未跨棒　△心得ワ、跨未跨ヲ行ジタ、徳山ノ処ガ無フテワ、今宵答話セジ。問答者ワ、三十棒ト云タ、威(イ)キガ、吾ガ宗ニ、語句無イ、見キツタキ田ゾ。時、問話ニ落ズ用ガ無イ、本ト一法ノ人ニ可レ与フ無シト云ワ、即心是仏ノスワリ派事ダ。爰ガ白棒デ、卒度モ仏祖知ノハ(ワ)ケメガ付ヌゾ。呈ニ、此白棒トワ、何ンゴトデ走。十徳山ノ本位ノ┐ヨ。此ノ僧ノツヽト出テヽ、礼拜ワ、問話ニ落ヌ処ヲコトワツタホトニ、徳山ノバサス、丁度打テヲツハナシタソ。処ヲ、某甲話亦タ問ワヌニ、何ントシテ、便チ打ツト云タワ、ドコマデモ打頭ノ足シ土ヲ回(マワ)サヌ処ヲモ、你シハ是レ甚广(慶)ノ処ノ人ゾト、ヲツタメテ、足土(アシト)ヲ問フタゾ。在レバ（24オ）亦タ新羅人(シンラジン)トツイタ。卒度モ水ヅブレヌ処ヲコトワツタゾ。爰ガ不會白ク色キノ肌ヱタゾ。処ヲモ、舩舷ニ不レ跨ラモ、好与三十棒ト打タゾ。此棒ワ舩舷已前ニ打タゾ。ト云ワ、新羅(シン)国ヲモ打ヌイ田ゾ。此棒下ヲ清イ平イ世界ト云タゾ。未跨ガ清イ平イ世界也。ホドニ、三十棒ト云ガ、清イ平イノタモチヤウ也。（24ウ）ト云ワ、根本ノ保チ用田ゾ。此根本白棒トワ、無極・大極已前妙ノ立(リツ)処ノ叓也。●此圖ヲ無極ト云イ、未跨答話セヌ已前ト云タゾ。在ルガ、三十棒ト行スル処ガ、看看(ヒミ)ヱタ。大極ニ飜ヒルカヘシタ棒田ゾ。有ルガ、其侭白棒ト看ヨ。無極ニ打ツケテヲイ田ゾ。大極トワ、○此圖也。ホドニ、無極ノ一処ガ大（25オ）極トハジマリ、一易(ヤウ)・二儀・四像・八卦ト始リ田ゾト云ソ。

コノクロキ処ガ、柳ｷ櫻ラ松楓ﾄ成ﾘ出ﾀｿﾞ。一易ノヤウノ字ﾍﾞ、日月ﾉ二字也。日輪ﾄ成ﾀﾓ、月輪ﾄ成ｯﾀﾓ、何者タゾ。此無極妙ﾉ一字ｶﾞ分身シタゾト云ワ、此ﾉ白棒ﾉ┐ヨ。呈ﾆ、爰ヲ能ｸ心得ﾃ挙ｽ也。師云、棒ﾉ受用ｶﾞ無ﾃﾏ、呈ﾆ、受用ﾗ。代、一氣不ﾆﾙ者ﾉ（25ウ）道ﾄ含ﾑ有像ｰ。△心ｪﾜ未跨ﾉ棒ﾄ於ｨﾀﾜ、新羅人ﾄ云処ﾏ、未ﾀ舩ﾝ觧ﾝﾆ不ﾚ跨ﾗ、好与三十棒ﾄ行ｼﾞタヨリナリ。呈ﾆ、未跨ﾄ云ﾊﾞ、生来セヌ已前ﾍ云タ。此ﾉ一位ヨリ尺迦出奥達広(廣)西来ﾄ見ﾃ出ﾙ也。キビシク丁ド打ﾃ未跨ﾉ俣ﾃヲキ、生来セヌイゼンデ於ｨタゾ。句ﾓ未跨ｶ不生ﾉ処ナリ。爰ヨリ（26オ）生来シタト看レバ、不生ｶ生ﾉ根本ナリ。亦法ﾄ云ﾏ、万法ﾉ┐ヨ。呈ﾆ、一氣モノイワヌ処ｶﾞ、不生未跨ナリ。有像ｦ含ﾄ云ﾏ、万法ｦ含ﾝﾀﾞゾ。亦ﾀ未跨トワ、本位大極ﾉ一位ﾌ┐田ゾ。爰ヨリヤナキ緑ﾘ花紅ﾄ跨ﾃ出田ゾ。呈ﾆ、徳山猛省(モウセイ)下ﾃ、本国ヲ出ヌ已前ﾆスワツタゾ。処ｶﾞ、即心是佛ﾃ走。爰マデワ、棒ﾓ（26ウ）アタツタガ、芦花裏ヌ、ナント棒ｶﾞアタツタ郎ス。洞斉(トウサイ)ﾆﾓﾛ芦花裏ﾉ修行ｶ在ﾙゾ。洞上ﾃﾜ理事黒白ﾄｶヌヘ尽ｼﾝ〳〵テ、到ﾃ一点マジリ物ﾉ無ｲ処ﾏ芦花裏一色ﾉ地ﾄ云タゾ。斉下ﾃﾏ、白色白直ﾉ肌ｴ産居シタヲ云タゾ。トク山ﾓ爰ﾆ立ﾃ吾俣ﾆ令ヲ行ｼﾀﾀﾞゾ。ホトニ、芦花白ﾗヱナガ、徳山ﾉ白棒ﾃ走ゾ。ナセ――（27オ）バ、一條ﾉ白棒、天地ﾆヒルカヱツタゾ。此棒ﾍﾞ、徳山ﾍﾞトク山ホドニアタリ、ロ花ﾍﾞ白シイト當ﾀｿﾞ。白棒ﾉ白ﾉ字ﾆフカク心得ｶ在ﾙゾ。ト云ワ、其俣ﾉ白ﾃニジミメノ無ｨｶﾞ、徳山ﾉ是仏ﾉ腹ﾜﾀ呈ﾆ、此修行ｶカンヤウ也。是ﾏ、廓保之和尚直参也。可秘々々。

(16)

●飯ﾉ皈ｼﾞ羊ﾂ。覚代、忽然ﾄﾉ（27ウ）坐ﾙ。師云、夫ﾜ何ﾝ┐ﾃ。佛心テン然ﾄ受ﾌ走。師云、ナン┐ﾃ佛心ﾃﾞﾜ走。代、四方ヲ見ﾃ唯此ﾉ虚空ﾆサワルコトナシ。師云、尚自在セヨ。覚代、竪ﾆサンサイヲキワメ横ﾆ十方ﾆワタル。

△五位ﾉ内参二色在ﾘ。

◓正中偏、代、金毛獅子ﾍ跳ﾃ入ﾆﾙ野狐窟ﾆ。亦、（28オ）金毛跳ﾃ入ﾆﾙ野狐窟ｰ。向ウモ在ﾘ。私云ﾍ、正中偏ﾖﾊﾞ理ヲ捨ﾃ夏ﾆ付ｸﾄ心得ﾃヨシ。代ﾓ、金毛ﾉ獅子ﾄ云ﾜ、正位ﾉ┐也。跳ﾃ野狐窟ﾆ入レバ、偏位ヱ出ﾙ也、十ウ(マヽ)却来也。向云ヨリ出派也。

◒偏中正。代云、截流香象窮(キワム)ﾆ原脉ｰヲ、私云、偏中正ﾖﾊﾞ、夏ヲ捨ﾃ理ﾆ入ﾙﾄ心得ﾃﾏ（28ウ）好ｼ派ﾃ入ﾙ方也。代ﾓ、截流ﾄ云ﾜ、衲僧一代ﾉ椀(腕カ)力ヲ出ｽサカイﾉ┐也、破ﾘ派也。入頭ﾉ向上ﾆ到ﾄ云ﾓ、爰ﾉ┐也。此ﾉ時ｷ無寒暑ヲ引也。無寒暑入頭向上ﾆ見ﾙ理ｶﾞ走ｿﾞ。扨ﾃ源流ヲ窮ﾄ云ガ、正位ﾆ付ｷ羊ﾂ。扨ﾃ、一句向上ﾆ至ﾘ羊ﾜ聞ｴ走ヌカ。

⊙正中来。代、獅子ﾉ遊（29オ）行ﾆ無ｼ伴侶ｰ。私云、正中来ﾏ、王法ﾃﾞﾜ當今也。宗旨ﾃﾞﾜ、主席也。代ﾓ、獅子ﾄ云ﾊﾞ主ﾉ┐也。伴侶ﾄ云ﾍﾞ、偏位ﾉ┐也。来ノ主ﾍﾞ、扁ﾆモ正ﾆモタヨラヌゾ。扨ﾃコソ、独ﾉ主ﾃﾞﾜアレ。是ヲ独尊無一ﾉ主ﾄﾓ云タ

ゾ。亦合(カナイ)二天理一ニ當二ル人心一ニ〔モ〕云テ走ゾ。

○兼中至、代、猛虎當テ（29ウ）レ途一ニ座ス。私云、兼中至ハ將軍ノ令ダゾ。此主ハ上ヲモ窺イ、下ヲモハゴクム主タゾ。代(カワリ)モ、比ノ主ヲ猛虎ニ此令ヲ走ゾ、何ナレバ、將軍ノ令ノツヽトツヨイ呈、百獣ガ面ヲ出シ走ヌゾ。余ニ當ルト云モ、將軍ハ半途ノ主ナ呈ニ、爰ヱ着語云テ走ソ。畢竟百獣ノ出ヌ時キ、爰ノ四海ハ安全ダゾ。（30オ）

●兼中到　代、掛レ角羚羊不レ見レ跡ヲ。亦、羚羊掛レ角ヲ不レ同レ功ヲ、亦、獅子返擲(ホンテキ)ヲ却テ就レ父、羚羊掛レ角不レ同レ功ヲ。着語ハ始也。

私云、兼中到ヲバ王法テワ折居(ヲリイ)ノ君ト云テ走。宗旨テワ、陰頓ノ主ト云タゾ。是ワ、出格自在デ、侭ノ主テ（30ウ）走ソ。代モ、羚羊掛レ角ト云ガ、到ノ一位ニ至リ羊ダ。跡ヲ不レ見ト云ワ、四位ノ功ヲ見ヌ〔ダゾ。ナウ格外ト心得ベシ。斉下テノ格外トワ別也。斉下デワ、魚肉ヲホフルガ、不知ノ修行中ノ〔ナリ。是レワ、洞上デワ半途ナリ。魚肉ヲホフルト云ハ、修行ノ間ノ事也。五位畢竟如何。一二三四五々――一。是ワ。連(ヤマ)（31オ）連室和尚ノ下語也。

〔墨ケシ〕

◯正中偏、圖ワ是也。此圓相ガ三分也。其ノ内ガ二分黒一分白也。正ノ内ニ少シ偏位ヲ含ムナリ。位種(裡カ)デ点ン側(ソク)心ナリ。正ハ陰ナリ、久遠ナリ、本位ナリ、心ナリ、空ナリ。男女ニ取テワ、女ナリ。晝夜ニ取テワ夜ル也。如何ニモ高イゾ。偏ハ陽也、今（31ウ）時ナリ、身也、色也。男女ニ取テワ、男也。晝夜ニ取テワ晝ルナリ。是ハヒキク是(ミル)也。扨テ正中偏ヲ誕生王子ト見也。正ガ天然ノ位イ、君ノ種草ダゾ、誕生ガ偏也。時キガ、正中偏デワ無イカ。呈ニ、正中偏ヲ内ヲ(イヲ)紹(ツク)王子ト云也。ナゼナレバ、内ヨリ(イ)紹(ツク)也。呈ニ、正中偏也。此ノ君ワ、高テモタカクテ、四臣モ到ヌゾ。（32オ）

●偏中正ノ圖ハ是也。此圓相モ三分ナリ。其内ガ、是モ一分白二分黒也。此偏中正ヲ、朝生王子ト云也。ナゼナレバ、王子タヱタル時キ、第一ノ臣下ノ子ヲ取テ作ス。是ヲ朝生ト云也。朝トワ臣ン也。即是レヲ臣ノ種ト云也。呈ニ、偏中正ヲ外紹王子ト云也。ナセナレバ、外ヨリ内ヲ（32ウ）紹イダゾ。偏ガ臣下ノ位タソ。在レ〔モ、王子ヲ紹(ツイ)ダト見レバ、偏中正デワ無イカ。

⊙此圖ワ、正中来也。マワリノ圓相ガ正位・本位也。中カノ一点ガ來也。此正中來ヲ末生王子ト云也。ナゼナレバ、末生トワ、王ノスヱノ子也。呈ニ、位ヲモタヌナリ。亦是レヲ陰ン栖ノ君〔モ云タゾ。陰栖トワ、（33オ）カクレスムト事(云脱カ)也。扨テ王子ニハ生レタゾ。正ノ中ニ來イタソ。如何ニモ心得肝要ナリ。

○此ノ圖ハ、兼中至ナリ。尽シ〳〵テ、本位ニチツト居タゾ。兼中到ノ一位ヨリ見レバ、簾(スダレ)ヒトヱノ差ガ在ルゾ。兼中至ト云ワ、子ガ尽シ〳〵テ、父トマツヒトツニ成リ、偏ガ正トヒトツニ成ツタ処也。呈ニ、（33ウ）是ヲ化生王子ト云也。ナゼナレバ、四臣ノ子〔モトヒトツト位ヲ化ヾイタレ〔モ、亦四臣ノ子トハ、ヒトツデワ

ナイゾ。ナセニナレバ、天然ノ位ガ在ルゾ。

●此ノ圖ハ、兼中到也。是レワ、不出ノ君也。不出ト云テ、出不出ノ不出デワ無イゾ。別ニイデウズ方ガ無イゾ。爰ワ偏モ正モ、父モ子モ、ナンデマリ、サタガ無イ一位タゾ。（34オ）呈ニ、千聖モ万達モ不識々々ノ処田ゾ。爰ヲ天地未分モ云タゾ。畢竟五位ワ三位也。三位ハ一位ナリ。一位ワ無位也。無位ト云ワ、兼中到ノ叓也。三位ト云ワ、自己・知不到・那邊也。自己ヲ最初ト云イ、知不到ヲ中ト云イ、那邊ヲ向上ト云タゾ。心得肝要也。（34ウ）

右古則十六、五位二通、宗旨雖為秘参、數年御身労故、示之者也。若於他見者、髪鬚落者也。（35オ）

［終わり］

史料（二）【叡山文庫所蔵『宗門密参』】

［公案目録］

一、鎮守之参、　二、鐘声七條、　三、青山秀処ノ句参禅、　四、世尊三髑髏、　五、般（船カ）之参、　六、趙刕万法皈一、　七、楊岐鉢盂口向レ天ニ、　八、明上座本来面目、　九、雲門一曲、　十、馬祖尊位、　十一、石門家風、　十二、趙刕大死底人、　十三、香厳枯木龍吟、　十四、林才ノ三玄、　十五、万法不侶、　十六、文殊妙經清浄ノ文、　十七、盤山心月孤圓、　十八、道吾仏法僧、　十九、曹山諸仏本源、　廿、杜順禅師法身偈、　廿一、霊照女百草、　廿二、金山ノ因果、　廿三、婆子苦海、　廿四、　廿五、　廿六、　廿七、　廿八、　廿九、　卅、　（1オ）（1ウ）

［目録終わり］

（頭註）

「山門東塔南谷浄教房　眞如藏　三百廿　貴」

一、鎮守参、天童如浄禅師ノ云、曹洞宗ニ鎮守ノ有リ二参禅一。未了ノ人者、洞上ノ不レ可レ為二道（導）師一。道元和尚明州ノ津迄御皈朝在ルガ、天童山ニ御皈リ在テ、廿日御滞留在ニ、此ノ話ヲ参得メ而御座在ル故ニ、曹洞宗デ指シ出メ、廿日皈リ参ト云也。師云、鎮守ヱ参様ヲ。代云、一圓空デ走。師云、其コノ主ヲ。代云、急度良久ス。師亦タ示メ云、當人ナラバ説破ヲセヨ。代云、ドノ諸佛諸天三宝四生六凡共ニ、従リ圓出テ皈レ圓ニタ。見レバ、汚（ワ）穢不浄ワ御座無イ。私ニ云ク、死人ニ手ヲ付レバ、神ヱワ七十五日不レ参者也。若シ其ノ内ニ参レバ、大地ガ七尺裂破スル也。其證拠ニワ、時宗唱道ワ参レバ、罰ヲ蒙ムル也。扨、曹洞宗デワ、喪（サウ）処ヨリ参ト云ワ、此ノ参得ノ在ル故タゾ。鎮守ノ前ニテ、端的ノ眼ガ在ルゾ。此眼肝要也。畢竟空ヨリ出デ空ニ皈シタ。○此ノ圖也。仏法王法体用一枚（マイ）、生死一般也。同謌ニ云、忌（イメ）バイム忌マ子バイマムイムトイウ（1オ）忌（イ）ムワ己

レガ心成ケリ。是ワ、永平道元和尚ヨリ末派迄如レ此也。大叓也。可レ秘々々。

二、鐘声七條　先袈裟ノ定ヲ。挙、我等カ境界ガ袈裟デ走。師云、夫ヲ何テ雲門大師ワ、世界恁麼ニ廣闊タリトワ被レ仰タ。挙ス、天ノ圓カ首ヘ、地ノ方ナルガ脚跟デ走。師云、綉建様ヲ。挙、陰陽和合ノ処デ、綉合テ走。師云、句ヲ。挙ス、急水波深ニ下ス直釣ヲ。心ワ、波深ト云、水ハ陰、直釣ワ陽、波ワ愛欲ノ濁水也。直釣トワ、万般無碍ノ心也。師云、縣様ヲ。挙ス、鷺不レ曝サ白ク烏ハ不レ染黒ク。師云、展ベ様ヲ。挙ス、展ル則ハ徧シニ汝界ニ。師云、疂様ヲ。挙ス、縮ル則ンバ方寸ノ中ヲ、因カ甚ニ向テ鐘声裡ニ披ル七條ヲト被レ仰、雲門ノ本意ヲ。挙ス、グワウド撞ク端的、アツ此ノ當頭デ境界ヲ離テ走。師云、夫カ何テ着衣デワアルゾ。挙ス、凡身ヲ放レタガ、仏衣法眼、自ラノ仏体テ走。師云、證（1ウ）拠ヲ。轉シテ凡入レ聖ニ。心ワ、七條ノ食衣也。斎前ニ鐘ヲ鳴セバ大衆披在ノ向レ食ニ也。是ハ世界ノ廣闊タルガ、其ノ侭ノ一袈裟ト不レ明メ底也。世界トワ、境界也。　龐居士看經スルニ、袈裟ヲ掛ヌヲ見テ、僧カ問フタ、甚ントシテ袈裟ヲカケザル。トアレバ、居士一足ヲツマダテタモ、世界一片ノ一袈裟ナル間、足ヲ立テズ透カ無キト云心也。亦急水〇下ス。此句ワ、達磨直指人心ノ頌也。波深トワ、母ガ開也。直釣トワ、父ガ閉也。急水トワ、互ニ思ヒ合テ、男待受テ婬水俄ニ湧出テ、愛河ノ波ミ先キニ急ニ漲ルヲ云也。直釣ヲ下ストワ、愛河サツ〳〵ト漲処ヱ、男根ヲホカト指コム処デ、陰陽ノ二水和合メ我体ヲ出生スル也。爰ヲ、洞生デワ、綿密ノ把針モ云也。亦点凡入聖、此ノ心ワ、凡身ヲ轉スレバ、聖体ニ入ウト云心也。聖ワ佛也デ、仏体也。畢竟自ノ境界ガ、一袈裟ト見レバ、鐘声裡ニ向テ別ニ可レ著一衣カ（2オ）在テコソ。黒水ワ空劫ノ体デ、無紋綵也。色衣ワ出世ノ一衣デ、紋綵露現也。文采トワ、眼耳鼻口也。此参了畢セズンバ、掛落ヲ許コト難レ成也。大叓々々。

三、青山秀処六月満天雪。●師云、青山ヲ云ヘ。答云、母ノ胎内カ青山デ走。師云、青山秀処ヲ。挙ス、ヒヤツト産出スルガ、秀羨デ走。師云、滿天ヲ。挙ス、境界ガ滿天デ走。師云、雪ノ降羨ヲ。挙ス、降リ易ク消易ク走。心ワ、雪ト云ワ、寒天ノ時分ニモ降リ、六月ノ土用ニモ降ッタゾ。時ヲ不レ嫌、胎内ヨリ産出スルヲ云也。

四、世尊三髑髏。●師云、生髑髏ヲ云ヘ。答云、生下ノ端的ヲナス。師云、其コニ句ヲ云ヘ。答云、無孔ノ鉄鎚抛ツ當面ニ。心ワ、シヨツト産出シタガ、其ノ赤子ヲバトコヱ出シテモ、人著ガナイゾ。時カ、髑髏タゾ。句ノ時モ産出ノ肌ヱガ鉄鎚デ、卒度モニジミメガ無ゾ。霊山ノ風モ少林ノ（2ウ）風モ身ニシマヌゾ。爰デ開イタ耳目ワ、声色ニ預ラヌゾ。時ガ、無孔ダゾ。孔ト云ワ、唱ヘ悟リ也。師云、當髑髏ヲ云ヘ。挙ス、入テモ火ニ不レ焼、入テモ水ニ不レ溺レ。師ノ云、溺ヌ者ヲ取テ出セ。挙ス、取ルニ不レ取レ。師云、夫ハ何テ。言ハ、計ニ出処ヲ聞タイナ。挙ス、

逢ハ茶ニ喫レ茶ヲ、逢ハ飯ニ喫レ飯ヲ。心ワ、當髑髏ト云ワ、本意本分也。此人ワ、茶ヲ呑ム上ニモ現シ、飯ヲ喫スル上ニモ現シタゾ。此當髑髏ニ至テワ、唐土・天竺・和朝テモ、誰カ見タ者カ在ル。時、髑髏ダゾ。師云、師髑髏ヲ云ヘ。挙ス、師ノ前ニ至テ、一息截断ノモヤウヲナシテ皈ル也。師云、句ヲ云ヘ。挙ス、出息不レ渉ニ諸縁ニ、入息不レ居ニ陰界ニ。死髑髏ト云ワ、一息ヲ引切ヌツラヲ見サシ玉ヘ。打モ扣モ切テモ、痛ミヲシラヌゾ。時カ、髑髏也。死スル時、必スホツト息ヲツク処ヲ見サシ玉ヘ。不レ渉ニ諸縁ニ、死スル苦ミ計リ、唯渉ニ諸縁ニト云ワ、現在（3オ）ニテ柳緑花紅ト見カ、渉ニ諸縁ニタ┐ゾ。アノ道心道滿カ死スルヲモ見サシ。出息入息ト云テ、ソトヱ一息、内ヱ一息ツイテ、クツト引切タテイヲ、能ク目ヲ付テ見サシ。常ノ躰ニ非ス。時キ、陰界ニ居セヌゾ。是ワ古則モ多ケレト大叓也。一千七百則ノ公案也。十二時中胸中ニ出テ見サシ、〳〵、〳〵。

五、般（船カ）参。師云、冥門ノ般（船カ）ヲ云ヘ。学代云、五尺ノ入道デ走。師云、積物ヲ云ヘ。代云、眼耳鼻舌身意デ走。師云、般（船カ）ノ繋（ツナキ）ヤウヲ云ヘ。代云、出息入息デ繋テ走。師云、般ノ受用ヲ。代云、一喝放身。師云、舟ノ皈シ羨ヲ。代云、空風火水地、惣メ般ガ無キワ、平生モ自由ハナラヌ物タゾ。呈ニ、境界ガ般デ走。万事ヲ此境界ヲ以テ動シタ┐タゾ。是ガ、カジノマワシ羊也。ツナト云モ、別ニワナイゾ。此出息入息ヲ云タゾ。呈ニ、是ヲ以テ境界ニツナギトメタゾ。有ルガ、一度ワコノフ子ヲ皈スゾ。（3ウ）皈シヤウワ、火ハ火ニ皈シ、風ワ風ニ皈シ、夫々ニ皈シタゾ。時カ、般ノ乗リ捨テ羊也。古哥云、細ク立テ冨士ノ烟ニツナカレテ流モヤラヌ浮嶋カ原〳〵。

類ノ一、聞法ニ入

六、趙州ノ諗禅師ニ、僧問、万法皈レス一ニ、一皈ニス何ノ処ニカ。師云、我在テ青刕ニ作ス一領ノ布衫ヲ重┐七斤。私云、是ワ易道ヲ以テ問也。一易ト始テ二儀四像八卦ヲ生ス。而メ万法ノ数ヲ生スル〳〵。此万法ヲ極レバ、本ノ一易ニ皈ル也。此一ヲ極ハ大極ニ皈スル也。爰ヲ、宗門デ本分ノ道ト云〳〵。皈レス一ニトワ、●也。重┐七斤ト云モ是〳〵。畢竟此本則ワ、末後ト思ヘヨ、〳〵。

七、楊岐鉢盂口向天。（類ノ三、衣鉢ニ入）楊岐會禅師ニ、僧問、天得テ一ヲ以テ清ク、地得テ一以テ寧（カロシ）。衲僧得テ一ヲ堪タル作ニカ甚广（廉）ヲ。師云、鉢盂口向（ホユコウ）レ天ニ。私云、先過去ノ劫極タルヲ、空々寂々タル大極ニ陰陽ヲ含蔵シタル圓相〳〵。一易ト云〳〵、○〳〵、圓相ワ、大極〳〵一点ワ陰陽ノ種子萠（キサ）メ未レ分┐〳〵。易ノ字ニ眼ヲ着テ見ヨ。日月本分ノ（4オ）象〳〵。爰ヲ、天地未分ノ時ト云〳〵。日月天地陰陽男女〳〵。一易分テ成レ天ト成レ地、分ツ清濁ヲ、是ヲ天得テ一ヲ以テ清ク、地得レ一ヲ以テ寧シト云〳〵。濁タル地、清タル天氣ヲ受テ、万物ヲ生スルヲ寧シト云〳〵。是ヲ易中ニ出テ地天泰（タイ）ト云〳〵。是ワ天地ノ一得〳〵。扨衲僧得ルレ一ヲ時節ト問（トウ）〳〵。鉢盂口向レ天ニ、古ヘ早朝午時ニ行タル鉢ワ壁ニ掛テ向レ天也。棒喝當行ノ間ワ、粥飯ヲ行ウタル間〳〵。其ノ伎倆□（キ）（更カ）ニ尽了テ、只十二時中出息入息シタル

無(ナ)ク(シ)ト(テ)行履(アンリ)也。衲僧一ヶ得ル時節也。不参禅不論議、但敷テ二破席一(セキヲ)日裡(シツリニ)眠ル上云モ是ヘ。

八、六祖云、不思善不思悪、正當恁麼時、那箇是レ明上坐(座カ)本来ノ面目。明當下ニ大悟。師云、不思善不思悪ル。学云、単刀直入。亦、無我相無人相。心ワ、無我相無人相ト云ワ、坐禅ノ正賞、未生以前ヲ云ヘ。未生以前ヲ無——相テ、父母ノ沙汰モナク、本ト衆生ト云テモ無処也。（4ウ）爰ヲ、本来無東西トモ云也。爰ヲ、本来ノ面目ニモ云也。禅ノ眼コヽ、佛心宗ノ眼力タゾ。亦、単刀直入ト云ワ、九寸五分ヲ以テヒツクンデ、ツキツメタル當頭ノ「也。扨テ善ガ出タカ悪ガ出タカ、無念無相ノ処、二念ヲツガヌ処ヘ。師云、猶ヲモ子細ニ云ヘ。学云、當頭不レ譲ラ他ニ心ワ、トツト急切ナ処デワ、互ニ向ゾトノベラレヌゾ。爰ヲ不思善不思悪ノ処ト云タゾ。師云、那个是本来面目ト云タルキヲ。云、天地ノサタモナク、善悪ノ分別モ出ヌ処テ候。師云、徹底ニ句ヲ。云、星前ノ人臥ニ千峯ノ室一ニ、佛祖識ニ得スル渠一無レ由。心ワ、星前ノ人ト云ハヽ、本来ノ父母ノ「ゾ。千峯ノ室ト云ハ、コノ人ノ居処ヘ。爰ワ、尺迦モ達磨モ識得スルニ無レ由ヘ、更ニ眼ガ及ヌゾ。師云、本来人ノ形相ヲ。云、六根不具七識不全底ノ人デ走。心ワ、六根ト眼耳鼻〇意ノ六ヘ。人間ワ、此六根ヨリサマ〳〵ト悪ヲ作リ出シテ我トセメラ（5オ）ルヽゾ。扨六根不具不足底ノ人ニ、過カサタワ無ゾ。六根ガ無レバ見モセズキヽモセヌ故ニ、過ヲ作ラヌゾ。此人ヲ未生以前ノ誰ト(モ)云ヽ、渠(カレ)ト(モ)云、本来ノ父母ト(モ)云。師云、此人ニ病ガ走カ。云、他人ノ不レ受レ瞞ラ。心ワ、本来人ト云ニ、位ワ定ヌゾ。源平藤橘(トウキツ)ノ四家ノ流デモナク更ニ位ワ定ヌゾ。師云、畢竟ニ落居ラ。云、三世ノ諸佛モ総ニ不レ知ラ、歴代ノ祖師モ総ニ不レ知。心ワ、本来ノ父母ト云ニ至ワ、三世ノ諸佛モ不レ知〳〵テ果シタゾ。亦禅ノ宗旨ワ本来空ト見。本来無一物トキワメタゾ。空ト云テ、ナンニモナイト打払テ看ルワ、外道ノ空見ト云テ、無ノ見ニ落タ「ヨ。扨禅ノ眼、仏心宗ヨリワ、無ガ真如ノ体、無ガ本来ノ面目ト見立タゾ。故ニ世間空ノ空ニハ無也。佛性空ハ々テ而真也。祖師達モ常住不變ノ相デ空躰ニハツキヌゾ。道謌ニ云ヘ（5ウ）桜ラ木ヲ打ワリ見レバ何モナシ花ノ□(種)何ヲトワ云ラン。心ワ、打ワッテ見タガ、白花ニ(モ)赤花ニ(モ)形ワ見ヘヌゾ。爰ヲ則チ仏心ノ躰トミ、本来ノ心見タゾ。仏心ト云ニ極リ形ワ見ヘヌゾ。又来ル春モ〳〵誰レソメ出スト(モ)ワ無レ(モ)花ハ紅柳ヲ緑リ、夫々ノ色ヲ以テ出タゾ。向ミルガ、常住不(変)久ノ眼ト云イ、仏心ト云タゾ。扨何ンニモ無イト見ルワ外道ノ空見ト云テ、佛モ深ク嫌ッデゴザ在ルゾ、〳〵、〳〵。九、雲門僧問(歳時ニ入也)、如何是雲門ノ一曲。師云、臘月二十五。云、唱ル者ノ如何。師云ク、且緩々(シヤクワン)。一陽始テ萠ス宗門曲調モ従(ユルヤカ)是ヶ始ルも。一曲一青迄生崖其声ガ絶ヌゾ。代、万法一時ニ破ル、人民悉ク失レ(ス)色ラ。又五絃断尽シテ人家空ニ皈。又、心身脱落。一曲トワ、息ヶ引截ル境ィ也。二十五トワ、季中ノキワマリヲ云ナリ。

十、馬祖一禅師因ニ不安、院主問フ、和尚近日尊位如何。師云、日面仏月面佛。（6オ）拶、馬大師意旨如何。代、木馬嘶レ風ニ野村ノ暁キ、太虚寂寞トシテ相送ルニ可ス。

十一、石門蘊禅師、僧問、如何是和尚ノ家風。師云、物外獨騎千里象、万年松下繋ニ金鐘一ヲ。代、吾此性霊自レ始点検シテ看ハ、在レ烏ニ黒圓、在レ鷺ニ白圓、三世無レ隔テ。

十二、香厳僧問、如何是レ道。師云、枯木裡ノ竜吟。僧云、如何是道中ノ人。師云、髑髏裡ノ眼情（晴カ）。代、半夜烏亀眼豁開、万象暁来都一色。至道――擇トヲツ々メテ置処デ、枯木ノ如ナツタゾ。竜吟ワ、出息入息也。眼睛トワ、照無イ眼ゾ。一度此境界ニナラデワ、烏亀ノ境界ニナツタトキ、半夜ヲ□一処ニ見ル也。（6オ）

十三、趙（類二、刀カ）問ニ投子一ニ、大死底ノ人却活時如何。云、不レ許ニ夜行一ヲ明ニ須レ到。代、絶シ境ヲ沈テ機無ニ是非一、江南早ク鷓鴣啼ク。（通幻代、）孤根脱尽シテ□ス蒼苔ヲ、冷地無レ端笑顔開ク。又、密移ニス一歩一ヲ六門暁キ、無レ限風光大地春。趙州ハ、入頭ノ大死――人モ向上人モ落シツケヌ眼ス。機ハ万幾（機）万境ノキザ々ヌ処ス。爰ガ死人也。江南ワ、活処也。通幻代モ、脱尽トワ、木枯用也。用木モ無イ処ガ、大死底也。冷地カ活処也。

十四、林才和尚云、玄中玄。宏智云、超ニ毘盧一ヲ越ニ尺迦一ヲ、此意如何。代、袖裡金鎚看ヿ還テ難シ、未レ露仏祖モニ截断ス。又、父子不傳、神仙妙訣（ケツ）。林才ノ拳握デ脇下ヲツカンデイタ「也。爰ガヒ（被）位ヲ不レ開居タ「ス。露タ「デワ無シ。州裡ト看、宏智ノ家デワ、玄中ノ玄ワ、刧――前也。爰ガ、越――辺タ「タゾ。玄中ノ玄トワ、林才ノヒツククシタ金鎚ワ難レ見誰モ（7オ）、難レ窺ゾ。爰ワ、仏祖ガ面ヲ出サヌ、父――傳、玄中玄ト云ワ、黄檗ヨリモ傳ヘヌゾ。

躰中玄。宏智云、一切処自然ニ普徧ス、如何委悉。代、眉ニ分ニ八字一ニ重テ添レ黛ヲ、玉平遮テ面ニ欄肝（ランカン）立ツ。又、毛色ノ金班（クワン）百歩ノ威。又、蔵レ身ヲ顕レ影ヲ。逢レ場ニ作レ戯ヲ。躰中玄トワ、此ガ懸（縣カ）裡底人也。當門ニマタカツタト同位也。玉――面、半分アラワシタカ、体中玄ス。三世一代モ如何モセラレヌ躰中玄ス。虎ガ実ト睡テ居タ時、毛ガクツトハタラクカト見レバ、千里ヲカケウズ幾（機）ガ在ルゾ。爰ガ如何モセラレヌトミレバ、躰中ノ玄也。玄中ノ玄、体中玄、其コ〳〵ガ作レ戯ヲタゾ。句中玄。宏智云、哆々啝々出廣長舌、問答意旨如何。代、指レ魯ヲ語ニ西秦ス一ヲ。又、泥盤放下呵々大笑。又、不レ會セ唐言一ヲ。（7ウ）

十五、万法不侶。師云、万法ト侶リ羨ヲ。云、従ニ毫末一輕ク従レ山重シ。師云、其ノ句ノテニハヲナヲシテ云ヘ。云、毫末ニハ輕ク山ニハ重シ。心ワ、万法ト云ハ、世間ニ在ト在ユル天地ノ間ニ見ヱ来ル物ヲ云ス。呈ニ、不侶底ノ人ト云ワ、夫々ニ侶ツテ居タガ、影モ形モ見ヱヌゾ。山ハ高ク海ハ深ク天ハ高ク地ハ低（ヒキ）ク、柳緑リ花ハ紅ト云モ、此不侶底ノ人ノ「ヨ。扨テ亦向ゾト、此人ヲ取テ出タ郎

ニワ、下賤ノ客ク奴児卑子ヲ。呈ニ、此人ハ同坐同行シタガ、顔モヲ顕サヌ人ダ。此人ヲ問呈ニ、西江水ヲ一口ニ吸尽シ来レトセメカケラレテ、頓ニ領ズ玄旨ヲ一ト不底レ侶ノ人ニ相見シタゾ。玄旨ト云ガ、悟ノ旨ノ┐ヨ。師云、不侶底ノ人嘗著ヲ。云、拍レ手ヲ呵々大笑ス。心ヲ、爰モ拍レ手ヲ我モ不レ覚カラ〳〵ト笑フ処ヲ。此人ニヲ相イ逢タゾ。師云、著語ヲ。云、玉輪機轉ノ笑ィ呵々、直下相イ逢テ相イ不レ知ヲ。心ワ、玉輪ト云ヲ、我ガ五尺ノ境界ノ┐ヨ。機点ルト向ゾト相イ當ル処ナリ。笑（8ウ）呵々、吾モ不レ覚カラ〳〵笑タマデヨ。爰ノ直下デ相イ逢ダガ、全ク逢タトワ知ヌゾ。相見不レ揚ゲ眉ヲ。心ワ、此人ハチヤット相逢ダガ、重テミヤゲテ見ヤウトスレバ、早見カクスゾ。爰モ一口ニ――ゾ〳〵トセメラレタニ依テ、頓ニ領ズ玄旨ヲ一ト、此人ニ参會シ相見シタゾ。扨相見シテ々々シテ知ヌガ、當人ダ。知レバ、早ヤ隔リ遠ザカルゾ。亦海庵和尚ハ、有ル時真ノ暗ラ闇ニ枝ニ首ベヲ、ハツチト打當ル処デ、此話ニ契タゾ。心ワ、柱ナドテ頭ィヲハツチト打アツレバ、目星ガヒツカトスル者ダ。扨テ見ナヲセバ、火デモ無ゾ。呈ニ、馬祖（龐）居士モ、此時節ニ當テ本心ニ喫カィ、心火ニ本ヅイタゾ。師云、句ヲ。云、擊石即出ノ火光終ニ不レ然ラ。心ワ、火打ト石トワハツチト打合ル処デ、火ガヒツカトスルゾ。在ガ、光レ火終ニ不レ然ラト云ワ、二タ目ト見ントスレバ、チヤツクトキエタゾ。爰モ心火發明ト云テ、コノ不侶底ノ人ニ相見ノタメチノ┐ヨ。（8ウ）亦夾山ナドモ、豁然大悟ル処デ、不侶底ノ一人ニ相見シタゾ。扨テ亦、万法ノ上デモ、此一人ヲ見デワ、呈ニ、般子夾山ノ時モ、法身當著ト云ガ、此ノ一人相見ノタメチノ┐ヨ。此一人ハ扇子上デモミ、團扇上デモ見タゾ。有ガ、ウチワハ、何テ圓ノゾ。扇子ハナンテ方ナゾ。扨何ト云タゾ、〳〵。夫々ニ出タガ、ソレ〳〵ニ隠テ居タゾ。時キコソ伴タツタガ、侶タラヌ一人ヨ。亦、頭上漫々、脚下漫々ト云句ヲ以テモ見ル也。亦對レ境ニ数シバ〳〵起ル菩提作麼ヌ（生脱カ）長セント云句デモ心得ベキゾ。心ハ、此一人ハ直上ヲミレバ、直上ニ挂ヘタゾ。直下ヲミレバ、直下ニモ挂ヘテ居タゾ。亦、月ヲ見ル則ハ月一片、花ヲ見ル則ハ花一片、心数ハ起ル多念ヲ出ヌゾ。菩提ト云ワ、二念ヲツギ多念ニ渡ラヌ┐ヨ。作麼カ長ン〳〵デ、卒度モ多念ノ出ヌ処ガヨイゾ、ト心得キゾ。（ベ脱カ）

十六、文殊般若經ニ云ク、清浄行者ハ、不レ入ニ涅槃一ニ、破戒ノ比丘ハ、不レ堕ニ地獄一ニ、拶云、（9オ）如何是清浄ノ行者。代云、如ニ醉者之夫ノ一東支スル則ンバ、西傾シ西起スル則ハ東作ル。光明蔵一巻、在之、桂庵代ニ、醉扶ノ狂歌任ス堕中一ニ、清浄ノ行者ガ破戒ノ比丘タゾ、ナゼナレバ、清浄ノ時、戒律ノ沙汰ヲナイゾ。此ノ肌ガ涅槃、破戒ガ地獄ナトニ、サラニ不レ入堕セヌゾ、代モ、トロリト醉ツブレテ東ヨリヒツタツレバ、西ヘ傾キ、西ヨリタツレバ、東タヲレタ処デ、清浄ノ行者、破戒ノ比丘ヲバ見ヌゾ。如ク云ワ、醉者ガソレタデワ無ゾ。アノ如ク筋骨モナクナラデワ、向サヘ至タラウニワ、涅槃モ地獄モ

無ゾ。爰ヨリ見レバ、乾坤胸醉裡ト云モ弱イゾ。乾坤ト盃ガ出テ陶（トウ）渕明ト云呑テガ在ゾ。在レ人閻羅ノ点検ガ入ラデワ、畢竟先世罪業則為消滅修行也。（9ウ）

十七、盤山積禅師示レ衆云、心月孤圓ニシテ、光呑ニ万象一ヲ。光非レ照レ境ヲ、々亦タ不（アラズ）レ在ルニ。光境倶ニ忘ス、復是レ何物ゾ。拶云、作麼生カ是示衆ノ機（キ）。代、無孔ノ鉄鎚抛ツ當面ニ。心月ト云ガ、肝要ダゾ。孤圓ノ時キ、呑ト云ワ、万像ハ無ゾ。ト云ワ、万像ト云心月ダゾ。光非レ照ニ境ヲト云ワ、照シタト不レ知、照サレタト知ヌ時、光境トモニ忘ジタゾ。爰ニ沙汰ワ無ゾ。在ルヲ復タ是レ何物ゾ〳〵ト云ガ、示衆機渥當行シ羊タゾ。代、光境倶ニ忘ジタ処ガ、無孔ノ鉄鎚。ナセニナレバ、初入頭デワ、死タゾ、活タゾト云ガ、死ダゾ。爰デワ光ト云境ト——ガ、死タゾ。爰ヲ取テ亦是何物ソト云カ、當面ニ抛羊タゾ。當行示衆ノ機タゾ。可秘〳〵〳〵。

十八、（類ノ三ニアリ）道吾ノ能禅師ニ、僧問、如何是佛。師云、毀（キ）著ク不レ瞋ラ。如何是法。（10オ）師云、讃著スレモ不レ喜。云、如何是僧。師云、剃除（テイジョ）鬚髪（ショハツ）。代、随テ流ニ認ニ得スレハ本来身一ヲ、遍界莫シレ非ト無價ノ珎ニ。圓悟ノ録ニ在之一。私云、毀（ギ）讃ニ著タルワ、佛法ニワ遠ゾ。毀讃ニカマワズ、水器（キ）ノ方圓ニ随ガ如ク、夫々ニ仕タガ、佛法ノ保羊タゾ。如レ此心地ノ丸ク成タル処ヲ真ノ僧ト云也。自ラ鬚髪ヲ除ク底ノ沙門トワ云タゾ。別ニカミソリヲ頂タ┐デワ無ゾ。代モ、嗔リ喜ッスルワ、流ニサカツタ叓タゾ。嗔喜ニ著セサルワ、流ニ随タ┐タゾ。如レ此我相ノ出ヌ人ガ本来ノ心タゾ。ドチヱモ向タモ無價ノ珎ダゾ。我相カ出スレバ、瓦礫ニナルゾ。

十九、曹山本寂禅師ニ、僧問、如何是レ諸仏ノ本源。師云、千峯月キ照ソ更ニ無レ月。（10ウ）

廿、杜順禅師法身ノ偈云、懐刕ノ牛シ喫レ禾ヲ、益州馬腹張。天下覓テ醫人一ヲ、灸ス猪（チヨ）ノ左膊（ヒチ・カイナ）上ニ。心ワ、世界一片ノ法身ト云叓也。猪ノ灸ニ左膊上ニトワ、一リノ王有リ病イ有、灸ニテ即時ヨカルベシト云也。在モ、王ワ灸ナドヲメ、惣シテ身ニキズヲ付ケヌ者ナレバ、諸人——之時、醫人世界一片ノ王ナレバ、折節猪ノ見ヘタル呈ニ、灸スル也。王ノ病治スル也。普天普地非ニ王土一ニ無く。

廿一、龐蘊居士座スル次ニ、霊照ニ問、明々タル百草頭、明々タル祖師意。照云、老々大々トシテ這箇ノ作ス語話一ヲ。士云、汝作麼生。照云、明々百草頭、明々タル祖師意。培芝代云、泣（ナ）レク露ニ千般ノ草、吟ス風ニ一樣松。心ワ、是ワ龐居士明々タル——頭トヲビキ出スガ、ハヤアヤマツタ┐ヨ。

廿二、金山惠禅師ニ僧問、大修行底ノ人還テ落ニ因果一ニ也無ヤ。師云、鴆鳥入レ水ニ魚皆ナ死ス、毒龍行処不レ生草。（11オ）

廿三、趙刕因ニ一婆子問、婆ハ是五障ノ之身、如何ンカ得レン免ル┐ヲ。師云、一切ノ人願ウ生天一ヲ、婆々ワ永ク願レ沈ン┐ヲ苦海一ニ。古人代云、大通智勝ノ如来。取句ニ、堕脱。取句、煩悩即煩悩。

廿四、竜潭紙燭吹滅。師云、徳山大悟ノ當頭ヲ云ヘ。何ト云モ、皆如来禅ノ教ダゾト嫌也。タトヒ當人當的ノ契ハ有ヒモ、廿年モ卅年モ許スヘカラズ、クツト嫌ツメテ、吹滅下大悟ノ當人ヲミヘシ。キビシク接セラレテ、我モ不レ覚自然天然ノ契アルヘシ。吹滅下ノ契ハ、不レ顕ニ紙面一ニ口傳ル也。可秘々々。師云、大悟シタラハ、當頭ノ心ヲ云ヘ。学云、兀々茫々。心ヲ云ヘ。ホツカト吹滅ノ當頭ハ兀々茫々、仏性驀暗(クラヤミ)ニメ、一星イ月モ明メハ出ヌ、知恵ハ出ヌ、悟リ出ヌ、只不可得ナリ。爰ガ直指見性ヽ。兀々茫々ノ時節、サテ天ヒモ地ヒモ(11ウ)不去一、父母未生以前本来ノ面目ヽ。爰ハ迷モナク無レ悟モ、善モ無ク悪モ無処タソ。扨々亦能ク爰ニ至テミレハ、迷ヲモ悟ヲモサマタケヌソ。師云、其ノ句ノ修行ヲ云ヘ。学云、無始無終無根本。師云、猶子細ニ云ヘ。学、師ノ前ニ到テ、丁(チヤツト)一圓相ヲ畫テ、亦畫破ノ帰ル。師云、ソウ契テ以後ノ行李ヲ云ヘ。学云、手ニアツテハ執提シ、足ニ有ハ運走ス。眼有テハ見、耳ニ有テハ聞、鼻ニ有テハ香ヲカギ、口ニ有テハ味ヲ知ル。一切妄想妄念モ、一圓相畫破ノ時節也。師云、説処ニ著語セヨ。学云、煩悩テ煩悩。師云、其ノ心ヲ云ヘ。煩悩テ煩悩ト云ハ、善ハ々迄ヨ。悪ハ悪迄ヨ。迷ハ迷、悟ハ悟迄、一切ノ妄念妄相モアルニ任カスレハ、一切ノ上カ(12オ)一圓相ヽ。師云、畢竟ヲ云ヘ。学云、首ヲ回セハ家郷万里ノ愁イ。師云、其心ヲ云ヘ。煩悩——トミレハ、ツキニタイスレハ月キ迄ヨ。花ヲ見ハ花迄ヨ。一切善悪ノ境モ只如此。首廻(メクラ)サ子ハ、ソコテ本分本来ノ面目、直指見性ヽ。只能工夫ヲナサバ、自然ニ至ルヘシ。大中寺快庵和尚一派ニ傳授アルヽ。(12ウ)

●心随ニ万境一轉、々處實ニ能幽ヽ。拶云、既ニ是随ニ万境一、為ニ甚麼一ト幽ナハ。代、無レ限リ落花随レ水ニ去ル、夕陽春色(セキシヨク)滿ツニ江南一ニ。應庵録ニ有之。

心ワ、々ハ万境ニ随テ轉ズト云。此ノ本心ガ桃紅李白、物々ノ上ニ随テ轉ジタゾ。有ガ、本心ト見レバ、轉処實ニヨク幽也。更ニ知ラレヌゾ。轉ゼヌ先テ居タゾ。拶モ、既ニ是万境ニ随テ轉ズ、ナントメカ幽ナル。代ワ、無レ限落花随レ水去ト云ハ、深山幽谷ノ千花万花ガ、若干(ソコハク)ノ流水ニ随テ、滿々タル滄海ニヲシ出シテ、江湖ニ滿々タゾ。是ガ万境ニ随テ轉処タゾ。在ヒモ、夕陽ト見レバ、ヲボロ〳〵トメ見トダケワ無ゾ。扨幽ノ一字ハ聞ヱヌカ。

●如何是涅槃妙心。天嶺代、火裡ノ生蓮香(カホツ)颯々〳〵。代心ワ、□□頌也。心得ワ、涅槃妙心ダ。妙ハ付字ダ。心ト云カ肝要タゾ。涅槃ハ不生不滅ダゾ。遷化ト云モ、向ダ。生死ニ沈倫(淪カ)セヌ心トワ、真實相ノ叓、實相トワ、教外別傳ノ旨ノ叓ヨ。代ハ、火裏トワ、目前ダ。生蓮ト云ガ、心ダ。香颯々ト云ワ、ドツコモ此暗香タゾ。

如何是座禅。代、其門開ケ。私云、大定一片ノ時、トロリト入ラウズ、歴賊ガ在テ社ソ。時、其ノ門開ケ立テ、用カ無ソ。又一州和尚ワ、如(イカナルカ)レ是座禅ノ人ト出メ、代云、三尺ノ杖子(ス)(13オ)

撹ニク黄河一。私云、是モ座禅ノ正當、杖子迄ダゾ。時、上ヲ有頂天、下ハ金輪水際迄拄タゾ。黄河ヲ撹クト云ハ、此杖子ノトドカヌ処ワ無ゾ。杖子トワ、此ノ本心ノ事也。

●神秀大師云、明鏡有レ臺ニ、菩提本ト有レ樹ニ、時々ニ勤テ拂拭（ヒキヌグフ）ムル「塵埃一ヲ。代、懃々テ稀ニ近江ノ鏡山不レ曇デ見セヨ祖師ノ心ヲ。

●恵能大師云、明鏡無レ臺、菩提本ト非ス樹ニ、本来無一物、何処カ惹（レヂク）メン塵埃一ヲ。代、元来モ不レ曇物ヲ鏡山スワ見ヨ直ニ祖師ノ心ヲ。

▲世尊棺内双趺。（天竺ノ処）代、昨夜寒岩無影木、白雲深キ処露ニ横枝一。圭庵ノ代、落花乱点ス（双プフ預処）苺苔ノ色ヲ。

●千手千眼那个カ是正眼。代、暗夜ニ施ス二文綵ヲ一、明中ニ不レ留レ跡ヲ。

●本源ノ自性天真佛。（代云、）不染世間法、如蓮花在水。

●如何是無吼（孔カ）笛。代、九季ノ年令庭人無シ識ル。（13才）如何是合面睡着。代、刀斧斫不レ開。取句、従上ノ諸聖喝不到棒不及。

●如何是普門。代、ヲシナヘテ隔無レバ其侭ニ出ル緑リノ門ノ一路ヲ。

●女（如カ）——劒吹毛ノ。代、秋ノ夜ノ草葉ノ露ニヲシナヘテ玉ヲ置ク有明ノ月。女——坐禅。代、静ナル心ノ内ニ住月ノ波モ砕テ光トゾナル。

●酒市婬房任テ心行ニ遊一。代云、唯此眞金砂ニ不レ混セ。

▲先世罪業即為消滅時如何。代、不染世間法、如——。

●心月孤圓ニノ光含ニ万像一。代、拠坐良久。

▲無種病人。代、風吹（モ）不レ入、水洒（モ）不レ着。唯个相ニ似リ無孔鉄鎚ニ。

●女（如カ）——先師肉。代、人ノ子ワ親ニ似ン者ヲテ懃シキ時ワ鏡ヲゾ見ル。

▲闘声悟道。代、降ル雪ニトマリ烏ノ塚テ啼声ニコソ黒キトゾシル。

▲大死底人活。代、山伏ノ腰ニ付タルホラノカイ死々タル物ノ声ノタカサヨ。（14才）

▲大死底人。代、夏蟬（ウツ）ノモヌケノカラニ成果テ心無レバ物思イセズ。

●不去不来。代、峯ノ雪浦ノ波間ニ捨小舟行モ畝モ風ニ任セ。

●教外別傳。代、荒磯ニ波モ及ヌ高岸ニカキモツクベキ法有（ノリ）ハコソ。

●觀音。代、草ノ名モ処ニヨリテ替ケリ難波ノアシワ伊セノハマヲギ。

▲祖意教意。代、峯ノ杣谷ノカシワバイカナレバ同嵐ニ音替ルラン。

▲無寒暑。代、只庵庭ノ夏草思ホド道有トテモ問人モナシ。

●眼ニ見ニ無影樹一ヲ、耳ニ聞ク没絃琴（キン）ヲ。代云、家貧ニノ路（トミ）チ富（コト）ム。

●無影樹ト云テ、影ノ無イ「デワ無ゾ。没絃ノ琴ト云ヤ、弦ルノ

カヽラヌ┐テワ無ゾ。

滿山ノ緑樹ニ對スル上テ、見ニ引落サルレバ、影ガサスゾ。廿五弦ヲ弾スル上デ、聞ニ引落サルレバ、絃ガカヽルゾ。引落サレヌ時、無影樹・没絃琴タゾ。代モ、路ト云マヽ見聞ノ路頭タゾ。家貧ナト云ワ、兎ノ毛ヲ千ン(ウサギ)ニサイタ呈モ、爰ニ賊ノ無イ時、見ル上聞ク上、ドノ路頭ヘ出テモ（14ウ）不足ガ無イ。引落サルレバ、不足ニナルゾ。私云、貧ナト云ワ、境界ニ知見解會ノ一点モナイトキ、見聞引レヌソ。時、家富ヽ。活計タゾ。智解ガ有ニ依テ、見聞ノ上デヒツカヽルゾ。夫ワ、活計デワ無ゾ、不足ヨ。十八上ノ活計ト云モ、向也。六根六識六塵、是十八上ヽ。

●家傳ノ妙旨不ニ言語一ニ、洞上ノ真機絶ス外来一ヲ。拶云、如何委悉セン。代、丹鳳喞デ玄珠ヲ一棲(セイ)二遲(チ)ス玉樹一ニ。●家傳ノ妙旨ト云イ、洞上ノ真機ト云マヽ内紹・不出・門裡タゾ。扨言語外来マヽ外紹・出世・門外タゾ。本ヨリ家傳ノ妙旨、洞上ノ真機ナ呈ニ、不二言語一絶ス外来一ヲ。其ノサタマヽ無ゾ。代モ、鳳凰モ丹山ニ下レバ、出世辺ニナルゾ。丹鳳ト云ワ、丹山ノ俜ニンノ下ラヌゾ。玄珠ヲ含ト云テ、別ニ含タデワ無イ、生得ク鳳凰ノ觜(クチバ)ニ備ル物タソ。玉樹ニ棲遲スト云ワ、コチヨリ羽打タ┐デハ無ゾ。生得ク玉樹ニ住物タゾ。ト見レバ、其位ノ栖カ内紹不出門裡タゾ。古語外来ニ（15オ）落ヌゾ。私云、外ハ尽也。門裡ワ不尽ヽ。六祖神秀ノ刹(折カ)角、至到ノ刹角也。外紹トワ、王子ノ断ル時、臣下ノ子ヲ取マヽ位ヲ紹ク故ニ、外ヨリ紹ク也。朝生王子ト云也。其王子デ其位ヲ紹ヲ内紹ト云ヽ。誕生王子ト云ナリ。

●金色ノ頭陀笑テ不レ語ラ。拶云、是何ノ消息ソ。代云、丹鳳含ニ玄珠一ヲ。世尊ノ金波羅花ヲキツト拈ネンゴザアル処ヲマヽ迦葉ノ微笑ガ金色ノ頭陀ノ笑タゾ。不レ語ト云ワ、向ゾト述ラレヌ処タゾ。ナセナレバ、密語ト云ニ語ハ無ゾ。是ワ何タル消息タゾ。代ハ、頭陀ノ笑ガ、丹鳳ノ俜デ玄珠ヲ含タゾ。笑ト云イ、含ト云ワ、一タゾ。玉樹ニセイチスト云┐、世尊ノ処ヲ帯ルゾ。夫ワ丹山ヲ下タ┐ヨ。是ワ、本覚門裏、内紹計ノサタタゾ。私云、世尊ワ五十二位ヲ至マヽ至テコ――ル呈ニ、始覚内外々紹ヲ走ゾ。

●不レ經ニ化城ヲ一争カ得ンレ到ニ寶處一ニ。代、縞衣露ユ湿ウテ不レ知レ重┐マヽ千尺ノ寒カン（15ウ）衾到レ頂キ時。台刀敬之簡和尚、水ハ遶リ沙ニ明ニンノ倦翼ク垂、冥々トメイノ欲スレ返ラントル旧棲枝、縞――時。江湖集ニ有之。

●化城トワ、至ノ一位ニ、宝処トワ、到ノ一位ダゾ。化城デ廿年世年、縦イ家山ニ至リ得タヲモ、マダモ化城タゾト嫌イ落サレテ、師家モ嫌ウス旨モ無ク、学者モ呈セウズ道理モ無ク、ウツトヽメ居タ処テ、宝処ヲ見タゾ。代モ、二千年ヘタヲ縞衣ノ鶴ト云ワ、亦呉国ノ絹ヲ縞衣ト云タゾ。二千年カ間ダ。月夜ノ霜氣ニ子ラレテ、羽先キヲ爪先キモ呉国ノ絹ヲ展タ如ク末白妙ニナツタガ、化城ノ經羊タゾ。露イトウ物ナレ|モ、不レ知レ重キ┐ヲト云ワ、

イトヲウズ伎倆（キリウモ）無ゾ。爰ヲ自然ニ足ヲツマタテタ処ガ、千尺ノ寒枩至レ頂ニ時、宝処タゾ。翼サニ展ベ羽打ツタト見テワ、曲モ無ゾ。ツルワ、鳥道ノ主ナ呈ニ、鳥道デ玄路ニ通ジ、刧不刧ニ通ジタ「タ。私云、千年ヘタヲ丹頭ノツルト云テ、頭赤シ。亦三千年ヘタヲ玄鶴ト（16オ）云テ、末黒ヽ。是ヲ三位ニ合スベシ。丹頭ノツルワ、自己ヽ。マダ一点モシロイ処ワ無ゾ。扨、縞衣ワ滿身白色ナ呈ニ、知不到一色ノ功（コウ）ノ主ヽ。

●小参ニ、僧問、浄躶々赤洒々ノ時如何カ行履ヽ。師云、空刧已前ニ無ニ所住一、此人終ニ不レ渉（ワタラ）ニ思惟一ニ、如何領會セン。代、誰ソニ無ニ喜識一。是ワ向上ノ貧処ヽ。代ハ、誰トワ浄躶々——ノ人ヽ。烟□（嶺カ）ノ帯ヌヽ。浄——洒々、空刧已前——惟ニ渉ス無ニ喜識如此形見〳〵〳〵。

▲堅固法身。代、中々ニヨワキワ己ガ力ニテ柳ノ枝ニ雪折ワナシ。

▲玄沙三白紙。代、白紙ヲ結テヤルゾフシト讀（ヨメ）惑ニムセビテ書ヌ玉章。

●空刧已前自己如何。代、中々ニ人里近ク成ニケリ餘リニ山ノ奥ヲタツ子テ。

▲到喫茶去、不到喫茶去如何。代、賤モ賤カラヌモ鳥邊野ノ烟ノ色ワ替ざりけり。（16オ）

●佛法与世法諦化（諦）如何。古老代、万法雖ニ滅尽スト、本無ノ一法ワ不レ滅。

●林間ニ煖レ酒ヲ焼ク紅葉ヲ。梅芝代、単刀直入。取句、奉功（山野人ノ）妙旨（肌也）不レ渉ニ玄微一ニ。〈無極大極ニワタラヌ「ヽ〉。

●月明月不レ知レ秋ヲ。代、猿澤池ノ意ニ身ヲハシテ無ニ見ル人一モ秋ノ夜ノ月。

●十二時中空ク不レ過時如何。掬ハレ水ヲ月在レ手ニ、弄ハレ花ヲ匂滿ツレ衣ニ。

●不可得安心。長牛和尚代、有明ノツレナク見ヘシ別ヨリ——シ。

●手ニ不レ執レ經巻ヲ、常ニ如レ是ノ經ヲ轉ス百千万億巻一。代、一片ノ白雲横ニ谷口一ニ、幾多ノ皈鳥自ラ迷レ巣ニ。月泉代、十二時中出息入息。無学代、徒ニ送ル月日ワ無カリケリ[illegible]ノ二字ノ有ランカギリワ。

●如何是吹毛剱。代、座（イナガラ）見雲起ル時。〈心ワ、山賤ガ雨ガフルゾ柴ヲ入ヨト云肌ガ、ヨクキレヌケン〉。

●尽大地是清浄法身、向カ何ノ処ニ灌浴。代、暁キ紅經ノ濕（ヘテ）レ処ヲ花モ重シ錦官城。代之心ワ、尽大地ガ金色ノ光タゾ。扨何ント灌浴申スゾ。代ハ、暁——城ト云ワ、内裏（17オ）禁中ノ薗ノ籬ニ立テ見ルニ、シヲンリンダウニ白玉ガタンブト印ジタソ。サツトワ寫下シ〳〵タガ、其侭金色ノ如来ノ灌浴シ羊タゾ。

▲盤山云、三界無法、何処求レ心ヲ。代、白月長空ニ下ル雪花一。

●馬大師不安。日面佛月面佛。無極代云、サレバ方々御聞

走ヱ、美濃ノ国道香ト云禅門カ、鏡鐘ヲ打テ、日出バ死ナバヤ南無阿弥陀佛、月夜ニ死ナハヤ南――仏。如レ此道香ワ釈迦ヲモ越ヘ達磨ヲモ越タゾ。

●寒来重レ衣ヲ、熱来レバ弄ス扇子ヲ。代、箭鋒相拄。心ワ、寒スル則ハ普天普地寒タゾ。時カ、箭――拄タゾ。普天ガ熱テ拄タゾ。

●如何是愁意。一劦代、梧ノ葉モ□分離ク成ニケリ必ス人ヲ待ト無レバ。

●法々住ス自位ニ。代、蝦蟆飛過梵天ヲ、眉毛久在リ眼上ニ。

●如何是本来面目。無極代、樵夫樵(キコ)リ深雪ニ、漁夫釣ス沙頭ヲ。(17ウ)

●却テ將テ錦樣ノ鶯花ノ地ヲ、變ノ作ス元暉(キ)ガ水墨ノ圖ト。了州代、関。

●四海浪平ニノ竜眠リ穏ヽ。代、七顛八倒。心ワ、四――穏ト斗リ見テワ、窠窟タゾ。大海ニ浪ノドウ〳〵ト飜リ、竜ワキリ霞ヲツカンダガ、穏ナ「タゾ。代、七――飛ス者ワ、トビ走ズ者走タゾ。時、天下太平ナ叓タゾ。

●施主受生、二リ倶ニ瞎漢(カン)。代、翡翠踏飜ス荷葉ノ雨メ、鷺――烟リ。

●施主受者亡者。拶、三輪清浄、一轉語下来。代、活鱍々地、只是無根株。

●寒炉ニ無ク火、獨臥ス虚空ニ。凉夜無ノ灯ヒ、獨リ到ニ天明ニ。代、あさ鳥の夜寒をねふる月影かな。

●毒龍行ク処不レ生レ草。代、雲掃テ長空ヲ巣レ月ニ鶴ル、寒清入テレ(18オ)骨ニ不レ成レ眠リ。

●可レ憐龍泉三尺ノ劔ン、喚テ作ス陶家(トウカ)壁上ノ梭(サ)ト。代、幾度カ酔テ皈ル明月ノ夜、笙歌引入ル畫堂ノ前。

●滿院薔薇ノ雨、躍イ出ス架頭錦。代、日面佛月面佛。

●孤輪獨照江山ノ静、自照一聲天地驚ク。代、近日官令稍(ヤヽ)嚴。取句ニ、不レ許ル攙(サン)行奪(ダツ)市ヲ。

●胡蘆掛テ壁ニ風ニ吹落ス、驚ニ起ノ法身ヲ蔵ニ斗牛ニ。代云、正偏互(下)レ交(上)混ス常流ヲ。

●霊魂中有今欲ヤ何処カ為皈セン矣、請道和尚一轉語。春行万国春ニ無レ跡ト、月印シテ千江ニ月不レ分。(18ウ)

●岩松擋ニ風籬槿ン綻トキレ露ニ如何、請一着。是ヲ謂也涅槃、後ニ有トハ大人ノ相。

▲千佛僧供養、不レ如供養一个無心道人。代、雁過テ長空ニ、影沈ム寒水ニ。雁無ニ意照ノ思イ、水ニ無ニ沈影ノ意ロ。

●菊ハ垂ニ金秋ノ露ニ、石ハ古車ノ戴レク轍ヲ。代、有レ節非レ竹ニ如三三星繞カ月弓ヲ。

●物外幽然トノ無ニ此ノ叓ニ、日上(タケ)テ三竿ニ猶ヲ更ニ眠ル。代云、六塵不レハ悪マ、還テ同シ正覺ニ。

●古徳云、釈迦如来久遠〇中。代、白露――枝。

●天作過(培芝)ハ有レ道、自作過不レ可レ道。代、乞食沙門鵝鳥呑レ

玉（19オ）顯二死後一。

●釈迦老子云、一切法不生、一切法不滅。代、（盛庵）夜間蚊子觜如一針。又代、水従竹邊——香。

●霊前来ハ輪廻業、不来無用膳。代、通夜嵐ニ瀧の砕てちる玉ことにうつる月影。

●荒立則三宝荒神意、若易則本有如来。代云、芍薬花發菩薩面、椶櫚（シュロ）葉散ス二夜叉ノ頭一ヲ。

●百骸——霊。代、自己身蔵尽ノ遍界影現ス。代、千林凋落ノ枩猶青シ。

●先師遷化ノ肉猶暖、作麼生是レ先師ノ肉。左膊不レ曲。（19ウ）又代云、諾。

●長沙云、従リ二眼根一源返ルヲ名テ為ス二文殊一ト、従二耳根返レ源名テ為二観音一、従二心地返レ源名為二普賢一。拶云、未審、源頭何處ソ。代、花柳巷中ニノ呈二舞戯一、九衢（キウク）承酔ノ臥ス二楼臺一ニ。

●春風ニ狂乱ス酒店（テン）ノ人。呑翁代ニ、春風——人。代、即。

●是真精進、是名真法、供養如来。花刕代云、瞠（セウ）〈ヒトミ〉目（死人ノ眼サシ）不レ見レ底ヲ。

●鬼前（スタ一他）落ツ二風前一ニ。代、無シ。何處モ句ヲ。云、語ヲ云ヘバ、自然デ（爾カ）ワナキ也。

●經首題ス二〈〉字一ヲ、以字不定、八字不是。拶云、是那个ノ文字ソ。代云、倶胝竪ツ二一指一ヲ、芭蕉拈二拄杖一ヲ。取句、披毛従レ之、作佛モ亦依レ他ニ。

●水椀趯却ス。代云、只有二普願一ノミ独リ超二物外一ニ。（20オ）

●野寺ノ鐘声来レ枕ニ。古老、好夢ヲ醒シタヨ。又、夢惺サウトシタレバ。

▲如何是無寒暑。代、此ノ位ニ無二賓主一。又、無向無背、理叓泯絶。

●如何是正當極陰ノ句。シツカン代、書亦不レ達セ、信亦不レ通。

●中原一宝。天嶺代、好漆色猶鮮也。

▲曹山霊衣。同代、江月照松風——所。亦、春風狂——人。

▲趙刕三佛。同代、知个虚空不レ掛レ針ヲ。

▲形山秘在。同代、方木投二圓孔一ニ。

▲三身説法。同代、風暖ニノ鳥声砕ケ、日上（タケ）テ花影重ル。

●眼々相語ル真實ノ不レ友ニ。如何是不尽ノ友。代、北窓古人邊シ、一讀三四度。

●洞山和尚有リ二三路学一、一句道將チ来レ。代、点。々トワ、路三トモニ点バ、其コ〳〵デ、形ノカワレバナリ。只タ点々迄ヨ。三路〔モ〕ニシトメヌ〕〈。点々ナリ。（20ウ）

▲五戒之代。一殺生。代云、西風一陣来、落葉兩三片。二偸盗。代、鏡ハ分チ二金殿ノ燭ヲ、山麿二月樓ノ鐘一ニ。三邪婬。代、雲（クモ）ノ無レ生二嶺上一ニ、月ノ有リ落ル二波心一ニ。四、妄語。代、溪声廣長舌、山色清浄身。五飲酒。代呑二巨海一ヲ芥ニ納ル二須弥一ヲ。已上畢了。（21オ）（21ウ）

●五千經巻繰(クル)レ絲ヲ口、老蠶自縛メ入ル二羅籠一ニ。●昨夜心身脱落ノ時、無レ端相逢伊ハ是誰ソ。●衲僧境界是大海、我宗ノ佛法流テ入レ胸ニ。●平生錯テ作ス二百年ノ計一ヲ、人間万叓一夢ノ中。●衲僧境界別ニ無二造作一、月ヲ見々テレ花ヲ只静カ〻。●本来面目ニ無二生死一、春在二梅花一入ル二画圖一ニ。●随光流レ不レ滅、真機觸処ニ生ス。

●影ヲ借テ全ク露ル大一坐。●一身走テ徧ン二四天下一ニ、寸歩依(イ)然トシテ不レ出レ門。●七凹(ヲウ)八凸(テツ)無二人ノ識一、百手千頭モ只自知ス。

●衆生若シ無我ナル則バ、我(女)面何ソ異ラン二仏面一ニ。●昨夜金鳥飛テ入レ海ニ、曉天依テレ旧ニ一輪紅ヽ。昨夜旧年ノ風、今朝新出ノ雪(ユキ)。

●一機一境、一言一句、皆含テ二法界一ヲ叶ウ二心如一ニ。●十二時中末后ノ句、坐臥經行入ル二涅槃一ニ。

●無我無人無所住、金剛正体露堂々。●龍ハ吐キ二長生水一ヲ、魚呑ニ無尽ノ漚一ヲ。●古佛位中ニ無二覓ル処一、深々タル草裡露ス二全身一ヲ。●六根各ノ有リ二一能一、吹毛無能ニメ尓モ住ス二四个所一ニ。(22オ)●今身四天共ニ凋落、万像森羅髑髏身。

宏智(ワンチ)古佛八句、第一、一段ノ光明亘二古今一ニ。拶メ云ク、如何是レ一段ノ光明。良久メ云ク、夜半虚明(ハンキョメイ)、天暁隠懐(チャウヲン)イ。云ク、此一段ノ光明ト云ワ、塵刧ノ大叓、空刧已前ノ自己也。人々本源ノ根本智也。此ノ本智ハ夜半ノ(22ウ)黒ニ有ル則ンハ明也。不レ堕レ黒ゾ。亦タ天暁有ル則ンバ隠懐デ白ニモ不レ堕ヌゾ。此主人公ワ、今時ニ有則ンバ、白漫(マン)々ノ処ロ黒漫々。又タ、久遠ニ有ル則ンバ、黒漫々ノ処ロ明イ歴々(レキ〻)也。故ニ古今ニ亘ルト云ヱリ。亘ルト云字ワ、白ニワ黒ト亘リ、黒ニワ白ト渡ルト云儀也。山僧ガ著語恐(ゴラソラ)クワ驀(マク)直クデ走ゾ。能々眼ヲ付テ看ヨ。是ワ、又目前ノ量畧ク也。第二、有無照(23オ)破メ脱ス二情塵一ヲ。拶云、如何ンガ承當セン。打テレ手ヲ放(ハウ)身メ云ク、端的失ニ端的一ヲト云ワ、有無増(僧カ)愛ノ妄病ヲ脱ツ却クスル端的ヲ々々ト承當スレバ、情塵トナル也。有無ヲ離ル直下(ゲ)デ端的ヲモ失スル也。是大叓ノ折角也。第三、當頭觸着弥天罪。拶曰ク、作麼生ンカ委悉(シツ)セン。以テレ手ヲ拄ル勢イヲ作シテ云、當――罪。端的ヲモ失シタ當頭ヲ卒度モ觸レタ郎(23ウ)ニワ、解脱ノ塵坑ト成リ、扭械枷鎖ト成リ、出ツ期(ゴ)アルコトナカルベシ。是ヲ自己ノ轉却クト号ス。此ノ末下ガ大用現前、不存ン軌(キ)則ノ境界也。サテコソ、後ノ語ニ轉処ヲバノベタレ。第四ニ、退歩承當特地新タヽ。拶曰、如何ンガ領會(レウヱ)セン。代云、照尽キ体無依(タイムイ)、通身合大道。ト云心ワ、退クト云ワ、屋ク裡(ヲク)ヱ退ク義(ギ)也。前ノ書ニ分明ニ注脚スルガ故ニ不レ註レ之ヲ也。(24オ)承當ト云タトテ、軌(キ)則在ルニ非ス、不知ヲ不知(チ)ト持ヌ時キ、照尽キ体無依也。不知ワ、千佛ノ真智也。真智ヲ大用現前、不存軌則ノ境界ト挙ス也。其ノ真智ヲ忘ジタ呈ニコソ照尽キ体無依デワ走ヱ。トキ、通身合大道也。大道ト云ワ、特地新タナ風光ゾヨ。コヽニ在ル紫極宮中也。第五ニ紫極空中ニ烏ス懐レ卵(カイゴ)ヲ。拶云、如何是烏抱レ(24ウ)卵ヲ底。云ク、含生不来。心ワ、機空刧ニ不レ沈旨明ケ

シ。位裡ノ轉則トマ、見間ミキジキコト也。以前ニ兼中到ニ分明ニ註ス。此コニ位裡ノテンソクノ旨ヲ含ム也。去テコソ、銀河波底ニ推ス——輪ヲ、第六、拶云、是那个ノ消息ゾ。急ニ眠起スル作レ勢イヲ云々、玉女回レ首ベヲ看ニ曉信一ヲ。ト云心マ、銀河ヲ不点也。共功也。波底トワ、功々ゴウ〳〵也。烏ス抱ク卵ヲ底一處也。ソコデ、(25オ)推ストワ、月光ガ卒度耀ク也。初生ノ月キナルベシ。輪ヲ推トマ、含ム機ガアルゾ。兎輪マ、月輪ノ叓ナレドモ、兩意ニ持セテ云義アリ。卒度轉測スルガ、如来ノ正法輪ノ轉スル○始也。正法ニ云ワ、烏卵ヲ抱ィタル境界也。コヽヲコソ、千ン聖モ傳付シ来テ走ソ。是ヲ正法轉処ト云也。第七ニ、是レ須ク妙手ヲ携、来ヲ用ユ。拶云、妙(25ウ)手作麼生カ携ヘ来ラン。垂テ手ヲ行ク勢ヲ作ノ云々、空懐ィニノ過レ市ヲ冷眼ニノ窺レ人ヲ。云々、以前ニ云如々、正法ヲテンズベキ始メナ程ニ、是ノ須妙手携来用、今時ヱ却ク来スル也。將来スル底ヲ放下シ〳〵ノ、肚裡ツリニ不レ立ニ一塵一ヲ、不レ立ニ一ッ法一ヲ。塵刼已前ノ大叓ニ徹ッス。然ル間ダ、却来ノトキモ、一切ヲ携ヘ不レ来ラ、一物ヲ携ヘ不レ来ヌ(26オ)トキ、妙手ヲ携ヱ来ルル也。平裡ニ若シ一塵モ立シタ郎ニワ、欠路ガ在ラウスゾ。展手ノ註ニ此ノ旨ヲ分明ニ註ス。世尊四十九年頓ン漸権實半滿偏圓ト説タモ、只ダ空壞ニッ市ヲ過タ呈ノ「ヨ。此ノ人見ルガ冷眼ダ。人ヲ窺ウトワ、人ヲ見テ賣弄スル義也。第八ニ、百億分身處々真。拶云、分身底作麼生ゾ。代云、身上出ッ水身下出(26ウ)火、或現ス大身滿虚空中。再拶云、真ノ一字作麼生。代云、天暁不露、夜半正明。是レ即チ一段ノ光明也。去テ古今ニ亘リヤウワ、分明ニ聞ヱ走ヌカ。曹洞宗ノ肝要ト云ワ、此ノ蜜示ノ「ヨ。是ヲ句々連續ッ血脈不断ト云也。休参ノ人ノ唱挙スル旨也。悟テ後ノ作業也。可レ秘々々。(27オ)

●梁山ノ觀禪師ニ僧問、古人白浄一色ノ処ニ三世正ニ心位トスル曩祖ノ血脉、傳灯一点ノ火、和尚為レニ我ガ点「ヲ灯ヒヲ願志ス。志云、肉身本有ノ之妙佛ッ、世尊迦葉笑イ不レ休。代云、以テ無叓ノ手一灌ニ無位ノ頂一ニ、白浄本ン浄無垢躰智。古人ト云テ、定ヲ無イゾ。白浄ト云テ、スツテミタコトデワ無イゾ。初ヨリ身躰ヲ汚染ンセヌ白浄(27ウ)一色タゾ。コヽヲ三世ノ諸佛ノ心位トシ、初祖ノ血脉トシ、燃灯佛ヨリノ一灯トシタソ。コヽノ道理ヲ和尚為レ我点レ灯願志ス。願クワ一点ノ火ヲ点ジ玉ヘト問呈ニ、聞ト云ィ、本ト云ワ一ッタゾ。ソツトモスラズ、カザラヌ時ガ、肉身本ノ妙佛タソ。ト云ワ、本覚ノ迦葉佛ノ外、拈花微笑ノ其ノ芬芳ガ今日ニ至ル迄デ終ニ休ヌゾ。コヽヲ正法眼蔵、摩訶大迦(28オ)葉ニ付属コソ、傳灯一点ノ火、曩祖ノ血脉ヨ。ナセナレバ、二頭ノ稱鶏火燭ヲ点ズ。師資相ィ逢テ心法ヲ傳ヲトモ云タゾ。代マ、佛ケ一代ノ説ノ間ワ、叓ノ手タソ。其ノ間ヲフリスヽイデ、チヤツト拈ジタワ、無叓ノ手タソ。此ノ手ヲ以テ付属ト云ガ、灌ニ無位ノ頂ニ、迦葉ノ頂門ニ妙流ノソヽキヤウタソ。本覚ノ無位ノ頂ト云タゾ。肉身本有ノ肌ヘ(28ウ)

コソ白浄本浄無垢躰智。初メヨリスラスミカヽス、無垢清浄タゾ。コヽヲ古人白浄一色ノ処ト云タソ。私云、白浄モ本浄モスラヌ也。躰ヲ肉身ノ心智ハ根本智也。可レ秘々々。是宗門ノ極位也。

□参終

曹山曰ク、此ノ直ニ須ト虚ノ一位ニノ全ク無シ的々一、覿面ノ兼帯ノ始テ得。拶云、作麼生是覿面兼帯。代云、礎潤テ天(29オ)将レ雨ナラントモ末句ニ云ク、雲開テ月正ニ明ナリ。類ノ十八ニ海印ノ信ノ語也。此ノ直ト云ワ、マギレヌ処ノ一位ヲ云タソ。有無ニ落ヌソ。コヽヲ的々ト二ッヲイタガ肝要タソ。アルヲモ、的々ナシト云処デ、ナヲモ深イゾ。如レ此的々ナイ一位ヲバ覿面兼帯始得ベシト云テヲイタゾ。呈ニ覿面兼帯ヲハ、ナント見ヲスソ。代ク、雨ノフラウズトキ、(29ウ)必ズ石バガウルヲウモノダゾ。是ワナントシタ道理トモ知レズ、妙ヲ得ヌゾ。コヽテ覿面兼帯ヲ譬シタソ。私云、不識上也。的々トヲイタモ、覿面兼帯ト云モ、合面睡著、位裏ノ双對也。世尊三昧世尊不レ智、迦葉三昧迦葉、不レ知不識也。シラヌガ、一般也。石バモシラ(シ脱カ)ス天モララヌゾ。自然ノ理也。巣風ヲ知ヲ穴雨知ル。又、鬼箭風前ニ(30オ)落ット云モ一ツ也。可秘〳〵。(30ウ)

［終わり］

参考資料【栃木県金剛寺蔵『泰叟派秘参』切紙本参部分】

泰叟派傳授之参

師云、訓訣之参ガ在ルゾ。先ツ訓訣之始終ヲ云ヘ。代、師ノ前ニ至テ、指頭ヲ指シ上テ、一圓相ヲ作ス。師云、ドコガ始リ、ドコガ終リタゾ。代、始終ノ無キガ、始メ終リデ走。師云、證拠ヲ。代、我今盧遮那佛。心ハ、圓相ニ始メ終リハ無ゾ。処ヲ、ドコガ始リ、ドコガ終リタゾ、ト云ハ、始終、無ガ始メ終リタゾ。句ガ、其證拠タゾ。我レ今盧遮那佛、ドコニ始終ガ在ルゾ。師云、圓相ノ位ヲ。代、始メ終リガ無レバ、三世ノ諸佛歴代ノ祖師モ、如何トモセデ置テ走。

○合封之参。師云、合ノ字ヲ云ヘ。代、以テ人口ヲ喫シテ一粒ヲ、佛祖ノ田地ヲ耕シテ走。心ハ、合ノ字ハ、造リ字タゾ。人一口是ヽ。サテ亦、三世透脱ノ知識モ、凡夫モ口ニ二ツハ無イゾ。時人一口タゾ。

○血脈之参。師云、血脈ノツリ様ヲ。代、下ヨリ上ヘツル模様ヲシテ、脚下ニ有リ通天ノ路一条ヲ心ワ、凡人ヨリ釈迦ノ頂キ迄デツルモヤウヽ。引云、佛与ニ衆生一性相平等ト云モ、向也。

○印可参。代、師ノ前ニ至テ、退身三歩而皈ルヽ。心ハ、一ガアラバ、印可デハ無ゾ。師云、退身三歩シタガ、ナセ印可デハ在ルゾ。代、施為運ノ動是心人。心ハ、為ニシタモ施

シタモ、運タモ動タモ、此心人デ印可ヲ得テ自由シタゾ。畢竟一心人ノ自由ニ昧ク。印可ノ可ノ字ニ心得在リ。可ハベクデ、上ニ在ル字タゾ。此ノ上ハ無キ儀ク。

○摩頂之参。師云、摩頂ヲ。代、師ノ前ニ入ツテ坐シテ、牙歯ヲ鼓スル事三度。師云、夫ハ何トテ。代云、金對ニ咬着シテ走。心ハ、金對トハ、本心本性本分本位ク。三度牙歯ヲ鼓スル処デ、金剛ノ正体ニ咬着シタゾ。金剛ノ正体是非ノ外ト云モ、此本心本性ニ至テハ、是非ガ付ヌゾ。時ガ、金對ノ正体ク。諸看經ヲシテ、アゲ日ニ牙歯ヲ三度鼓スルモ邪魔ノ出ヌ時、金對ノ正体也。引云、天鼓ノ希声不レ落ニ凡調ニト云モ、向ク。此句ハ、羅漢讃歎ノ吋、天ヨリ響タ声タゾ。此調ベハ、凡人ノ耳裡ニ落ヌゾ。天鼓ト云ガ、本分本位ノ希声、妙音妙声タゾ。時キ、凡調ニ落ヌク。引心ハ、牙歯ヲ鳴スト、天鼓ノ希声ト一意ク。門中ニモ當時泰叟派御秘参ク。

勃陀勃地参。師云、勃——地ノ位ヲ。資、下ヨリ上ヘ見上ル目ヤウヲメ云、通ウ。師云、ソレハ、ドコヘ通ジタゾ。通処ヲ云ヘ。資云、釈迦勃陀——地、證契即通、迦葉勃——地、代々書ク、某甲勃——地、證契即通。心ハ、出興西来此ノ方、今日ニ至ル迄テ、如此通ジタ一ゾ。

亦一様、勃——地ノ位ヲ。代、一心。師云、ソコデ通處於。代、佛祖ノ命脉、證契即通、某甲即通。師云、傳底ヲ。代、無心傳底。是ハ補陀寺デ如レ此也。

亦一様、勃——地ニ至リヤウヲ。代、師ノ前ニ至ツテ只坐ス。心ハ、是ガ勃——地測底ク。那境界ク。圖モ是ク。○是ハ涅槃妙心トモ云ク。勃——地ハ、佛陀佛地ク。坐ノガ、爰ニ至リ様ク。

續松之参。雪峰火焔裡、趙州無賓主話、類則也。

師云、三世諸佛向ニ火焔裡ニ轉ニ大法輪一様ヲ。代、二頭照鶏点ニ火色一ヲ、師資相逢テ傳ニ心法一ヲ。師云、ソコデ九紹ノ密処ヲ云ヘ。代、續松ハ九ノフシデ走。師云、何ント頂戴シタゾ。代云、兩手ヲ開テ、額ニ當テ挙ス。師云、着語ヲ。代、好手々中呈ニ好手一ヲ、紅心々裡中ニ紅心一ニ。私云、マツ裡ト云ハ、此ノ一圓相ノ一ヨ。火ト云ハ、心火ノ一ヨ。一心法ノ一ク。大法輪ヲ轉ズトハ、相續ノ一ク。呈ニ、挙処モ二頭——法一ト云ハ、世尊、迦葉出逢テ、烏婆羅窟ニ於テ、密付ノ時、第六天魔王ガ、蠟燭ノ火ヲ吹キケシタゾ。処ヲ、二頭ノ照鶏ガ、火色ヲ轉ジテ、此心法ヲ傳ヘタゾ。其レニ仍テ、今マニ続松ヲ以テ傳授スルゾ。亦九紹ノ密意ト云ハ、照鶏ノトサカ々、九ツ在ツタゾ。其レヲ表ノ続衾ヲ九ノ節ニユイ走ゾ。亦挙処ハ、頂戴シ様ク。是ヲ続松ノ参ト云ク。続衾ヲ振ルト云モ、此心火ヲ指シツケテ、焼払ツテ教ウタゾ。ト云ハ、クワツト焼払テ、水ヲバ水ニ皈シ、火ヲバ火、風ヲバ風、地ヲバ地ニ皈シテ、空体ニ成タゾ。体ガ在テコ

ソ、闍羅ノ鉄棒モ當ウズレ。呈ニ、句モ続松ヲヲツ取テ、急ト拈スル、此ノ好手々中ニ呈シタ心火タゾ。紅心——裡ト云モ、心火ノ「ヨ。呈ニ、師家ノ紅心ガ、弟子ノ紅心ニ通ジタソ。是ヲ證契即通ト云タゾ。是ハ、日峰ノ御句面〻。亦一様、太源門徒ノ掊也。代、父母初——見。心ハ、タイ忝ヲキツト拈〆、父母初生眼、悉見三千界ト見張ツタ眼デ救ツタゾ。

居士之参。師云、居士ノ定ヲ。代云、圓相ヲ作ス。師云、其心ヲ。代、師ノ前ヲ幾〻度モ行ツ皈ツ而空ヲ拶眼〆坐ス。師云、句ヲ。代、星前ノ人——室ニ、佛——由。

○悉曇(タン)ノ大叉ヲ。代、師ノ前ニ行ツ皈ツ〆、亦至テ向デ走。師云、句ヲ。代、星前ノ人臥——佛——渠(カレ)ヲ一。嗣書焼却ヲ。代、トツクト坐〆、噓一声ヲ作〆一圓相ヲ作ス。師云、是什麼ノ一火ゾ。代、二頭照鶏ガ点ジ來ツタ火デ走。師云、畢竟ヲ。代、在我三昧、我モ又不レ知。

三宝印参。師云、三宝印ノ推シ様ヲ。代、手ヲ以テ推ス模様ヲ作〆云、黄河源頭ヨリ濁リ了レリ。心ハ、源頭ト云ハ、佛頂上ノ圓相〻。濁リ了ルトハ、釈迦・迦葉ヨリ以来、無極月——某甲迄テ、相続シ来テ、道滿妙心ト血脉ヲ出スト云モ、源頭ヨリ流出〆ゾ。濁リ了ルト云ハ、主ノ「タゾ。向見レバ、源頭モ末派モ一位タゾ。時キ、順逆無碍ノ印タゾ。是ハ、當寺代々上足一人ニ如レ此傳授ス。

亦一刋(カツ)デハ、印シ様ヲ。代、佛祖未出已前デ走。師云、三宝ヲ。代、仏法僧。師云、何ントテ、順逆無碍ノ印トハ云タゾ。代云、僧法仏。心ハ。キツト拈〆処ガ、仏祖未生空劫ノ前タゾ。佛魔邪胎ヲ不レ出処也。○此一位デ走ゾ。其ヨリ仏・法・僧・一易・二義(義乃)ト始ツタゾ。爰ノ一位ヨリ、釈迦ヨリ某甲マテ、道場妙心トツギ来テ、亦釈迦牟尼仏ノ頂上ヘツリツ、ケタゾ。爰ガ、僧・法・仏順逆無碍〻。二圓〻。ト云モ、主ノ沙汰〻。宝印當レテ空ニ妙ナリト云モ、空ト云ハ、仏祖未生ノ処〻。其コヨリ重々ニ開テ、或ハ柳緑リ花紅ト出デタゾ。

尊勝陀羅尼之参。先心得ニ云、佛頂尊勝經ト云「ヲバ、何レノ門戸デモ主席ヲキンズル呈ノ人ハ、知ラデ契ヌ「タゾ。仏頂トハ、佛ノ頂キト書タゾ。只ノ仏ヲモ見サシ。頂ヲ圓クスル物ゾ。ト云ハ、一圓相ノ用処タゾ。圓相ハ、大極ノ一位タゾ。日々大極、時々大極〻。大極ヲ大極ト持ヌ時キガ、無極タゾ。呈ニ、爰ハ仏祖未生已前デ、本分ノ田地〻。爰ヲ、総ノ始総ノ極リト云タゾ。何——バ、柳緑リ花紅、人畜草芥、蝦蟆蚯蚓共ニ、爰ヨリ出テ爰ニ皈〆ゾ。爰ガ諸佛ノ頂キ〻。亦尊勝經ト云モ、陀羅尼ト云モ一ツタゾ。陀ハ過去、羅ハ現在、尼ハ未來〻。是ヲ過現未ノ三際ニ合スル〻。時キ、過去現在未来、上有頂天、下金輪水際、那落黄泉タツタ一致〻。時、仏頂一圓相、本分ノ田地〻。時、

地獄天堂ノ沙汰モ無ク、閻羅ノ鉄棒ノ當ラウズスキガ在ツテコソ。衲子、平生飲茶談笑、挙手動足ノ上ガ、無極大極本分ノ理デ無クテハ。師云ク、尊勝經ヲ。代、問訊モセズ、師ノ前ニ行テ、続松ヲ振ル如ク圓相ヲ作ス。心ハ、圓相ハ作メハ、爰ガ大極ノ一位、尊勝本分ノ田地ヽ。下炬ノ時、一圓相ヲ作スヽ。此ノ本分ノ一位ニ引付ウ為メタゾ。爰ヘハ閻羅ノ点検モ及ハヌゾ。師云、承當ニ句ヲ。代、古鏡臺前ニ不レ借レ灯ヲ。心ハ、古鏡ト云ハ、大極ノ一位、本分ノ田地也。呈ニ、爰ハ、日月星辰ト分タヌ処ヽ。時、不借レ灯ヲゾ。日中ノ时、油火ヲ消スハ、仏頂尊勝、無極ノ処ハ、照ノ沙汰無ゾ。古鏡ト云ハ、境界ニ取則バ、母ノ胎内ヲ出ヌ已前ヽ。洞上デハ、那时極則、済下デハ、三年被位ヲ開カヌ処タゾ。三鏡ト云时モ、古鏡ト云ハ、本分明鏡ト云ハ、目前破鏡ト云ハ、一息截断ノ時節ノ┐ヨ。大叓之参可レシ秘々々。

○龍天勘破之話。師云、雪ノフリ樣ヲ。代、拳ヲ以テ、我ガ胸ヲ丁度打テ、爰ガ仏祖ノ田地テ走。心ハ、是ハ、道元和尚ノ洞上ノ叓ハ云ニ不レ及、済家ノ向上迄尽ク極メテ皈朝タゾ。最初ヨリ熱滿ノ間、焔ノ間ヲクツトサマメ、暖氣無ク、胸中凉ク玲瓏トメ、表裡情忘メ、交リ物無イ肌ガ雪タゾ。爰ガ、三世ノ諸佛ノ命根命脉、烈（列カ）祖ノ骨髄タゾ。呈ニ、爰ガ、仏祖ノ田地タゾ。此境界ニ至ラズンバ、宗旨ハ建立セラレマイゾ。霊苗ハ秀テコソ。師云、三寸ノ白蛇ト成テ嚢中ニ入羊ヲ。代云、縮ル則ンバ、方寸ノ内ニ有リ。師云、廿一社ト現ジ樣ヲ。代、展ル則ンバ、沙界ニ徧シ。心ハ、三寸ノ白蛇ト云ハ、本心ノ┐ヽ。嚢中ハ境界ヽ。境界ノ平ニ収タ時、本心ハ爰ニ現然タゾ。此本心ハ、縮ル則ンバ、ト云ハ、細レバ、コヽニ在リ、展レバ、三千大千沙界ニ徧イゾ。时唯一心タゾ。一心ノ届カザル処ガ在テコソ。亦本心ノ現ズル処ヱハ、邪魔ガ面ラヲ向ケヌゾ。サテコソ、本心ガ佛法守護ノ龍天ヨ。師云、着語ヲ。代、我為法王、於法自在。心ハ、本心ニ能ク渕底スルガ、法ノ王タゾ。法王ト成タ时キ、法ヲバ何ニトモ作シタゾ。弄ジタイ侭タゾ。師云、畢竟ヲ。師ノ前ニ突兀ト坐禅ヽ。心ハ、是ガ心王ノ収羊タゾ。心王ノ好ウ収タ时キ、仏法王法平等性智、タツタ一枚タゾ。时、心王ガ佛法守護ノ龍天タゾ。如レ此見コムガ、勘破シヤウ也。門戸ノ大事也。四派皆同キ也。

白山妙理大権現。師云、白山ノ定ヲ。代、白ハ千山ノ雪、山ハ不変ノ孤峯テ走。師云、妙理ヲ。代、主中主デ走。師云、句ヲ。代、不レ堕ニ青山ノ色ニ。師云、大権現ヲ。代、不レ守ニ那辺空王殿ヲ。切紙ニテ子細ニスムヽ。

看經ノ一句ヲ。代、夜曉テ申サウ。師云、衣ガ明タゾ、云ヘ。代、日暮レテ申ウ。師云、日暮レタゾ、云ヘ。代、来日申走。師云、着語ヲ。代、南無仏陀耶――也。南無先師和尚子孫繁栄。心ハ、是ガ主ノ看經ヽ。宗旨不断命ノ看

経〻。何レモ傳後ニ参スル〻。上足一人ニ流傳ス。末派ニ不可流布一ル。可秘。泰叟派。

月兩个ヲ。師ニ對面而坐ス。師云、着語ヲ。代、君モ以テ二此ノ明ヲ一於レ上ニ照シ、臣モ以レテ此ノ明ヲ一於レ下補ス。是ハ、格叟之挙着也。

布州和尚ハ、着語ノ時、大指ニ人指シユビヲ低ク當テ、君モ以テ二此明ヲ一於レ上照シ、亦人指シ指ヒニ大指ヲ低ク當テ、臣モ以テ二此明ヲ一於レ下補ス。亦指ヲトチカ子ニ入レチガヘテモ、着語ヲスル也。

亦補陀寺デハ、模様デ挙ス也。○此モヤウデ挙ス〻。是ハ、相續斗デ、月ノ見ヤウガ聞ヘヌゾ。師云、兩个ノ月ヲ。代、兩方ノ大指ヲトチ金ノ如ククミチガエテ云、重離六爻ト云〻。心ハ、トチ金ヲクミチガヘテワ、自由デ、亦相離レヌ者タゾ。金鎖環相——断ト云モ、向タゾ。畢竟ハ、石胎蛇々胎石デ、始本不二一枚〻。處ガ、到ノ一位也。

亦龍穩寺デハ、一弾指如何ト請〻。同ジナガラ、君臣合道ト、亦月ノヨシノ聞ルヤウニト請〻。代、君以此——補。心ハ、月ノ東嶺ニ上ルヲ見テ、一弾指タゾ。ソノ當頭ヲ述ベタゾ。君与臣ノ二、明与照ノ二ツヲ、兩个ノ月キ（ママ）ニ持セタゾ。畢竟君臣合道不二ノ処タゾ。石胎蛇々胎石、蛍（ママ）山・峨山タツタ一枚タゾ。爰ガ、洞上ノ兼中到タゾ。川叟派、重離六爻ト挙スモ、同心ヘタゾ。在レドモ、種草斗デ、月ノ由シガ聞ヘヌゾ。是モ二ツ卦ヲ重ヌレバ、重離六爻ト、兼中到ノ一位ノ卦体タゾ。師本不二一、相續不断也。一弾指肝要也。

了庵和尚、月ノ兩个ヲ御出シ在ツテ、直繞家門（潜カ）、紹続——児ト被成タゾ。泰叟派デ、傳後兩則トハ、不識上・當則是ヲ云〻。最初兩則トハ、大死底・主人公是也。子細ニハ、圖ト切紙ニテ明白ニスムベシ。

不識上ノ一句。師云、不識ヲ。師ノ前ニ至テ、如何ニモ静カニフラリト〳〵ト睡ル〻。心ハ、一氣ノ大極ヘ移ル境イノ時節〻。極睡ハ、摸様肝要也。師云、上ノ句ヲ。代、不覚思量暗点頭。藥山非思量ナドモ、爰ヘ来タ〻。此ノ摸様肝要〻。師云、上ノ一句ヲ。代、不覚思量暗点頭。藥山非思量ナドモ、爰ヘ来タ〻識トハ、目前ノ叓〻。師云、上ノ一句ヲ。代、不覚思量暗点頭ニ合セテ聞ルヤウニ説破セヨ。代、不覚不識暗点頭ト云ガ、則チ上ノ一句デ走。畢竟是マテ〻。上参〻。節庵ノ代ニ、風蒲——自由一。此句ハ、山谷ガ遠嶋セラレテ、吾ガ境界ニ比ノ作〻。此兩則ハ、無極和尚片カナノ目録ノ内デ、別而秘参九拝。

○泰叟派傳授之作法、道場荘厳之儀式、諸門徒共、大概如レ此也。

受者一七日ノ間、諸堂・順堂・焼香祈念、無懈怠可レ勤レ之ヲ。威儀ニテ譖（潜カ）カニ入室スヘシ。向レ南ニ立ニ卓子一ヲ。打敷・燭臺・花瓶・松・香炉、卓子ノ上ニ置クベシ。先四方ニ四天王之礼ヲ押ス〻ヘ

シ。卓子ノ回リニ地布ヲ敷ベシ。卓子ノ上ニ主位ニ血脉、客位ニ續松、洒水松ノ枝ニテ洒ク□一ツ。師資共ニ問迅（訊カ）焼香。師ハ東ニ向テ西ニ立ツ。資ハ西ニ向テ東ニ立。資先坐具ヲ展、資其上ニ坐具ヲ展ブ。掛テ三度ニ荅拜ス。互ニ坐具ヲ展タ。心ハ、資ハ陽、出世、師ハ陰、不出、陰陽・出不出・君臣一如ノ心持チ。師資共ニ坐具ヲ蹈マズ、順ニ回テ、資ハ西、師ハ東ニ立テ、焼香門迅（訊カ）三拜、答拜而坐ス。互ニ拠坐良久。師洒水ヲ取テ、資ノ頂キニ三度洒イテ、唱テ曰、

・南無皈佛（依脱カ）水、・南無皈依法水、

・南無皈依僧水、ト云々。

洒水ヲ置時、師我ガ頂ニモ洒ク也。師云、続松ヲ九節ニ結タ心云ヘ。代、九紹ノ密処デ走。師云、火焔裡ノ定ヲ。代、二頭ノ照鶏含ニ火色ヲ来ル。師云、火焔裡ニ向イ様ヲ。代、世尊ノ坐具ニ迦葉ノ坐シ、迦葉ノ坐具ニ世尊坐。師云、大法輪ヲ轉シ様ヲ。代、両手ヲ展開ス。自（ヨリ）レ是門戸テ相對ニ用ル也。

師、続松ヲトボシテ血脉ヲ開テ授テ云、一圓相ヲ云ヘ。代、心ノ一字テ走。師云、傳様ヲ。代、三世歴代今日ニ至テ、我今盧遮那佛。亦云、圓通太虚、無欠無餘。師云、ツリツヽケタル心ヲ。代、無始無終、宛轉無窮、尽未来際、莫令断絶。師把テ二続松一ヲ嗣書ヲ付属ノ云、勃陀勃地ヲ。代云、佛陀ニ上セ、佛地ニ上テ走。師亦弟子ノ頂ヲ三度摩頂ノ、世尊ハ迦葉ニ付属シ、迦葉ハ阿難ニ付属シ、如此嫡々相承而七十世、吾ニ有テ二正法眼蔵一不レ残付二属汝一ニ、尽未来際莫レ令レ一ニ断ニ絶セ佛種一ヲ。是ヲ呂ノ偈（ケ）ト云ク。亦呂参トモ云ク。資曲躬叉手。師云、生死亘大、無常迅速、能ク護持セヨ。資低頭拜請ス。師、弟子ノ二字ヲ乳ヲ呑勢ヲ作ス。是ヲ以テ血脉ト云也。是ヲ摩頂ノ参ト云ク。師本不二ヲ。資、師ニ抱キ合テ合面シテ云、両鏡相照於中無影像。師血脉・嗣書ヲシタ、メテ、資ニヒカヘサセテ、合ノ字ヲ書摸様在リ。亦紹是功紹了不其功。畢竟心得ハ一心也。師、嗣書ヲシタヽメテ、拈華ヲ云ヘ。資、嗣書ヲ指上ル。師云、微笑ヲ。資含レ咲ヲ。取様在リ。口傳。句云、二虎ノ下獣不レ入レ蹄ヌル類ゾ。血脉ノ参。合封参　摩頂参　印可参　合血参　訓訣参。何レモ爰デ可レ参ル。師、血脉ヲ持テ、大圓——藍ヲ。資（シ）手ヲ以テ圓覚ノ摸様在リ。今日ヨリ以後ハ、我レト伽藍ヲ守護シ申ウ迄ヨト云テ、懐中収ム。

師云、血脉ノ頂ヨリ下ニツリ下ゲ、亦下ヨリ頂ニツリ上ル心ヲ。資曰、脚下ニ有ニリ通天ノ路一。心ハ、脚下ニアル向上ク。焼香九拜而後、師ハ客位ニ回リ、資ハ主位ニ回テ問訊シテ坐ス。師三ニ拜ス資一。是ヲ師資ノ礼ト云ク。傳授畢テ、侍者金樽一對出ス。片〳〵開テ、師資低々唱三々祝ス。道場ヲ開ク也。訓訣ヲ。心得ワ、訓ハヲシユルトヨムク。訣ハ、要訣・秘訣・妙訣ト云テ、密語ク。師ノ弟子ニ對ノ密ニ口傳ノ訓ルノ

義く。師向テ二嗣書之圓相ニ一以向テ二我面ヲ一圓相ヲ作シナガラ、云、清浄法身佛勃地(陀カ)勃地。亦、以テ二我面ヲ一圓相ヲ作シナガラ、千百化身勃陀勃地。亦以テ二我我(衍カ)面ヲ一圓相ヲ作シナガラ、諸仏諸祖勃陀勃地。亦以我面ヲ一——作シナガラ、和尚勃——地。亦以我面ヲ一圓——ナガラ、某甲シ勃——地。如レ是弟子ニナリ代テ、口傳セシメテ訓ルく。師云、恁麼ノ时如何。亦弟子ニ代テ云、佛祖ノ命脉證契即通。心得ハ、梵ニハ、謂——地。此ニハ謂ウ佛陀仏地、佛陀ハ、仏体く。佛地ハ仏所く。仏所トハ、〇、是レく。諸仏共ニ〇此佛所ニ至ルガ、證契即通く。

亦、勃陀勃地、

師云、勃陀ノ到リ二勃地ニ一樣ヲ。弟子向テレ師ニ、只何心モ無ク児童ノ坐シタル如ク坐ス。白色白直ノ児童ニ落付クガ、勃陀也。何ンノ心モナク坐シタル処ガ、到二勃地ニ一タル┐也。師云、徹證ノ句ヲ。云、唯但(タン)ノ二字ハ、離ル二餘縁ヲ一。心ハ、唯但ノ二字ハ、タヾトヨムく。唯ダ坐シタル時、餘縁ニ不レ渡く。是仏所ニ到リ羊く。扨少モ心ガ在テ坐タラバ、余縁ニ渉タ┐く。圓相ニカドノ出タル┐く。師云、猶モ勃陀ト勃地トノ聞ル羊ニ、着語ヲ。云、仏子住此地、即是佛受用。仏子ハ、仏弟子也。何レノ仏弟子モ勃地ト云、此地ニ住メヨリ、竪説横説メ、人天ノ為ニナルガ、即是佛受用也。呈ニ、佛子ガ勃陀、此地ガ勃地也。可秘々々。

△血脉相傳之参

〇傳授三年後教授戒文渡時、此参可レ許。

師云、先ツ血脉ノ定ヲ。資云、日月デ走。私云、此心、深々妙密ノ旨在レ之。能々可レキ参ス者也。大極(月ノ雨个の圓く)無極也。佛頂上く。〇此相ヨリ祖々ノ名字出也。新受者ヨリ朱ヲ引ク。本トノ佛頂上ニ引上ス事、日東方ヨリ出テ西方ニ沈デ、亦東方ヘ上ル、是圓相也。即チ日月也。畢竟血脉者不断之義ニ収也。宏智古佛八句ヲ頌ルノ┐、本位者、日月ヲ題スル也。是レ血脉也。亦永平和尚血脉ヲ回向經ト号スレ之ヲ。亦一説ニ、日月デ走ト云下ノ拶ニ、亦何ントカ云ハン。云、回向經トモ云イ走ゾ。如ク此ノ参ジ玉フ人モ在リ。師到テ二正面ニ一向二椅(イ)子ニ一礼ス。此意旨如何。資云、諸法空為座。亦無相ガ實相デ走。私云、七仏以来無相ノ人ヲ傳授也。師云、凡聖一ツ道場ニ立ツル意旨如何。資云、是法平等、無有高下。又云、圓通太虚、無欠無餘。師云、洒水ヲ以テ受者ヲ灌頂ス、此意旨如何。資云、此一滴佛種ヲ湿(ウルヲシ)テ走。師云、何ント湿シタゾ。資云、無心ニメ拈メ云、一雨温(湿カ)ス二千山ヲ一。又云、此時三世無レク隔テ湿ウテ走。師云、松根ヲ以テ湿シタ意旨如何。資云、無念ニメ拈ジタ時、十世古今始終不レ離二當年(念歟)ヲ一。私云、無心ノ時佛種ガ増長也。根久遠ニ盤リ、葉今時ニ繁茂也。念起レバ、佛種子ガ枯ルヽゾ。師云、拈拂子拈柱杖如何。資云、

如レ前ノ無心ニ〆拈〆走。暫ク在テ云、三世一時デソロ。私云、爰ノ拈処モ拈花ノ心也。句云、十世古今不レ離二當念一ヲ。私云、此挙着予見二僧宝傳一ヲ、汾陽ノ照禅師云、世尊蓋以レ蓮ヲ為レ譬ト而莫三世ニ有二知ル者一。予特知レ之ヲ。夫レ蓮ハ方ニ華開クル時キ中ニ已ニ有レ子。中ニ有レ因三世一時也。其實分布〆會属〆之ニ。相續不レ断、十方無レ隔也。師云、血脉ヲ封ズル時キ、合ノ字ヲ書ス。是合血之因縁也。何ント書ウゾ。資云、朱脉佛頂上ニ不二文字一ニ、縦横如ク輪臂ノ書ク意デソロ。吾・今私云、畢竟無始無終之義デ走。至祝々々礼拜〆去ル。合　師云、嗣書ヲ書キ始ル時、以前云、不二文字一ニ、圖如何ンカ書セン。資云、釋迦牟尼佛ヨリ上ニ書キ初テ、新受者ノ処ニ引収如何。（終）是ヲ當門徒デ、天台ノ橋之圖ト蔵シ、目録ニ載スル也。此時記文録可レ用也。私云、畢竟無始無終也。私云、拈拂子、拈拄杖ハ、永平ノ天童デ椶櫚ノ拂子受ル「同シ也。細ニ在レ之。可キ見也。亦一説ハ、合ノ字以テ人一口ヲ食シ走。亦云、以二此一口一ヲ佛祖ノ性命ヲ紹ク。此理モ在リ。先師重テ云、傳授血脉之椅子ヲ南ニ向イ、北ヲ背ニ立ル如何。資云、南ハ羊、北ハ牛、羊ハ如来禅、牛ハ祖師禅。亦云、羊ハ偏也。声近レ陽也。牛ハ北タ陰也。是モ畢竟陰陽和合之義也。此理ダ。永平和尚秘密ノ書、看後不見ニ在之。示自家訓訣之圖了テ、師云、勃陀勃地ヲ。資云、能ク登テ二仏地佛陀一ニ走ト云テ、師ノ登レル座ニ。師又能ク登二佛地佛陀一ニ走ト云テ、弟子ノ坐ニ居テ、至祝々々ト云テ、師資ノ礼在レ之ニ。私云、青原一足垂下スレバ、石頭礼拜ス。是ヲ脚下ニ在二通霄ノ路一ト云、師資ノ礼也、釈迦牟尼佛、新受○者ノ名ヨリ、朱ヲ引上ル是也。予又、傳灯ノ傳心法要ヲ見ルニ、世尊召二迦葉一、同二法座一ヲ別ニ付二スルニ一心一ヲ、離二ル言説一ヲ。此ノ一枝ノ法ヲ今マ別ニ行ス。若シ能ク契悟スル者ノハ、便チ到二ル佛地一ニ云々。予云、是勃陀ハ佛地也。又引云、着二新ニ浄衣一ヲ内外倶ニ静ニ〆、安二處ス法座一ニ。又引云、垂下礼拜、至祝々々礼拜。

○頂相賛　先ヅ頂相ヲ。資云、不安ノ相デ走。師云、黒狗爛銀ノ蹄ヲ。資云、半眼開テ云、夜ガ明ケタカ。師云、白象崑崙騎ヲ。師云、日ガ晩レタカト半眼ヲ開テ挙ス。於テ此二ニ無礙一。木馬火中ニ嘶ヲ。資云、老人ノ睡テ出息入息ノゴロリ〳〵トスル躰ニ挙ス。畢竟ヲ。只死ウ迄デヨ。私云、此ノ時頂相也。生死無二也。只（畫）圖也。無心ガ肝要也。肉身ノ時モ、涅槃後ニ無二也。古老ノ云、黒狗——騎ノ蹄メヲ。云、人無心ニ〆合レ道ニ。白——騎ヲ。云、道無心ニ〆合レ人ニ、於斯——碍。云、退得無心道。亦休ス。木馬嘶二火中一ニ。皆是離ノ卦ヨリ嘶イ出シテ、又離ノ卦ニ収ル也。

合血之参

師云、合血ヲ。云、諸佛諸祖モ和尚モ某甲モ、一合ノ血脉デ走。師云、證拠ニ句ヲ。云、耳朶兩片皮、牙歯一具骨。可秘々々。

○七佛御大𠦒之參

㊥　上ノ圖ヲ云ヘ。学云、佛ヶ𠮟極月八日ニ是レヲ一見ノ悟道デ走。師云、悟道ノ端的作麼生。悟道ノ端的ハ世尊モ無ク明星モ走ヌ。師云、當位作麼生。学云、絶言絶慮、處ト𠀋無シ不レ𠀋通ゼ𠮟。師云、悟リヲ離レテ云ヘ。学云、絶言絶慮ガ悟ル処、無イ不レ𠀋通ゼガ道デ走。

㊀　此圖ヲ云ヘ。学云、黒光ガ卒度生ノ走。師云、其黒光ハドコヨリ生ジタゾ。学云、漆桶生ス黒光ヲ。師云、黒光ノ充滿ヲ。

●指此ヲ云。此圖ヲ見テ充滿シテ走。師云、何レノ時キ、充滿タゾ。代云、子丑ノ驀境イ、充滿デ走。師云、其證拠ヲ。代、按ニ午頭尾上ニ、豈レ借ニ大陽輝一ヲ。師云、其位ヲ云ヘ。代、子ノ時當正位。師云、其黒光ノ受用ヲ云ヘ。代、天暁不露、夜半正明。師云、三光ヲ一句ニ云ヘ。

卍指レノ云、是レガ三光ノ圖デ走。師云、何ントテ。代、以テ手ヲ作ニノ一圓相一ヲ云、三光ハ何レモ如レク是デ走。師云、其レハ○圓是ハ方、卍ドコヲ始トシ、ドコヲ終リトシタゾ。代、竪ニ窮ニ三際一、横ニ亘ニ十方一ニ、師云、始終ナキ処ヲ。代、空劫已前更ニ已前。心ハ、三光ヲ尽ク明メタトキ、空劫ヲ空劫ト知ラヌゾ。処ガ、空劫已前ニ無イ此話一処ヨ。覚鉄觜ナドノ先師實ニ無シト此話一答タモ、爰ノ達処ノ┐ヨ。

○師云、爰ヲ云ヘ。代、空合レ室ニ。畢竟ヲ。代、只問訊ノ皈ル也。心●黒光ノ処、何ンノ沙汰ナキ処也。心ノ沙汰モ無ク、法ノ沙汰モ無キ処、無法ガ本法也。然ルヲ、世尊、衆生ヲ渡セン為メニ、此地ニ深ク沈ンデ、一見悟道ノ処デ、此黒光ヲ發シテ、㊥、此圖、心ト見付ルモ、此黒光也。然ジテ、我与大地・有情・非情、同時成道ト見ルガ、卍、此圖デ、横ニ亘ニ十方一ニ、竪ニ窮ニ三際一。○、一圓空ノ黒処ニ皈ル也。処ガ、空合レ空ニ㮇ク。サテコソ、於レ中ニ無イ影像一𠦒ヨ。紹ギ目無キ義也。

嗣書之參

○嗣書之圓相。釈迦牟尼佛頂上ノ圓相ヲ。代、無始無終デ走。師云、無始無終ノ時如何。学、良久ノ云、今盧舎那佛。

○圓相之血脉。師云、圓相ヲ。代、無始無終デ走。師云、無始無終之時如何。代、三世佛モ、如何トモシ難ウ走。

師云、ソコデ勃陀勃地ヲ。代、佛陀佛地ニ至テ走。師云、佛地ニ到リ㮇ヲ。云、一心。師云、一心ノ通処ヲ。代、和尚能ク我レニ通ジ、我レモ能和尚ニ通ノ走。師云、何タル時節通ジタゾ。代、即チ揖ノ去ル。

○合封ヲ。代、勃陀勃地。師云、封ジ㮇ヲ。代、瞑目良久。師云、マダ合ノ一字ガ、聞ヱヌゾ。代、兩手ヲ組テ頂キヲサゲテ開テ口ヲ坐ス。心ハ、勃陀勃地ハ、佛地也。釈迦ト合封シ、三世ノ諸佛ト合封シタ┐ヘ。佛地ニ隔テ無シ、膠ノ膠ニ合シタ如ク、漆ノ漆ニ投ズルニ似タリ。機縁順熟淺カラ

ヌ者也。二虎ノ下（シタ）獣不レ入レ蹄（ヒヅメ）ヲ。

○大事ヲ。代、頭ニ衣ノ袖ヲ掛ケテ、チリヤタラリト舞也。師云、落居ヲ。代、イロハニホヘト。囉々哩々囉々、天下太平国土安穏ナリ。大事也。仁義——ガ出デ、佛法ガ出テ、霊山・少林ガ出レバ、小事也、末世也。大道ノ俣ガ、大事也。理途ニ落ヌ「ヲ云イ置クガ、大道大事ゝ。

○輪闢（リンコ）之参ヲ。代、無キヲ天ノ極リ云イ勃陀ト、無キヲ地ノ極リ謂フ勃地ト。師曰、畢竟ヲ。ツヽト入テ三拝ノ歸ル。心ハ、始本不二、一圓々々也。輪闢之参トハ、勃陀勃地之参也。

○勃陀勃地ノ参。師拶云、空劫已前ニ無シ名字一、権（カリ）ニ名ク正法眼蔵涅槃妙心ト。師云、空劫已前ヲ。代、作ス一圓相一ヲ。心ハ、此圓相ハ、嗣書之一圓相也。

傳授首尾之参。拶云、万機休罷、千聖不携ナルワ、是レ汝ガ自己。師曰、不携之自己ヲ。代、七佛勃陀勃地・釈迦勃——・達磨勃——・了庵勃——・無極勃——・月江——勃・呑察勃——地・存窒勃——地。私云、万機——携。枯木也。不携之自己、龍吟也、血脈不断也。万機休罷、空劫已前也。不携之自己、涅槃妙心也。

前総持龍穏十九世當寺開山
洪州叟（花押）

青原鈯斧子。師云、鈯斧住山ヲ。代、師ヲ推シノケテ、師ノ座敷ニナヲル。師云、何ントテ。代、天子ニ無シ父母一。心ハ、是ヲ住山ノ正的ト云イ、不レ慕二諸聖一ヲ、不レ重二己霊一マト云也。天然ノ貴胤也。内紹不出ゝ。門末デハ、長年不出戸ト云ゾ。師云、ソコデ一返消災咒ヲ。代、良久。心ハ、王ノ字也。師云、句ヲ。代、天上無二一月一、大地ニ無二一人一ヿ。高亭横走ヲモ引也。亦末々デハ、枯木龍吟ニ一返消災咒ヲ添ルゝ。

世尊拈花ヲ。代、師ノ坐具ヲ取テ上ル。師云、拈レ花来レバ、鼻把已ニ露ル。巴鼻ヲ。代、如何ニモ静カニ坐具ヲ挙ケテ、ソバニ於ク也。何ント挙スヲモ、殘黨タゾ、偏参僧タゾ、初心坊タゾ、ト嫌ゝ。向上ノ通処也。拈ノ花ガ、小玉也。微笑ワ、ウヽト通ジタゾ。鶏ノ欄干ニ飛上テ鳴クヲ聞テ、豈ニ是レ非渠（カレ）ガ声一ニ、即通也、的傳也。遥カノ楷前ニ居タ旦郎ガ、小玉ト喚ブ処デ、ウヽト通ジタ。サテ、以心傳心ヨ。活祖ト云ハ、本心ノ「ヨ。心ニ契當也。拈花□「鼻巴ニ露ル。鼻巴ワ始終也。亦、向上ノ巴鼻也。何ンデモ支ガ在ラバ、向上ノ巴鼻デハ無ゾ。

家之参。師云、馳テ書不レ到レ家ニ。師云、家ヲ。猶ヲ有ル在リ々々々。私云、終ニ不レ到レ家ニ。猶有在リ々々々、極リガ無ソ。更ニ参ヨ、三十年テ、隙ガ明カヌソ。爰ガ曹洞ノ血脈タソ。家ノ蓋覆也。十成ヲ忌ム家ゝ。書ハ文書、家「家郷也。書ヲバドコマデ馳セタゾ。不レ到レ家、々々家郷ヲ犯サ

ヌゾ。

勃陀於。代、過去ノ一佛デ走。師云、后ノ勃ヲ。代、未来ノ一佛デ走。師曰、地ヲ。代、現在ノ一佛デ走。師云、畢竟ヲ。代、三世一佛。

傳授ヲ。代、向タ坊主ワ坊主デハ走ヌ。師云、ソレワ何ントテ。代、億劫ヲ師トシテ走。師云、億劫ヲ師トノソノ心ヲ。代、サテコソ以心傳心デワアレ。

白(自カ)家之訓訣之始リヲ。代、作ノ圓相ヲ云、無始無終デ走。

師云、夫レハ何ントテ。代云、我今盧舎那佛。師云、一圓相ヲ説破セヨ。代、始モ無ク終リモ無ケレバ、千佛万祖モ如何共知リ走ヌ。師云、ソコニ勃陀勃地ノ位ガ在ソ。位ヲ。

代、一心デ走。師曰、心通時如何。代、承當即通心通、揖而存辇心通。師云、畢竟ヲ。万般巧妙一圓空。師曰、格外ヲ何ント云モ、格内タソ。ソレハ賓位タソ。客位タゾ、下賤ノ客タゾ。畢竟ハ阿誰ゾ。向上也、門裏也。亦門末デ在人、餘リ無道心ニゴ——ル。チツト手ヲ御引走ヘト云ヘバ、何ニカ容易ニワナ処ヲチヤツト立テ皈寮ク。亦サウデ走ト挙シテコ——ル古老モ在ル。千聖ヨリノ挙派ハ、即礼三拜也。引云、格外ノ之機用ノ事ハ還ス他ノ物表ノ人ニ。亦行尽千山ノ路玄機ノ亘如何。師曰、鳥道無シ蹤跡一。師云、ソコデ主弁ノ眼ヲ。代、瞎。心ハ、瞎ガ主ノ眼也。阿難ク。門裏ク。内紹ク。何ント云モ、格内タゾ。偏参腹ラタゾト嫌ワレテ後チ也。直ニ嗣法傳底ノ人ヲモマダ格内タゾ。客作ノ漢タゾ〳〵トヲツ「スガ、格外ノ機ノ用様也。亦行尽ス千山ノ路如何。云、鳥道——訓訣。云、汝ガ位ハ何ンゾ。勃——地ノ位デ走。師云、勃——地ノ位ハ何ンソ。代、無位デ走。師云、無位ヲ。代、揖而皈ル也。

・嗣書圓相之参　・圓相血脉之参　・合封之参　・大事之参　・自家訓訣之参　・拈花之参　・傳授之参　・家之参

・勃陀勃地之参　・是ハ、何モ傳授之参也。

鎮守之参　莫妄想之切紙

天童如浄和尚曰、曹洞宗鎮守之有レリ参。未了之人ト者ハ、洞上ノ不レ為ニ導師一。永平大禅佛モ明州ノ津迄御座在而、亦天童山ニ皈リ。廿日御滞留在マヽ。此ノ鎮守ノ参ヲ参得在ルク。故ニ廿日皈リノ参トモ、亦半途皈リノ参トモ云ク。師云、鎮守ノ参ヲ。代、一圓空デ走。師云、其主ヲ。代、良久。師云、夫レハ何ントテ。代、ドノ諸佛諸神餓鬼畜生脩羅人天共ニ、圓ヨリ出テ亦圓ニ皈ツタト見レバ、於穢不浄ハ走ヌ。師云、其眼ヲ。代、社堂ノ前ニテ拶眼ス。心ハ、拶眼肝要也。亦上来ノ話、卍字、没後作僧、何レモ心得一ツナリ。

●　○　㊉　卍　心　逆順縦横無碍自在之心也。圓通大虚三界唯一心一圓空ク。師云、神前ノ遶堂ヲ。代、順ニ廻リ走。師云、諸佛如来ノ前ヲ。代、逆ニ廻リ走。心得ハ、佛心宗デハ、地獄ト出タガ順ダ。逆ニ廻ル則ンバ本来ニ皈

ル〻。畢竟一圓空一位也。天地同根万物一体皆是レ〇莫妄想也。

無業和尚莫妄想。万法ヲ實相ト見ルハ、凡夫ノ妄想、万法ハ皆是無常ト見ルハ、小乘ノ妄想、万法ノ上常見断見ト見ルハ、外道ノ妄想、如幻即空ト見ルハ、圓覚ノ妄想、中道ヲ実想ト悟ルハ、菩提ノ妄想、教外別傳ト見ルハ、禅魔妄想。此外皆是妄想ヲ妄想ト見ルモ、亦是妄想ヨ。呈ニ、一生道莫妄想也。代云、可レ附二法嗣一者也。秘参也。

教授之参

師云、教授シ様ヲ。代、無我相無人相デ走。師云、何ントテ夫レガ佛意デハ在ルゾ。代、無我相無人相ノ時キ、本師之釈迦ト同座シテ走。心ハ、無我相無人相ト云ハ、釈迦ノ「〻。何——バ、凡夫ノ皮肉ヲ離レテ、無我無人ノ肌ヱダ。本覚ノ位〻。無佛世界ノ衆生ノ一代之間、殺人放火シタ大俗人ヲ佛意ニ引キ入ル、眼コハ、爰ニ教授シタゾ。ナゼ——バ、四大五蘊ヲ離ルレバ、無我無人ノ本有ノ如来ト同一位ヨ。如レ斯ノ引キ入レタゾ。

同戒文之参

戒文之授ケ様ヲ。代、上ニ不レ取二正戒ノ相一ヲ、下モ無シ邪念ノ心一。心ハ、凡聖トモニ離レタ「〻。正戒ハ佛戒也。師云、ソレナラバ、ナゼ仏戒ヲバ保ツタゾ。代、中道ノ時キ、ドレヲモ欠キ走ヌ。心ワ、正戒ノ相ト云ハ、久遠実城〻。其コニ在テハ、人天ノ為メニナラレヌゾ。下モ邪念ノ心トハ、凡夫心ヲ云〻。ドレヲモ不レ取、中道ニ到タ時キ、上下トモニ不レ欠、済度シタゾ。菩薩ト云モ走タゾ。亦本尊ナドノ佛眼ハ、上ヲモ不レ見、下ヲモ不レ見、中道ノ眼ガ肝要〻。亦背後ノ光ト云ハ、最初入頭ト云〻。最初トハ、アソコガ物ノ始リ也。亦アソコヘ凡夫ノ肌ヲ点ジタゾ。処ガ、入頭〻。向去也。時一圓相〻。大善知識ト云モ、大ノ字ハ一人ト云字〻。ト云ハ、自ラヲモ救ノ佗ヲモ度シタ人ヲ云〻。足ヲ威音路上ニ跨テ、身ヲ興化門頭ニ横ヱテ、人ノ為メニナルヲ大善知識ト云タゾ。大妄之秘参、無極和尚之唱、別而秘密〻。

永平道元和尚之御密語

萬行万善ニ為レ勝者、坐禅也。萬行万善ハ、功徳ノ有ルガ分量ニ故ニ有終リ。坐禅トハ無キ際限一故ニ為ニ勝レ謂ヘリ。廓然ト者ハ、衆生ノ根本ノ為ヲ露レ種ノ道ク也。対スル朕ニ者ハ誰ソト謂ハ、現成公案〻。現成公案ト謂ハ、坐禅〻。坐禅ト謂ハ、都莫思量也。梅ノ咲モ石ノ大イナルモ砂ノ小キモ、己ノ都テ不レ量也。峯ノ松庭ノ蓬ギモ我レ如何ニソヨク坐スルト不レ思ハ不レ道ハ也。若シ思量セバ、庭ノ蓬キモ枯レテ生ズマジキ也。是レ皆坐禅ノ在ル也。坐禅ト云ハ、我レ独リスルニアラズ。一天三千界ニ坐禅セズト云ハナシ。亦云、対スル朕ニ者ハ誰ソト云ノタトヘニ、松ヲ見テ、アノ松ハ何ントノ松ナルト問ニ、松

何ントカ答ン。此時コソ、智尽キ一切絶ノ一物モ不レ殘処ナレ。爰ヲ大難々々トハ云也。達磨モ不識ト答ヱ給イタル〻。亦阿耨多羅三藐三菩提トハ、坐禅之大叀〻。亦云、我レラガ根本ノ主トハ、無位ノ真人〻。無位ノ真人トハ、無キレ形チ故ニ位無キ〻。此無位真人ヨリ自己トナル、自己ヨリ六根ト分ル、六根ヨリ六識六境界トナレリ。亦云、坐禅ノ清天ノ如シ。或ハ月ノ如シ。或ハ清水ノ如シ。坐禅シテモ、何ント〳〵ト云者ハ、地獄ニ堕スル〻。宗旨ノ秘密〻。是則道元和尚一枚密語之切紙也。

前總持龍穩十九世當寺開山

洪州察叟（花押）